

ノニシテ又其稱呼上ニ於テモ差異アリ決シテ混同誤認ノ虞ナキモノト認ム故ニ甲第二號證商標ハ第三九九四〇號登錄商標ノ範圍ニ屬スヘキモノニアラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月十七日於特許局

審判長 特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎
同 三浦惠一

第二千四百四十二號

東京市下谷區仲御徒町三丁目五十九番地

請求人 日本蠶業株式會社

右代表社員

同 市日本橋區吳服町二番地特許辨理士 右代理人 相馬愛藏
同 市神田區駿河臺東紅梅町二番地 被請求人 杉田金之助
同 市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士 右代理人 森田尚
同 市京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士 右代理人 稻木繁太郎

右當事者間ノ第五一六八二號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 被請求人ノ第五一六八二號商標登錄ハ之レヲ無効トス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ商標第五一六八二號登錄ハ無効ナリ審判費用ハ被請求人ノ負擔トス
審決相成度其理由ハ請求人ハ甲第一號證商標ヲ殺鼠劑ニ付明治四十三年三月十日登錄ヲ受ケ爾來之レヲ使用セリ又被請求人ハ甲第二號證ノ商標ヲ同一商品ニ付明治四十五年一月出願同年四月五日登錄ヲ受ケタリ右甲第一號證商標ハ蹲踞セル猫カ「ハンケチ」ヲ持テル圖ニシテ甲第二號證商標ハ蹲踞セル猫カ周圍ノ小鼠ヲ眺メ居ル様ヲ畫キ之レニ羅馬字ヲ以テ「ラットリン」等ノ文字ヲ記シテ成ルモノナリ從テ二者ノ圖樣酷似シ其稱呼ハ共ニ猫印タルヲ以テ類似商標ト云ハサルヲ得ス依テ本件商標ノ登錄ハ商標法第三條第一項ニ牴觸シ同法第十一條ニ依リ無効タルヘキモノナリト云フニアリテ甲第一號證乃至甲第八號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トス
審決相成度其理由ハ請求人ハ甲第一號證及甲第二號證ハ相類似スルモノナリト云フト雖甲第一號證ハ一疋ノ猫カ右眼ヨリ涙ヲ出シ左足ニテ布片ヲ左眼ニ當テ泣キ居ル圖ヲ畫キタルモノニシテ泣猫印ト稱スヘキモノナリ之レニ反シ甲第二號證ハ圓形内ニ「ラットリン」ノ文字ヲ顯ハセル涎掛ヲ掛ケタル猫ノ前面ニ多數ノ鼠ノ遊戯シ居ル圖ヲ畫キ之レニ「RATTIRIN」ナル横文字ヲ大書シタルモノナルヲ以テ其稱呼ハ當然「ラットリン」ナリトス故ニ右兩商標ハ其圖形及稱呼共ニ顯然區別スヘキモノナルヲ以テ相類似スルモノニアラスト云フニアリ

審決ノ理由 請求人カ商品殺鼠劑ニ使用スル爲メ明治四十二年十二月四日登錄ヲ出願シ同四十三年三月十日登錄ヲ受ケタル第三九九四〇號登錄商標ハ蹲踞セル一匹ノ猫カ布片ヲ持チ左眼ニ當テ居ル圖形ヲ畫キ之レニ TRADE MARK NIPPON SANGYO CO TOKYO 等ノ文字ヲ附記セルモノナリ然ルニ被請求人カ同一商品ニ使用スル爲メ明治四十五年一月三十一日登錄ヲ出願シ同年四月五日登錄ヲ受ケ

タル第五一六八二號登錄商標ハ圓形欄内ノ中央ニ蹲踞セル一匹ノ猫及其前方ニ數多ノ小鼠ヲ畫キ之レニ THE IDEAL RATSANE TRADE MARK PATTRIN ナル文字ヲ附記シタルモノナリ右兩商標ハ一ハ一匹ノ猫カ布片ヲ左眼ニ當テ他ハ數多ノ小鼠ヲ眺メ居ルノ差及其附記文字ニ於テ異ル所アリト雖何レモ一匹ノ猫カ蹲踞セル圖形ヲ畫キタルモノニシテ外觀上相紛ハシク商品ノ取引上混同誤認ノ虞アルヲ以テ類似商標ナリト認ム而シテ前記ノ如ク被請求人ノ本件第五一六八二號登錄商標ハ請求人ノ前記登錄商標ヨリ後出願ニ屬スルヲ以テ商標法第三條第一項ニ違反シ其登錄ハ同法第十一條ニ依リ之レヲ無効ト爲スヘキモノナリ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月十七日於特許局

審判長 特許局事務官

奥山萬次郎

同 村山小次郎

同 三浦惠一

第二千五百二十八號

朝鮮京城壽町一丁目九十四番地
大阪市東區瓦町一丁目五番地特許辨理士
朝鮮京城本町二丁目二十五番地
東京市日本橋區吳服町二番地特許辨理士

請求人 五味安太郎

右代理人 廣井代藏

被請求人 高木德彌

右代理人 杉田金之助

右當事者間ノ第五一四七八號登錄商標權利範圍確認審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人カ商品髮膏ニ對シ使用スル甲第一號證商標ハ請求人ノ第五一四七八號登錄商標權利範圍ニ屬ス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人カ商品髮膏ニ對シ實際使用スル甲第一號證商標ハ請求人所有ノ登錄第五一四七八號商標權利範圍ニ屬ス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ本件第五一四七八號登錄商標ハ指定商品髮膏、香油、香水、白粉、化粧下其他香料燻料及ヒ他類ニ屬セサル化粧品一切ニ對シ權利ヲ有スルモノニシテ縦長方形欄内ニ三箇ノ楓葉及ヒ數線ヨリ成ル水ヲ配シ右上方ニ船底形印影ヲ顯ハシ中央ニ『大和姫』ノ三字ヲ書シ地色ヲ銀色トナシ周欄水ノ圖竝ニ『大和姫』ノ文字ヲ藍色トシ楓葉及ヒ印影ヲ赤色トナシ楓葉ハ白色ヲ以テ緣取リタルモノナリ然ルニ被請求人カ商品髮膏ニ使用セル甲第一號證商標ハ縦長方形欄内ニ三箇ノ櫻花及ヒ數多ノ草ヲ配シ右上方ニ船底形印影ヲ顯ハシ中央ニ『同春香』ノ三字ヲ書シ地色ヲ銀色トシ周欄竝ニ『同春香』ノ文字及草ヲ藍色トシ櫻花及印影ヲ赤色トナシ櫻花ハ白色ノ緣取リヲ施セルモノナリ右兩標ハ其大體ニ於テ相違セルカ如クナレトモ前者ノ楓葉ト後者ノ櫻花トハ其箇數及配置方全ク同一ナルノミナラス其色彩モ亦均等ナリ加之其他ノ文字地色周欄及印影ニ至リテハ其色彩全ク均等ニ屬スルモノナリ故ニ此兩者ハ商品取引上混同誤認セラル、コト明ニシテ何人カ之レヲ見ルモ類似ノ關係ヲ脫スルコト能ハサルモノナリト云フニアリテ甲第一號證乃至甲第七號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ甲第一號證商標ハ表面中央ニ同春香ナル文字ヲ書シ其外欄ハ二重線ヨリ成リ四隅ハ富士山形ヲナシ之レニ

櫻花雜草ヲ畫キ香入煉油ナル文字ヲ附記セルニ反シ甲第二號證商標ハ表面中央ニ大和姬ナル文字ヲ記シ其外欄ハ單純ノ一線ヨリ成ル縱長方形ニシテ彼ノ龍田川ヲ意味スル流レニ紅葉ヲ畫キ芳香煉製ナル文字ヲ附記シテ成ルヲ以テ何等類似ノ點ナク僅ニ色彩ノ均等ナル所アルモ文字圖形上記ノ如ク大差アル場合ニ於テハ單ニ色彩ノ類似セルノ一事ヲ以テ彼是混同ヲ來タスノ虞ナシ加之甲第一號證商標裏面ニハ確然明瞭ニ被請求人ノ商號及住所ヲ記セルニ反シ甲第二號證商標裏面ニハ請求人ノ氏名ヲ記セルヲ以テ二者判然區別セラルヘキモノナリト云フニアリテ乙第一號證乃至乙第八號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 請求人ノ第五一四七八號登錄商標ハ縱長方形欄内ニ三箇ノ楓葉及數線ヨリ成ル水ヲ配シ右上方ニ船底形印影ヲ顯ハシ其内ニ芳香煉製ナル文字ヲ記載シ中央ニ大和姬ナル文字ヲ記載シ而シテ之レニ色彩ヲ施シテ成ルモノナリ然ルニ被請求人カ使用セル甲第一號證商標ハ縱長方形欄内ニ三箇ノ櫻花及少許ノ草ヲ畫キ右上方ニ船底形印影ヲ顯ハシ其内ニ香入煉油ナル文字ヲ記シ而シテ中央ニ同春香ナル文字ヲ記載シ之レニ色彩ヲ施セルモノナリ右兩商標ヲ對比觀察スルニ中央ニ記載セル大和姬及同春香ナル文字竝ニ其下部ニ畫ケル水及草ノ圖等ニ於テ差異アリト雖其商標ノ色彩ニ於テ全然同一ナルノミナラス同一若クハ類似ノ資料ヲ同一場所ニ配置シテ構成セラレタルモノナルニ依リ其外觀相類似シ世人ヲシテ混同誤認セシムルノ虞アルモノニシテ類似商標ナリト認定ス而シテ請求人ノ本件登錄商標ノ指定商品ハ髮膏、香油、香水、白粉、化粧下其他香料燻料及ヒ他類ニ屬セサル化粧品一切ニシテ被請求人ノ商標ヲ使用スル商品髮膏ヲ包含スルカ故ニ被請求人使用ノ甲第一號證商標ハ請求人ノ第五一四七八號登錄商標ノ權利範圍ニ屬スルモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月二十一日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 三浦惠一

第二千五百四十二號

愛知縣知多郡半田町五百六十九番戶 請求人 中埜又左衛門
東京市牛込區揚場町十五番地特許辦理士 右代理人 鈴江近太郎
同 市京橋區木挽町二丁目十三番地 被請求人 山本政太郎
同 市神田區西小川町二丁目三番地特許辦理士 右代理人 永屋茂
同 市麴町區道三町四番地特許辦理士 岡本織之助

右當事者間ノ第一六四六號登錄商標權利範圍確認審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人カ商品酢ニ使用スル甲第二號證商標ハ請求人ノ第一六四六號登錄商標ノ範圍ニ屬ス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人カ商品酢ニ使用スル甲第二號證ノ商標ハ請求人ノ第一六四六號登錄商標ト撞着ス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人ノ前記登錄商標ハ中央ニ橫線三筋ヲ書シ其下ニ小圓環ヲ配シ其兩側長方形欄内ニ尾州半田及中埜本家ナル文字ヲ記載シテ成レルモノナリ而シテ被請求人カ酢ニ對シ使用スル甲第二號證ノ商標ハ中央ニ同長橫線三筋ヲ書シ其下ニ圓弧集合ノ圓環ヲ配シ其兩側長方形欄内ニ尾州半田及山本本家ナル文字ヲ書シテ成ルモノナリ今

兩商標ヲ對比スルニ其間些少ノ差異アリト雖殆ント同様ノ書體ヲ同一ノ位置ニ配列シ殊ニ商標ノ主要部分タル中央ノ三筋同長横線ニ小圓環ヲ配シタルモノト三筋同長横線ニ圓弧集合ノ圓環ヲ配シタルトハ彼此全然同様ノ觀相ヲ呈スルノミナラス尾州半田ニ於テ清酢醸造者ハ中埜又左衛門以外ニナキニ拘ラス被請求人ニ於テ尾州半田ナル文字ヲ使用セルハ世人ヲ欺瞞スヘキ意思ニ出テタルヤ明ニシテ又混同誤認セラルルノ虞アルモノトスト云フニアリテ甲第一號證及甲第二號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人ノ登錄商標ハ中央ニ於ケル三筋ノ同長横線ト其下ニ付記セル圓環トノ結合ヨリ成ルモノニシテ被請求人使用ノ甲第二號證商標ハ三筋ノ同長横線ノ下ニ梅花ノ模様ヲ付記シタル組合セヨリ成リ其間判然タル區別アリトス元來三筋ノ同長横線ハ酢ノ商標トシテハ既ニ類例多キ圖形ニシテ現ニ明治三十四年以來登錄ヲ受ケタルモノ八種ノ多キニ及ヒタルノミナラス使用者ハ其商品ノ品質價格ノ高下ヲ示ス爲メ尙ホ之レニ小印ヲ押捺シテ區別スルヲ例トスルヲ以テ實際ノ取引上決シテ混同誤認ノ虞ナシ又酢ノ商標ニ「尾州半田」ノ文字ヲ付記スルハ從來普通ノ慣例トシテ一般ニ行ハルル所ナリト云フニアリテ乙第一號證及乙第二號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 請求人ノ第一六四六號登錄商標ハ中央ニ太キ横線三條ヲ引キ其下ニ太キ小圓ヲ書シ而シテ其兩側ニ長方形ノ欄ヲ配シ其内ニ尾州半田中埜本家ナル文字ヲ分記シタルモノニシテ指定商品酢ニ對シテ登錄ヲ受ケタルモノナリ然ルニ被請求人ノ同一商品ニ對シテ使用スル甲第二號證商標ハ同シク中央ニ太キ横線三條ヲ引キ其下ニ梅花形ノ小圓ヲ配シ其左右ニ千秋ナル文字ヲ分記シ而シテ兩側ニ長方形ノ欄ヲ配シ其内ニ尾州半田山本本家ナル文字ヲ分記シタルモノナリ右兩商標ハ仔細ニ之レヲ觀察スルトキハ其間多少ノ差異ナキニアラスト雖各同一ナル太キ横線三條ニ添フルニ互ニ類似セル太キ小圓ト

梅花形ト同一ノ位置ニ配置シ且各其兩側ニ長方形ノ欄ヲ配シテ構成セラレタルモノニシテ其外觀上相類似シ混同誤認ノ虞アルニ依リ類似商標ト稱ズヘキモノナリ從テ被請求人使用ノ甲第二號證商標ハ請求人ノ第一六四六號登錄商標ノ範圍ニ屬スルモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月二十四日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
 特許局事務官 奥山萬次郎
 同 村山小次郎

第二千六百一號

橫濱市山下町七十番甲 請求人 合名會社カール、ローデ、
 ウント、コムパニー

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士 右代理人 ウオルター、オーガス
 タス、デ、ハピラント

同 市深川區佐賀町二丁目十四番地 被請求人 村崎鹿藏
 同 市深川區富吉町三番地特許辨理士 右代理人 徳岡梅吉

右當事者間ノ第五三三九八號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人ノ第五三三九八號商標登錄ハ之レヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ第五三三九八號商標登録ハ之レヲ無効トスト審決相成度其理由ハ被請求人ノ前記登録商標ハ請求人ノ明治三十二年四月十九日付登録商標第一二三一七號ト類似セルモノニシテ其指定商品モ亦抵觸セリ即チ兩商標ハ共ニ塔ノ圖形ヲ描ケルモノニシテ其間僅少ノ差異アリト雖類似ニアラスト否定スルコト能ハス而シテ被請求人ノ商標ハ後願ニ係ルヲ以テ其登録ハ無効ト爲スヘキモノナリト云フニアリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人及被請求人ノ商標ハ其形狀若クハ模様ニ於テ相異リ商標法ニ所謂類似ノモノナリト云フヘカラス假リニ之レヲ類似ナリトスルモ請求人ハ被請求人カ多年本件登録商標ヲ使用セルコトヲ承認シ居ルヲ以テ自己ノ登録商標權ヲ拋棄シタリト見ルヘク此點ヨリスルモ本件請求ハ不當ナリト云フニアリ

審決ノ理由 請求人所有ノ第一二三一七號登録商標ハ明治三十二年三月一日商品「トーマス」燐肥、「マルテリン」、「ボーテック」ヘン、「骨粉、加里性肥料」カイニット」其他一切ノ肥料ニ使用スル爲メ商標ノ登録ヲ出願シ同年四月十九日其登録ヲ受ケ背景ヲ有スル五重ノ塔ノ圖ヲ畫ケルモノニシテ被請求人カ明治四十五年五月二十八日商品肥料一切ニ使用スル爲メ登録ヲ出願シ同年六月二十四日其登録ヲ受ケタル第五三三九八號登録商標ハ五重ノ塔ノ略圖ヲ畫ケルモノナリ右兩商標ハ其背景ノ有無竝ニ塔ノ圖形ニ於テ精粗ノ差アリト雖其外觀相類似スルノミナラス稱呼上ニ於テモ共ニ塔印ノ稱呼ヲ生スヘキヲ以テ二者互ニ相類似スルモノナリトス而シテ被請求人ノ登録商標ハ前記ノ如ク請求人ノ登録商標ト指定商品ヲ同フシ且後出願ニ屬スルヲ以テ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効ト爲スヘキモノナリ被請求人ハ請求人カ本件第五三三九八號登録商標ノ使用ヲ承認シ居ルヲ以テ自己ノ登録商標權ヲ拋棄シタリト見ルヘク從テ本件請求人ハ不當ナリト主張スルモ請求人カ其使用ヲ承認セ

ルコトニ付何等證據ノ認ムヘキモノナキノミナラス假令一時本件登録商標ノ存在ヲ看過スルモ苟モ商標法第十八條第三項ニ定ムル期間ヲ經過セサル以上ハ之レニ對シ無効審判ヲ請求スルハ何等妨ケナキ所ナリ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月二十八日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
審問 村山小次郎

第二千四百五十四號

大阪市北區上福島北二丁目百十七番地 請求人 角利吉
同 市東區淡路町一丁目二十四番地特許辨理士 右代理人 佐々木高吉
東京市赤坂區溜池町五番地 被請求人 合資會社二葉屋

右代表者 猪俣吉平
同 市神田區猿樂町三丁目三番地特許辨理士 右代理人 平澤均治

右當事者間ノ第四四二八三號登録商標權利範圍確認審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人カ販賣セル護謄輪ニ附セル「バーマー」ナル標章「大正二年一月二十一日提出ニ係ル圖形」ハ

被請求人ノ第四四二八三號登錄商標權ノ範圍ニ屬セス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ請求人カ護謨輪ニ使用スル「バーマー」ナル標章ハ被請求人ノ第四四二八三號登錄商標ノ範圍ニ屬セス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ前記登錄商標ハ明治四十三年八月十三日登録ヲ出願シ同四十四年一月二十日其登録ヲ受ケタルモノニシテ PALMER CORD TYRE ナル歐文字ヨリ成ルモノナリ然ルニ請求人ハ明治三十六年中「バーマー」ナル標章ニ付キ登録ヲ出願セシニ該文字ハ自轉車「タイヤ」製造所名ノ略稱トシテ同業者間普通ニ使用セラルル名稱トシテ拒絕査定ヲ受ケタルヲ以テ爾來安ンシテ之レヲ使用シ來レリ然リ而シテ被請求人ノ本件登錄商標ハ前記歐文字ノ連續語ニ對シ登録セラレタルモノニシテ其權利ハ其出願以前普通ニ使用セラレタル名稱ナル「バーマー」ナル文字ニ及フヘキモノニアラスト云フニアリテ甲第一號證乃至甲第十一號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ請求相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ本件登錄商標ハ第二八九〇六號登錄商標ノ聯合商標トシテ登録セラレタルモノニシテ右商標ハ一本ノ棕櫚ノ左右ニE、Rナル文字ヲ記載シ上方ニハ Palmer ナル文字ヲ記載シタル文字ト圖形ト相俟テ成リ其稱呼ハ「バーマー」ト唱フヘキモノナリ從テ羅馬字ナルト假名文字ナルトヲ問ハス苟モ「バーマー」ノ稱呼ヲ有スル標章ハ凡テ該商標權ノ範圍内ニアルモノナリ然リ而シテ被請求人ノ本件登錄商標タル PALMER CORD TYRE ハ其稱呼ノ發音カ前記商標ノ「バーマー」ト類似スルヲ以テ聯合商標トシテ登録セラレタルモノナリ從テ被請求人以外ノ者ニシテ「バーマー」ナル標章ヲ使用スルモノアルトキハ前記二箇ノ商標權ノ範圍ニ屬スルモノナリ請求人ハ「バーマー」ナル名稱ハ「タイヤ」ニ對シテ普通ニ使用セ

ラルル名稱ナリト云フモ商品ノ普通名稱トハ商品其物カ若クハ其性質ヲ一般ニ表示スヘキ名稱タルヲ要スルモノニシテ「バーマー」ナル語ハ之レヲ表示スルモノニアラサルヲ以テ普通名稱ニアラス又本件登錄商標ハ前記第二八九〇六號登錄商標ニ附帶スル聯合商標ナルヲ以テ假令請求人ノ申立通リ消極的權利確認ノ審決アルモ尙ホ第二八九〇六號ノ商標權ノ存スル以上ハ請求人ハ「バーマー」ナル標章ヲ使用スルコト能ハサルモノナリ換言スレハ本件請求ハ何等利益ナキモノニシテ請求權ナキモノト云ハサルヘカラスト云フニアリ

審決ノ理由 被請求人ハ本件第四四二八三號登錄商標ハ第二八九〇六號登錄商標ノ聯合商標トシテ登録セラレタルモノナレハ前ノ聯合商標ニ效力アル以上ハ本件請求ニシテ請求人ノ申立相立ツモ何等ノ利益ナク從テ商標法第十八條ニ所謂利害關係ヲ有スルモノニアラスト主張スト雖本件登錄商標ト第二八九〇六號登錄商標トハ假令聯合商標タルノ關係アルモ別箇ノ商標ニ屬シ從テ請求人使用ノ標章ト本件登錄商標トノ範圍確認ノ問題ハ該標章ト第二八九〇六號登錄商標トノ範圍確認ノ問題トハ全ク別箇ノ問題ニ屬スルヲ以テ前記ノ聯合商標アルモ本件登錄商標ニ對シ範圍確認ヲ請求スルハ利益ナキモノト云フヲ得ス依テ本案ニ入り之レヲ審案スルニ請求人ノ販賣ニ係ル護謨輪ニ附セル「バーマー」ナル標章〔大正二年一月二十一日提出ノ圖形〕ハ兩端ヲ圓形ニ爲シタル橫長欄ノ内部兩側ニ月桂樹様ノ枝ヲ布片ニテ束ネ左右ヨリ抱合セシメ其内ニGナル歐文字ヲ記載シ其中央ニ PALMER TYRE 28x1 1/2 ト記載シ其上部ニ THE B. F. GOODRICH CO AKRON OHIO 記シ其下部ニ PAT JUNE 1.92 JAN 10.93 MAR 7.93. JAN 22.95 JULY 5.98. ト記載シタルモノニシテ中央ノ PALMER TYRE ナル文字ハ從來「バーマー」會社製造ニ係ル一種ノ護謨輪ヲ指示スルモノナリ又其上部ニ記載セル文字ハ會社ノ名稱ニシテ其下部ニ記載セル文字ハ特許及年月日ヲ表セルモノナルニ止マリ該標章ノ要部ハ欄内兩側ニ存在スル

圖形及文字ニアリトス然ルニ被請求人ノ本件第四四二八三號登録商標ハ單ニ PALMER CORD TYRE
ナル歐文字ヲ記載シタルモノナルニ依リ兩商標ハ明カニ區別セラルヘキモノニシテ類似商標ニアラス
ト認ム

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月二十八日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 三浦惠一

第二千四百六十九號

東京市神田區美土代町四丁目五番地 請 求 人 會 與七郎
同 市京橋區日吉町二十番地特許辨理士 右 代 理 人 原 嘉 道
同 市京橋區日吉町二十番地特許辨理士 同 有 馬 忠 三 郎
同 市芝區備前町一番地 被 請 求 人 榊 原 常 吉
同 市京橋區西紺屋町三番地特許辨理士 右 代 理 人 大 橋 與 四 郎

右當事者間ノ第五二八二九號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 第五二八二九號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人申立ノ要領ハ第五二八二九號商標ノ登録ハ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トス
ト審決相成度其ノ理由ハ被請求人ハ明治四十五年三月二十五日日本件商標ノ登録ヲ出願シ第五二八二九
號ヲ以テ其登録ヲ受ケタリ然ルニ右商標ヲ使用セル滋養糖ハ弘田親安氏ニ依リ明治四十年四月頃始メ
テ我國ニ輸入セラレ請求人ノ店舗ニ於テ發賣シタルモノニシテ其後明治四十三年三月ニ至リテ同氏ハ
更ニ獨逸ニ於ケル製造元ト特約ヲ結ヒ日本及朝鮮ニ於ケル一手販賣ノ權利ヲ得請求人ノ店舗ニ於テ其
販賣方ヲ取扱ヒタリ而シテ一手販賣ノ特約成立ノ前後ニ於テ請求人カ和光堂ノ商標ヲ以テ廣ク日本全
國ニ廣告ヲ爲シ請求人カ會テヨリ本件商標ト同一商品ニ付同一ノ標章ヲ有スルコトハ世人ノ一般ニ周
知スル所タルハ甲第一號證ニ依リテ極メテ明確ナリ從テ被請求人ノ本件商標ノ登録ハ商標法第二條第
五號及同第十一條ニ依リ無効トセラルヘキモノナリト云フニ在リテ甲第一號證乃至第三號證ヲ提出セ
リ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人
ヨリ提出セル舉證ニテハ本件登録商標ト同一ノ商標カ其出願前同一商品ニ向テ世人ニ周知セラル、程
度ニ請求人ニ於テ使用シタリトノ事實ヲ認ムル能ハサルヲ以テ本件登録商標ハ商標法第二條第五號ニ
該當セスト云フニ在リ

審決ノ理由

被請求人ノ所有ニ係ル第五二八二九號商標ハ明治四十五年三月二十三日ノ登録出願ニ係リ
商品滋養強壯劑ニ使用スルモノニシテ布片及櫻花ヲ組合セタル圖形ニ Prof. Dr. Soxhlets, Kinder Na-
hrang, Nahr-Zuckerノ文字ヲ記シテ成ルモノナリ然ルニ其登録出願前タル明治四十二年八月十九日以後
請求人ニ於テ和光堂ノ商標ヲ以テ本件登録商標ト同一商標ヲ同一商品ニ使用シ本件登録商標ノ出願當
時ニ於テ既ニ請求人ノ商標トシテ世人ノ周知スル所トナリ居タルノ事實ハ甲第一號乃至第三號證ニテ

之ヲ認定スルニ足レリ從テ本件商標ノ登録ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月十三日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎

第二千四百七十號

獨逸國來因河畔ビーブリッヒ

請求人

カルレ、ウント、コムバニ
ー、アクチエン、ゲゼルシャ
フト

横濱市山下町二十四番地特許辨理士

右代理人

カール、フォーグト

東京市日本橋區本町四丁目十四番地

被請求人

合名會社島久商店

同 市日本橋區吳服町二番地特許辨理士

右代理人

杉田金之助

右當事者間ノ第五二一五三號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人ノ第五二一五三號商標登録ハ之レヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ第五二一五三號商標登録ハ之レヲ無効トス審判費用ハ被請

求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ右商標ハ第五二一三三號ト類似商標トシテ登録セラレタルモ其商標ノ主要部ハRosenbach Tuberklinナル文字ニシテ其右肩ノ丸形ハ單ニ島久商店ノ商標ヲ見易カラシムル爲メニ附加シタルモノニ過キス然ルニRosenbach Tuberklinナル藥品ハRosenbach氏ノ發明ニ係リ請求人會社ノミカ該藥品ヲ製造シ此名稱ヲ使用シテ販賣スルヲ得ルモノナルコトハ世人ノ周知スル所ナリ又請求人ハ第五二四〇七號ヲ以テTuberklin Rosenbachノ文字商標ノ登録ヲ受ケ之レヲ使用セリ從テ被請求人ノ本件登録商標ハ商標法第二條第五號ニ該當スルモノナリ又第五二四〇七號登録商標ハ明治四十四年十二月十九日出願シ同四十五年五月七日登録ヲ受ケタルモノニシテ被請求人ノ本件登録商標ハ明治四十五年三月十五日出願シ同年四月二十四日登録ヲ受ケタルモノナレハ被請求人ノ本件登録商標ハ商標法第三條ニ違反シ其登録ヲ無効ト爲スヘキモノナリ又Rosenbach Tuberklinナル語ハ藥品ノ普通名稱ニアラス又本件登録商標ハ商標法第二條第三號ニモ該當スト云フニアリテ甲第一號證乃至甲第十八號證ヲ提出セリ
被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハRosenbach Tuberklinナル語ハ藥品ノ普通名稱ニシテ商標タルノ價値ナク被請求人ノ本件登録商標ニ於テハ其商標ト認ムヘキ點他ニ存在セルヲ以テ請求人及被請求人ノ登録商標ニ於テ該文字ノ同一ナレハトテ類似商標ト稱スル能ハス故ニ本件登録商標ハ商標法第二條第五號及同第三條ニ該當スヘキモノニアラス又請求人ハRosenbach Tuberklinナル語ニ付キ專用權ヲ有スル如ク主張スト雖右ハ其普通名稱トナラサル以前即チ特著ノ觀ヲ有スル間ニ於テ日本ニ於テ商標ノ登録ヲ受ケタル場合ニハ之レヲ專用シ得ヘシト雖既ニ其時機ヲ怠リ普通名稱トナリタル後ニ至リ其登録ヲ出願シ之レヲ専用セントスルハ公益ヲ害スルモノナリト云フニアリテ乙第一號證乃至乙第三號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 請求人カ明治四十四年十二月十九日商品結核症ニ用ユル藥劑ニ付商標ノ登録ヲ出願シ同四十五年五月七日其登録ヲ受ケタル第五二四〇七號登録商標ハ「Tuberkulin」「Rosenbach」ト記載シ其上部ニ「Kalle & Co. A.G.」ト記載セルモノナリ然ルニ被請求人カ藥劑及ヒ化學品「チガール」ヲ除クニ付キ明治四十五年三月十六日登録ヲ出願シ同年四月二十四日其登録ヲ受ケタル第五二一五三號登録商標ハ右方ニ二重ノ圓形ヲ畫キ其内部ニ東京日本橋區本町四丁目藥種器械問屋合名會社島久商店ノ文字及羅馬字地紋等ヲ顯ハシ左方ニ「Rosenbach Tuberkulin. Sold By Shimakin & Company, Tokyo, Japan.」ト記載シ其下部ニ東京本町島久商店ト記載セルモノナリ右兩商標ハ圓形ノ有無竝ニ其記載ニ係ル會社名ノ點ニ於テ差異アリト雖後者ニ「Rosenbach Tuberkulin」ノ文字アルカ爲メ「Tuberkulin」「Rosenbach」ト記載セル前商標ト相紛ハシク世人ヲシテ混同誤認セシムルノ虞アルモノニシテ類似商標ト稱スヘキモノト認定ス而シテ被請求人ノ商標ハ前記ノ如ク後願ニ係リ其指定商品中結核症ニ用ユル藥劑ハ請求人ノ登録商標ノ指定商品ト同一ナルヲ以テ被請求人ノ本件登録商標ハ商品結核症ニ用ユル藥劑ニ對シテハ商標法第三條第一項ニ該當ス又本件登録商標中ニ「Rosenbach Tuberkulin」ナル文字アルヲ以テ之レヲ「Rosenbach Tuberkulin」〔結核症ニ用ユル藥劑〕以外ノ商品ニ使用スルトキハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノナルヲ以テ該商品ニ對シテハ商標法第二條第三號ニ該當シ其登録ハ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノナリ被請求人ハ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ナル名稱ハ藥品ノ普通名稱ナリト主張シ乙第一號證乃至乙第三號證ヲ提出スト雖乙第一號證ハ單ニ「ツベルクリン」ニ關スル記事ニシテ「ローゼンバッハ、ツベルクリン」ノ普通名稱タルコトニ關シテ何等ノ證據トナラサルノミナラス乙第二號證及乙第三號證ハ單ニ該名稱カ世人ニ周知セラレタルコトヲ證スルニ止マリ未タ以テ商標法ニ所謂商品ノ普通名稱即チ取引界ニ於ケル一般ノ使用ニ依リ個人ノ獨專スルコトヲ許スニ適セサル名稱タル事實ヲ認ムヘキ

モノナシ
仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年三月十四日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎

第二千三百六十九號

請求人 明珍宗之
右代理人 清瀬一郎
被請求人 野村文次
右代理人 飯田勇記

姫路市野里村八百八十八番地ノ一
大阪市北區堂島濱通一丁目二十八番地特許辦理士
姫路市東魚町三十三番地
神戸市橋通二丁目七番地特許辦理士

右當事者間ノ第四六九一七號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 被請求人ノ第四六九一七號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ有スル第四六九一七號商標ノ登録ハ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人家ハ甲冑名匠ノ家系ニシテ其宇内冠絶ノ鍛技ヲ以テ後年火箸ヲ製作シ之ニ刻スルニ其姓字「明珍」ヲ以テシタルヲ以テ世之ヲ明珍火箸ト稱シ近時ニ至リ縣下

重要物産ノ一ト數ヘラルルニ及ヘリ然ルニ被請求人ハ之ニ對シ種々不正ノ競争ヲ試ムルノミナラス明治四十四年六月二十二日指定商品打物一切ニ付第四六九一七號ヲ以テ『百翁宗之』ノ四文字ノ商標登錄ヲ受ケタリ右百翁宗之トハ即請求人明珍宗之ノ事ニシテ請求人先代年齡百ニ達スルヲ以テ請求人家ニ於テ明治四十三年四月百翁祝賀會ヲ爲シ百翁宗之ノ名ノ下ニ盛ニ火箸ヲ販賣セリ被請求人ハ其以後ニ右商標ノ登錄ヲ出願シタルモノニシテ本件商標ハ(一)明カニ請求人ノ名ヨリ成リ又之ヲ商品火箸ニ關シ營業上使用シタル點ヨリ觀レハ實ニ先代ノ商號ナリシモノナリ(二)又其出願前世人ノ周知スル請求人ノ標章ト同一ニシテ且同一商品ニ使用スルモノナリ(三)尙又粗惡ナル被請求人ノ製品ヲ以テ特別ノ技巧ヲ施セル請求人家ノ製品ト混同誤認セシムルノ虞レアルモノナルヲ以テ商標法第二條第八號第五號第三號ニ該當シ無効ノモノナリト云フニ在リテ甲第一號乃至第八號第十號乃至第十五號證ヲ提出シ且證人ノ訊問ヲ申請セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人ハ被請求人ノ本件商標ヲ以テ(一)請求人ノ氏名ニシテ且商號ヨリ成ルモノナリト主張スト雖モ『百翁宗之』ナル名稱ハ請求人先代ノ氏名ニアラス又請求人カ宗之ト改名シタルハ被請求人ノ本件商標登錄後ナリ次ニ請求人先代ハ未タ曾テ之ヲ商號トシテ使用シタル事實ナシ(二)請求人ノ先代明珍鍛ハ文化十年十月十一日ニ出生シ明治四十四年十一月十五日九十九歳ヲ以テ死歿シタルモノニシテ百翁ト刻スヘキ理由ナシ假ニ一步ヲ讓リ請求人先代ニ於テ百翁ト刻シタルコトアリトスルモ其期間ハ頗ル短ク從テ未タ世人周知ノ標章ト云フヘキ事實ヲ生セサルコト勿論ナリ且凡ソ世人周知ノ標章トシテ他人ニ干渉セシムルハ必ス繼續ノ意思ヲ以テ使用セラレ且現在ニ於テ使用セラレ居ルモノナラサルヘカラス然ルニ百翁ナル刻印ハ明珍鍛カ繼續ノ意思ヲ以テ使用シタルニアラス且四十三年中ヲ以テ拋棄セラレ拋棄後既

ニ一年有半ヲ經過セルモノナリ(三)百翁タル明珍鍛カ明治四十四年ニ死没シタル事實ハ百翁ナル標記其モノヨリ以上ニ周知ノ事實ナリ故ニ今日ニ於テ鍛カ火箸ヲ鍛造シタルヘシトハ何人モ想像セズ又百歲ナラサル請求人カ百翁宗之作ト刻スルコトハ周知ノ事實ニアラス從テ毫モ世人ヲ欺瞞スルコトナク請求人ノ申立ハ悉ク不當ナリ尙百翁宗之ナル標記ハ被請求人先代カ請求人先代ノ承諾ヲ得テ使用シ居タルモノニシテ又被請求人ハ明治三十二年七月一日前ヨリ百翁宗之ノ商標ヲ善意ニ使用シ居ルモノナリ假ニ惡意トスルモ民法上ノ取得時効ニ依リ之ヲ取得シ居ルモノナリト云フニ在リテ乙第一號乃至第五號第七號乃至第十七號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 被請求人ノ所有ニ係ル本件登錄第四六九一七號商標ハ『百翁宗之』ノ四文字ヲ書シテ成リ商品打物一切ニ使用スルカ爲メ明治四十四年二月十五日其登錄ヲ出願シタルモノナリ然ルニ右百翁宗之ナル名稱ハ明治四十四年十一月十五日ヲ以テ死亡シ打物製造ニ付名聲ヲ有シ居タル明珍鍛ヲ指スモノナルコトハ甲第二號、第四號、第七號、第八號證及乙第一號證ニ依リ之ヲ認ムルニ足レリ從テ之ヲ打物ニ刻シ販賣スルニ於テハ明珍鍛若ハ其相續人タル請求人ニ於テ鍛造シタルモノト誤解セシメ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノト認ム依テ本件商標ノ登錄ハ商標法第二條第三號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノト被請求人ハ本件商標ノ使用ニ付請求人先代ノ承諾ヲ得タリト主張スルモ被請求人自己ノ商標トシテ使用ヲ許可セラレタリト認ムヘキ證據ナク又明治三十二年七月一日前ヨリ百翁宗之ノ商標ヲ善意ニ使用シ居レリ假ニ惡意トスルモ民法上ノ取得時効ニ依リ之ヲ取得セリト主張スルモ商標法第三條二項ハ同法第二條第三號ニ該當スル商標ニ付適用ナク又本件商標ノ登錄ハ明治四十四年六月二十二日ニシテ無登錄商標ニ付テハ民法取得時効ノ適用ナキモノト認ムルヲ以テ本件商標ノ登錄ヲ維持スルコトヲ得ス其他當事者間論争スル所アレトモ審決ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ加ヘス

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス
大正二年三月十七日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎

第二千四百七號

姫路市野里村八百八十八番地ノ一
大阪市北區堂島濱通一丁目二十八番地特許辨理士
姫路市東魚町三十三番地
神戸市橋通二丁目七番地特許辨理士

請求人 明 珍 宗 之
右代理人 清 瀨 一 郎
被請求人 野 村 文 次 郎
右代理人 飯 田 勇 記

右當事者間ノ第一九八七〇號登録商標權利範圍確認審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 本件審判請求ハ之ヲ却下ス
審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人カ商品火箸ニ使用スル甲第二號證ノ商標ハ被請求人ノ有スル
第一九八七〇號登録商標ノ權利範圍ニ屬セストノ審決ヲ求ム其理由ハ請求人家ハ甲冑名匠ノ家系ニシ
テ其宇内冠絶ノ鍛技ヲ以テ後年火箸ヲ製作シ之ニ刻スルニ其姓字『明珍』ヲ以テシタルヲ以テ世之ヲ明
珍火箸ト稱シ近時ニ至リ縣下重要物産ノ一ト數ヘラルルニ及ヒヌ仍テ明治三十五年打物一切ニ付登録

第一八二一號ヲ以テ『明珍』二字ニ火箸ノ『火』字ヲ配シタル商標ノ登録ヲ受ケ爾來之ヲ右明珍火箸ニ
使用シ來レリ然ルニ被請求人ハ請求人家ノ火箸ヲ模造シ且如何ニモシテ『明珍』ノ二字ヲ使用セント欲
シ火箸ヲ除キタル打物一切ニ付『明珍』二字ヲ包含スル本件第一九八七〇號登録商標ヲ受ケ之ト同時ニ
火箸ヲ含ム打物一切ニ付『明珍』二字ヲ含マサル第二〇二五六號登録商標ヲ受ケ此兩商標ヲ同時ニ印刷
シタル紙片ヲ以テ火箸ノ包装用紙ニ使用シ且一方ニ請求人ト市町村區域ヲ異ニスル姫路市内ニ於テ
『明珍屋』ナル商號ヲ登記ヲ受ケテ不正ノ競争ヲ爲セリ故ニ請求人ハ本件審判ニ於テ被請求人カ口ヲ登
録第一九八七〇號商標ニ藉リテ商品火箸ニ關シ明珍ノ文字ヲ使用スルノ權ナキコトノ確定ヲ求メント
欲スル者ナリト云フニ在リテ甲第一號證乃至第四號證ヲ提出セリ
被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ請求ヲ棄却ス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請
求人ノ第一九八七〇號登録商標ハ被請求人カ火箸ヲ除キタル一切ノ打物ニ對シテ登録セルモノナリ從
テ該商標權ノ範圍内ニ商品火箸ヲ包含セサルハ明ナリ此ノ如キハ實ニ明白且確定ノ事由ニシテ審決ヲ
俟テ知ルヘキモノニアラス請求人ニ於テ何等ノ利益ナキ本審判ノ如キハ商標法第十八條ニ牴觸スル不
法アルヲ以テ速カニ棄却セラルヘキモノト信ス尙被請求人カ商品火箸ニ使用スル包装紙ハ唯内部ノ廣
告紙ニ過キサルモノニシテ之カ使用ハ不當ナルモノニアラスト云フニ在リ
審決ノ理由 本件審判請求ハ被請求人ノ商品火箸ニ使用スル甲第二號證ノ商標ハ被請求人ノ有スル第一
九八七〇號登録商標ノ權利範圍ニ屬セストノ審決ヲ求ムルモノナルモ本件登録商標ハ指定商品ニ火箸
ヲ包含セサルヲ以テ火箸ニ使用スル商標ニ其權利範圍ノ及ハサルハ自明ノ理ニシテ審判ヲ以テ決定ス
ヘキ利害關係ヲ有セサルモノト認ム從テ本件請求ハ商標法第十八條第二項ニ違反スル不法アルモノト
ス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月十七日於特許局

審判長 特許局技師

特許局事務官 同

平山英三
奥山萬次郎
村山小次郎

第二千四百七十五號

姫路市東魚町三十三番地

神戸市橋通二丁目七番地特許辦理士

姫路市野里村八百八十八番地ノ一

大阪市北區堂島濱通一丁目二十八番地特許辦理士

請求人 野村文次

右代理人 飯田勇記

被請求人 明珍宗之

右代理人 清瀬一郎

右當事者間ノ第五二七三五號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人申立相立タス

審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ専用ニ係ル第五二七三五號登録商標ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ姫路市ノ重要物産タル明珍火箸ノ由來ニ付テハ傳説區々アリト雖トモ其名稱ニ明珍ノ二字ヲ冠スルヨリ見レハ被請求人家カ該火箸ノ創造若ハ閱歷ニ關シ淺カラサル因縁ヲ有スルハ爭フヘカラサル事實ナルヘシ而シテ姫路ニ於ケル明珍家ノ地位ハ御鍛冶頭ナリシ

ヲ以テ鍛工ニ多數ノ部下ヲ有シ又數多ノ子弟ヲ養成シタルハ明ナリ凡ソ明珍火箸ニハ必ス「姫路臣明珍」ナル文字ヲ刻シ該文字ハ獨リ被請求人家ニ於テ使用スルノミナラス其門弟子ハ勿論苟モ明珍火箸ヲ鍛造スルモノハ何人ト雖トモ之ヲ使用シ來リテ茲ニ百餘年ニ及ヘリ從テ姫路臣明珍ナル文字ハ明珍火箸唯一ノ標章タルニ至レリ此ノ如ク明珍火箸ナルモノハ數百年來所謂明珍式ナル一種特別ナル火箸ノ普通名稱トシテ用キラレ姫路臣明珍ナル文字ハ之ヲ表彰スル爲メ同業者一般ニ慣用セラルル所ノ標章ナリ加之本件商標ハ普通名稱ナル明珍ノ文字ト其特產地タル姫路ナル文字ヲ普通ノ書體ヲ以テ表記シ僅ニ臣ノ一字ヲ以テ兩者ヲ結合スルモ爲ニ何等特殊ノ概觀ナク商標法第一條ニ違反スルヲ以テ無効タルヘキモノナリト云フニ在リテ甲第一號乃至第二十一號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ請求ヲ棄却ス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ本件商標ハ未タ世人ニ慣用セラレタル事實ナシ抑モ被請求人明珍家ノ家系竝ニ其鍛技上ノ地位ニ關シテハ略請求人ヨリ提出ニ係ル甲第一號證由緒書ノ如シ而シテ其「姫路臣明珍」ノ五文字ヲ刻シテ火箸ヲ製作シタルハ被請求人先代明珍宗之三十歳ノ頃即チ天保十年火箸一對ヲ作り之ヲ藩主ニ獻シタルヲ以テ嚙矢トス之ヲ使用スルニ兩脚相觸ルレハ鏘々トシテ鈴蟲ノ音アリ藩主ノ喜フ所トナリ爾來年々之ヲ作りテ獻ス然レトモ當時藩祿ヲ食ム者ナレハ未之ヲ世ニ售ラス明治初年食祿給セラレサルニ及ヒ初メテ之ヲ市ニ賣ラシメタリ當時ヨリ火箸ノ一脚ニハ本件商標ト同一書體ヲ以テ「姫路臣明珍」ト刻シタリ其後明珍火箸ノ名聲頓ニ顯ハルルニ至ルモ右ノ五文字ハ被請求人先代ノ商標ナリシト同時ニ其身分及氏名ナルヲ以テ此間何人モ未曾テ該火箸ヲ模造シ又ハ姫路臣明珍ノ文字ヲ冒用スル者ナシ從テ慣用ノ事實アルコトナシ又本件商標ハ特別顯著ナリ即チ明珍火箸ノ人口ニ膾炙セラルルハ被請求人家製品ノ人口ニ膾炙セラルルニ外ナラス之ヲ以テ商品ノ普通名稱ナリト論スルハ非ナリ況ンヤ姫路藩ノ臣籍中明珍

家ト稱シ火箸ヲ製造スル者ハ被請求人家ノ外ニアルコトナシ姫路臣明珍ヲ使用スルハ寧ロ當然ナリ又其書體ハ古來被請求人カ甲冑打物ニ用ユル銘刻ノ書體ニ依リタルモノニシテ雅致掬スヘキモノアリ顯著ニアラスト論スルコトヲ得ス加之被請求人ハ本件商標ヲ明治三十二年七月一日以前ヨリ善意ニテ使用シタルモノナルヲ以テ此點ノミニテ本件商標權ヲ維持スルニ足ルモノナリト云フニ在リテ乙第一號乃至第六號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 被請求人ノ所有ニ係ル本件登錄第五二七三五號商標ハ「姫路臣明珍」ノ五文字ヲ書シテ成リ商品火箸ニ使用スル爲メ明治四十五年四月六日其登錄ヲ出願シタルモノナリ然ルニ請求人ハ右文字ハ同業者一般ニ慣用セラルル所ノ標章ナリ又商品ノ普通名稱ナル明珍ノ文字ト特產地タル姫路ナル文字ヲ普通ノ書體ヲ以テ表記シ僅ニ臣ノ一字ヲ以テ之ヲ結合スルモ爲ニ何等特殊ノ概觀ナキヲ以テ無効タルヘキモノナリト主張スルモ請求人提出ノ甲各號證ニ依ルモ同業者慣用ノ事實ヲ認ムルニ由ナク又明珍ナル文字ハ商品ノ普通名稱ト認ムルコトヲ得ス況ンヤ姫路臣明珍ノ結合ニ依リテ商標登錄ニ必要ナル特別顯著ノ甄別力ヲ供フルモノト認ムルニ依リ請求人ノ主張ハ不當ナリ依テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月十七日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎

第二千四百三十六號

請求人 野村文次
右代理人 飯田勇記
被請求人 明珍宗之
右代理人 清瀬一郎
姫路市東魚町三十三番地
神戸市橋通二丁目七番邸特許辨理士
姫路市野里村八百八十八番地ノ一
大阪市北區堂島濱通一丁目二十八番地特許辨理士

右當事者間ノ第一八二一號登錄商標權利範圍確認審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人申立相立タス

審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ請求人カ商品火箸ニ明珍火箸ナルコトヲ表彰スル爲メ甲第二號證ニ表記スル明珍ノ文字ハ被請求人ノ有スル登錄第一八二一號商標權ノ範圍ニ屬セスト審決相成度其理由ハ登錄商標第一八二一號ハ被請求人先代明珍鍛カ其商品明珍火箸ニ専用スヘク背向セル火字ノ中間ニ明珍ノ文字ヲ挿入シ其結合ニ依リテ一箇ノ圖形ヲ形成セシメタル登錄商標ニシテ其商標ハ火字ニアラズ又明珍ニアラスシテ兩者ノ結合ニ成レルモノナルコトハ明ナル所ナリ元來明珍火箸ノ創造ニ付テハ傳説區々ナルモ假ニ被請求人祖先ノ創造ニ係ルトスルモ古來姫路市内ニ於テ其製造販賣ニ從事シタルモノ少ナカラス明珍火箸カ同市ノ名産トシテ數ヘラル、ニ至リタルコト亦近日ノ事ニアラス從テ明珍火箸ナルモノハ明治以前ニ於テ特別ノ形狀ヲ有スル特種ノ火箸ノ普通名稱トナルニ至レリ現ニ被請求人カ其商標ヲ登錄スルニ方リテ其指定商品ヲ特ニ明珍火箸トシ「甲第十號證」亦其商品容器表面ニ姫路名産明珍火箸ト特記シタルハ「甲第一號證」被請求人ニ於テモ明珍火箸ハ商品ノ普通名稱タルコトヲ

認ムルニ因ルコト明ナリ加之明珍屋ナル商號ハ請求人ノ開業以來使用スル所ナルヲ以テ普通ノ文字若ハ體様ヲ以テ之ヲ使用スルコトハ請求人ノ自由ナリ假令然ラストスルモ被請求人ノ商標ハ前陳ノ如ク明珍ノ文字ノミヨリ成ルモノニアラス被請求人カ該商標中ヨリ明珍ノ二字ヲ抽出シ請求人ニ干渉ヲ試ミントスルハ不當ナリ要スルニ明珍ノ二字ハ商品火箸ノ商標トシテ決シテ被請求人ノ獨占スヘキモノニアラス請求人ニ於テモ商標法第六條ニ依リ當然之ヲ使用シ得ヘキモノナリト信スト云フニ在リ又審判番號第二三六九號事件ニ於テ陳述シタル理由ヲ援用シ甲第一號乃至第十九號證ヲ提出シ且證人訊問ノ申請ヲ爲セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人ハ甲第二號證ニ表示スル商標『明珍』ハ世ニ周知ナルカ故ニ本件確認審判ヲ請求スト云フニ在レトモ若シ然リトセハ別ニ本件商標ニ付無効審判ヲ提出セサルヘカラス此ノ如キ理由ニ依リ確認審判ヲ請求スヘキモノニアラス又本件商標ノ要部ハ明珍ノ二字ニ在ルヲ以テ本件商標ヨリ自然ニ生スル稱呼ハ明珍ナラサルヘカラスルコト明ナルカ故ニ甲第二號證ノ明珍ノ文字亦其範圍ニ屬スヘキモノトス請求人ハ『明珍』ハ火箸ニ關スル一ノ普通名稱ナリト論スルモ普通名稱タルニハ少クトモ姫路地方ニ於テ一般ニ製作セラル、モノナラサルヘカラス然ルニ明珍火箸ハ姫路ニ於テ製造スル者ハ實ニ古來ヨリ被請求人家ノミニシテ今日ニ於テモ亦然リ實ニ明珍火箸トハ一定ノ形體ノ火箸ヲ云フニアラス明珍ナル者ノ鍛造セル火箸ノ義ニシテ決シテ普通名稱ニアラス要スルニ請求人ノ主張ハ不當ナリト云フニ在リテ乙第三號乃至第六號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 被請求人ノ所有ニ係ル登錄第一八二一一號商標ハ二箇ノ火字ヲ上下ヨリ對向セシメ其中央ニ明珍ノ二字ヲ記シ之ニ周欄ヲ加ヘテ成ルモノニシテ商品ヲ明珍火箸ト指定セリ而シテ右商標中『明

珍』ノ文字ハ又商標ノ要部ノ一ニシテ商標ヨリ生スル自然ノ稱呼モ亦明珍印ナルモノト認ム然ルニ請求人ノ使用スル甲第二號證ノ標章ハ甲ノ圖形ヲ描キ其上部ニ『宗介』ト記シ下部ニ『姫路名産明珍御火箸』ノ文字ヲ記載シテ成ルモノナリ右甲第二號證ハ『明珍御火箸』ト記シタルカ故ニ稱呼上被請求人ノ本件登錄第一八二一一號商標ト混同誤認ノ虞アルモノニシテ類似商標タルコトヲ免レサルモノト認ム請求人ハ明珍火箸ノ文字ヲ以テ商品ノ普通名稱ナリト主張スルモ請求人提出ノ各甲號證ニ依リテモ明珍火箸ヲ以テ商品ノ普通名稱ナリト認ムルニ足ラス又請求人カ『明珍屋』ナル商號ヲ有スルカ故ニ普通ノ文字又ハ體様ヲ以テ之ヲ使用スルハ自由ナリト主張スルモ右ノ如ク『明珍御火箸』ヲ表記スルハ商標法第六條ニ所謂普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ商號ヲ表示スルモノニアラス次ニ請求人ハ審判番號第二三六九號事件ニ於テ陳述シタル理由ヲ援用シテ本件商標ノ使用ニ付被請求人先代ノ承諾ヲ得タリト主張スルモ請求人自己ノ商標トシテ使用ヲ許可セラレタリト認ムヘキ證據ナク又甲第二號證ニ表示スル商標ノ使用權ヲ民法上ノ取得時効ニ依リ之ヲ取得セリト主張スルモ商標ノ使用權ニ付テハ取得時効ノ適用ナキモノト認ムルヲ以テ右主張ハ不當ナリ

大正二年三月十七日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎

第二千四百六十一號

大阪市東區上難波北ノ町五十二番屋敷	請求人	蟹江大次郎
同 市東區上難波北ノ町五十二番屋敷	同	蟹江寬
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	右代理人	淺村三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	同	平岩義一
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士	同	藤江政太郎
京都市下京區岩上通蛸藥師下ル宮本町三十四番戶	被請求人	北村岩太郎

右當事者間ノ第三八五二二號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人申立相立タス

審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ所有スル第三八五二二號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人ノ右第三八五二二號登錄商標ハ「剃刀不要」ノ文字ヲ普通ノ書體ニ書記シテ成ル商標ニシテ指定商品第一類除毛劑ニ使用スル爲メ明治四十二年八月十八日其登録ヲ出願シ同年十一月十六日附登録ヲ受ケタリ然ルニ一、右登錄商標ハ商品其モノ、品名ヲ表示スル文字タルニ止マリ商標トシテ特別顯着ナルモノニアラス即チ東京市大井春吉ハ商品「剃刀不要」ニ付賣藥部外品トシテ明治四十二年七月七日警視廳ノ免許ヲ受ケ爾來此商品ヲ東京市ニ於テハ各藥種問屋ニ販賣シ又各地ニ販賣シタリ且又右商品ノ廣告ヲ濟民新報、報知新聞、國民新聞等ニ掲載シタリ此等ノ事實及證據ヲ綜合シテ考覈スレハ剃刀不要ハ商品ノ名稱タルコト一點ノ疑義ヲ容レヌ加之

抗告審判第一八五號登錄商標第三八五二二號權利確認審判事件ニ關スル證人山崎嘉太郎ノ供述ニ照セハ剃刀不要ハ商品剃刀不要ノ商品名ナルコト更ニ明瞭ナリ二、剃刀不要ハ世人ニ周知セラレタル標章ナリ即チ剃刀不要ノ標章カ本件登錄商標ノ出願以前ヨリ東京市大井商店ノ標章トシテ世人ニ周知セラレタル事實ハ甲第三號乃至第六號證ノ廣告文ニ徴シテ明ナルノミナラス審判第一九三三號登錄商標第三八五二二號權利確認審判事件ノ審決中「請求人提出ノ甲第五號證乃至第九號證ニ依レハ剃刀不要ノ標章カ本件商標登録出願前ニ於テ除毛劑ニ付人口ニ膾炙セラレタルコトハ認ムルニ足レリ」ト判示セルニ依リテ明白ナリ又被請求人ハ明治三十二年七月以前ヨリ該商標ヲ使用セリト抗辯スト雖トモ被請求人カ明治四十二年十月二十日特許局ニ提出シタリト云フ書面ニ依リテ見ルモ被請求人ハ除毛劑ニ對シ剃刀不要ナル商標ヲ明治三十二年七月以前ヨリ使用シタル事實ヲ認ムヘカラサルノミナラス善意ニ之ヲ使用シタリトハ毫モ推知スヘカラサルカ故ニ其主張ヲ認メス假ニ被請求人ハ右商標ヲ明治三十二年七月以前ヨリ善意ニ使用シタリトスルモ周知商標ト云フト商品ノ品名ヲ現ハス商標ト云フトハ自カラ其性質ヲ異ニス商標法第三條第二項ノ規定ハ商標タリ得ヘキ資質ヲ有スル商標ヲ保護スルニ止マリ商標ト爲リ得ヘキ資質ヲ具有セサルモノ即チ特別顯著ナラサルモノヲモ保護スルノ法意ニ非ス之ヲ要スルニ被請求人ノ本件商標ハ商標法第一條第二項ノ規定ニ反シ且同法第二條第五號ニ該當スルモノナルニ依リ其登録ハ無効トスヘキモノナリト云フニ在リテ甲第一號乃至第七號證ヲ提出セリ被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ本件係爭ノ商標ハ商品其モノノ品名ヲ表示スル文字タルニ止マルトノ請求人ノ主張ハ誤ナリ是レ同一請求人カ同一被請求人ニ對シ同一商標ノ使用カ被請求人ノ商標權ノ範圍ニ屬セストノ審判ヲ煩ハシ其審判ニ於テ一審二審共ニ請求人ノ敗訴ニ歸シタル審判ニ於テ被請求人ノ主張シタル理論竝ニ審決ノ理由ヲ援

用スレハ其事理洵ニ明白ナル所ナリ次ニ剃刀不要ノ文字ハ標章トシテ本件商標登録以前世人ニ周知セラレタリトノ請求人ノ主張ハ之ヲ否認ス凡ソ商標法第二條第五號ニ該當スルニハ世人ノ周知スルコトヲ要シ且他人ノ標章タルコトヲ要ス然ルニ本件商標ハ他人ノ商標ニアラス被請求人カ自身使用シタル商標ニシテ請求人主張ノ如ク商標法第二條第五號ニ該當スルモノニアラス又被請求人ハ本件商標ヲ明治三十二年七月一日以前ヨリ善意ニ使用シ來リタルモノニシテ無効タルヘキモノニアラスト云フニ在リテ乙第一號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 被請求人ノ所有ニ係ル本件登録第三八五二二號商標ハ「剃刀不要」ト書シテ成リ指定商品除毛劑ニ使用スル爲メ明治四十二年八月十八日其登録ヲ出願シタルモノナリ然ルニ請求人ハ右登録商標ハ商品其モノノ品名ヲ表示スルニ止マリ商標トシテ特別顯著ナルモノニアラス從テ其登録ハ無効タルヘキモノナリト主張スルモ凡ソ商標ヲ構成スル文字カ直ニ其商品名トシテ取引セラルルモ之ヲ以テ右商標ハ特別顯著ナルモノニアラスト斷スルコトヲ得キモノニアラス要ハ該商標カ實際取引界ニ於テ其商標使用者ノ商品タルコトヲ表彰シ同種商品中ヨリ之ヲ甄別セシムルニ足ルヤ否ニ在リ而シテ「剃刀不要」ノ文字ハ除毛劑ノ商標トシテ嶄新ナル語句ヨリ成リ十分ノ甄別力ヲ有シ特別顯著ナルモノト認ム次ニ請求人ハ本件商標ハ世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一ナルモノニシテ其登録ヲ無効トスヘキモノナリト主張スルモ被請求人ハ本件商標ヲ明治三十二年七月一日以前ヨリ善意ニ使用スル者ナルコトハ乙第一號證ノ一及證人三上金治ノ供述ニ照シテ之ヲ認定スルニ足レリ依テ本件登録商標カ商標法第二條第五號ニ該當スルモ同法第三條第二項ノ規定ニ依リ其登録ハ適法ナルモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月二十日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎

第二千六百十七號

東京市日本橋區橋町四丁目十五番地 請求人 三輪善兵衛
同 市京橋區中橋和泉町四番地特許辨理士 右代理人 伊藤和三郎
朝鮮京城青葉町五十五統十二番戶 被請求人 朝鮮製紙合資會社
右代表社員 李 鎔

右當事者間ノ第五四九五四號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人申立相立タス

審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ第五四九五四號商標登録ハ指定商品西洋紙壁紙ニ對シテハ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人ハ大正元年九月二十日日本紙西洋紙壁紙ノ商標トシテ一端ヲ巴頭形ニ圓大トセル圓形曲線三箇ヲ互ニ組合セテ成ル商標ニ付第五四九五四號ノ登録ヲ受ケタリ然ルニ之ヲ請求人カ明治四十二年一月十二日日本紙ヲ除キタル一切ノ紙類及ヒ其製品ノ商標トシテ登録ヲ受ケタル三圓ヲ交互ニ組合セテ成ル第三四八六九號登録商標ト對比ス

ルニ被請求人ノ商標ハ圓形曲線ノ一端ヲ巴頭形ニ圓大セル點ニ於テ請求人ノ商標ト異ナル所アリト雖
 商標全體ノ構圖タル三箇ノ圓曲線カ同様ノ方式ニ於テ互ニ組合セラレタル點ニ於テハ全ク同一ニシテ
 之レヲ離隔的ニ觀察スレハ其概觀殆ント相同シク取引市場ニ於テ混同誤認ヲ生スヘキ類似商標タルヤ
 明ニシテ其稱呼モ亦同一ニ歸着スヘシ從テ被請求人ノ商標ノ登錄ハ請求人ノ商標ノ商品ニ撞着スル指
 定商品西洋紙及壁紙ニ付之ヲ無効トスヘキモノナリト云フニアリテ甲第一號證及甲第二號證ヲ提出セ
 リ
 被請求人申立ノ要領ハ本件請求ハ之ヲ棄却シ審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求
 人ノ商標ハ圓三箇ノ組合セヨリ成リ被請求人ノ商標ハ一ツ巴三箇ノ組合セヨリ成リテ圓ト一ツ巴トノ
 差アリテ其結構上大ナル差異アリ離隔的ニ概觀スルモ一目瞭然其差異ヲ判識シ得ヘクシテ取引市場ニ
 於テモ混同誤認ノ虞更ニ無ク其稱呼亦別ナリ故ニ類似商標ニアラスト云フニアリテ乙第一號證ヲ提出
 セリ

審決ノ理由 請求人ハ自己ノ第三四八六九號登錄商標ハ三圓ヲ交互ニ組合セテ成ルモノニシテ之ヲ被請
 求人ノ第五四九五四號登錄商標ト對比スルニ被請求人ノ商標ハ圓形曲線ノ一端ヲ巴頭形ニ圓大セル點
 ニ於テ請求人ノ商標ト異ナレリト雖商標全體ノ構圖タル三箇ノ圓曲線カ同様ノ方式ニ於テ互ニ組合セ
 ラレタル點ニ於テ相類似シ其稱呼亦同一ニ歸着スヘキモノナリト云フト雖請求人ノ商標ハ細キ三箇ノ
 圓ヲ輪違ヒニ組合セタルモノニ係リ被請求人ノ商標ハ一端ヲ極メテ太クシ他端ヲ細クシタル巴形ヲ三
 箇組合セタルモノニシテ右兩商標ハ其構成資料タル圓ト巴トニ於テ相異リ從テ之レヲ組合セタル商標
 全部ノ概觀ニ於テモ亦明カニ甄別セラルヘキモノニシテ混同誤認ノ虞ナク又其商標ヨリ生スル自然ノ
 稱呼ニ於テモ請求人ノ商標ハ三ツ輪印ト稱スヘク被請求人ノ商標ハ組巴印ト稱スヘキヲ以テ混同誤認

ノ虞ナシト認ム要スルニ兩商標ハ其概觀上竝ニ稱呼上相異リ類似商標ト稱スヘキモノニアラサルカ故
 ニ請求人ノ商標登錄アルノ故ヲ以テ被請求人ノ商標ノ登錄ヲ無効ト爲スコトヲ得ス
 仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月二十七日於特許局

審判長 特許局技師 平 山 英 三
 特許局事務官 奥 山 萬 次 郎
 同 村 山 小 次 郎

第二千五百五十九號

獨逸國エルベルフェルト

請 求 人

フアルベン、フアブリッケン
 フォルム、フリードル、バイ
 エル、エンド、コムパニー

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士

右 代 理 人

ウオルター、オーガス
 タス、デ、ハピラント

大阪市東區常盤町二丁目八番地

被 請 求 人

合資會社日華藥房

右代表社員

米 田 猪 作

右當事者間ノ第五四九三二號商標登錄無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
 主文 請求人申立相立タス
 審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ第五四九三二號商標ノ登録ハ無効トスト審決相成度其理由ハ被請求人ノ右登録商標ハ CAMPHAS-PIRIN ナル文字ヲ主要部トセル婦人ノ姿ヨリ成ルモノナルカ其主要部タル CAMPHAS-PIRIN ナル文字ハ明カニ請求人ノ登録商標ニシテ先願ニ係ル第一四九〇七號商標 ASPIRIN ヲ侵害スルモノニシテ外觀、稱呼共ニ彼此同一ナリ而シテ被請求人ノ商標カ CAMPHAS-PIRIN ナル文字間ノ區別ヲ有スルハ之ヲ認ムト雖トモ爲メニ請求人ノ商標ニ類似スルノ事實ハ何等變更ヲ來スコトナシ從テ被請求人ノ右登録商標ハ無効タルヘキモノトスト云フニ在リテ尙審判番號第二三三三號事件ヲ引用シテ本件登録商標ノ無効ヲ主張セリ

被請求人答辯ノ要領ハ請求人ノ請求ヲ棄却スト審決相成度其理由ハ被請求人ノ登録第五四九三二號ナルモノハ婦人ノ圖形中部長方形ノ輪廓内ニ CAMPHAS-PIRIN ナル文字ヲ有スルモノニシテ之ヲ請求人ノ第一四九〇七號登録商標ニ比シ外觀上何等同一又ハ類似ノ點ナシ又單ニ文字ノミヲ以テ云フモ請求人ノ商標ハ ASPIRIN ナル文字ヲ速記シタルノミニシテ被請求人ノ商標文字ハ頭大文字ヲ有スル CAMPHAS ナル七字ノ次ニ區別符號ヲ設ケ又頭大文字アル PIRIN ナル五字ヲ連接シタルモノニシテ外形上請求人ノ所謂同一ナル事實絶エテナシ其稱呼ニ至リテモ何等混同ヲ來スコトナク語法上「カムファス」ナル語中ヨリ「アス」ヲ分離シテ別ニ發音スルコトヲ得可キモノニアラス若シ夫レ請求人ノ登録商標中ノ或ル文字カ被請求人ノ登録商標中ニ含マレ居ルヲ以テ類似ナリト云ハハ此ハ論外ニシテ此ノ如キ類例ハ乏シカラス要スルニ請求人ノ主張ハ不當ナリト云フニ在リ

審決ノ理由 被請求人ノ所有ニ係ル本件登録第五四九三二號商標ハ洋裝婦人ノ圖形中央部ノ空欄ニ CAMPHAS-PIRIN ト記シタルモノヨリ成リ商品藥劑ニ使用スル爲メ明治四十五年六月十一日其登録ヲ出願シタルモノナリ而シテ請求人ノ有スル第一四九〇七號登録商標ハ明治三十三年七月二十七日ノ登

録出願ニ係リ ASPIRIN ト記シタルモノニシテ其指定商品ハ化學品及藥劑一切ナリ今此兩商標ヲ對比審按スルニ洋裝婦人圖形ノ有無ノ差異アルノミナラス其文字ニ於テモ CAMPHAS-PIRIN ト書シ他ハ ASPIRIN ト書シタルモノナルヲ以テ兩者ハ外觀上明瞭ナル區別アリ又其稱呼上ニ於テモ前者ハ CAMPHAS-PIRIN トラ區別シテ接續シタルモノニシテ之ヲ「カンファス、ピリン」ト呼フヘク後者ノ稱呼「アスピリン」ト混同誤認ノ虞アルモノニアラス請求人ハ審判番號第二三三三號事件ノ審決ヲ引用シテ論スル處アルモ該事件ハ單ニ「カムファス、ピリン」ト書記シテ成ル商標登録無効審判事件ニシテ本件請求トハ其事情ヲ異ニシ同一ニ論スルコトヲ得ス要スルニ本件登録第五四九三二號商標ハ請求人ノ第一四九〇七號登録商標ト類似ストノ請求人ノ主張ハ不當ナリ從テ本件商標ノ登録ハ無効トスヘキモノニアラス

仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年四月十八日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎

第二千四百三十四號

東京市神田區旅籠町二丁目一番地、
同 市麴町區有樂町三丁目一番地特許辦理士

請求人 太田隣吉
右代理人 秋山襄

右當事者間ノ第五〇四六八號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 被請求人ノ專用ニ係ル第五〇四六八號商標登錄ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人申立ノ要領ハ第五〇四六八號商標登錄ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔ト
ストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ請求人ハ被請求人ノ明治四十四年十一月頃ヨリ販賣ヲ始メシ理學士藤本
理ノ發見ニ係ル毛生液劑ト同一商品ニ對シ明治四十三年三月即被請求人カ本件商標ノ登錄出願ヲ爲ス
以前ヨリ請求人カ藤本理ニ依託シテ命名セシメタル「ピローゲン」ナル標章ヲ付シ廣ク販賣頒布ヲ爲ス
ト共ニ各地新聞並ニ雜誌等ニ廣告ヲ爲シ既ニ公衆ノ周知スル標章トナリ居レルニモ拘ハラズ被請求人
カ之レト同一ナル前記商標ニ就キ其ノ登錄ヲ受ケタルハ商標法第十一條及同法第二條第五號ニ背反ス
ルモノナリト云フニ在リテ甲第一號證乃至甲第三十六號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ
請求人カ水劑ニ付シテ販賣シタリト稱スル「ピローゲン」ナル標章ハ藥學士藤本理カ自己ノ發見シタル
生毛液劑ヲ表彰スル爲メ「ピローゲン」ト命名シ之ヲ標章トシテ請求人ニ販賣ヲ託シ發賣セシメタルモ
ノニシテ請求人ノ主張スル如ク請求人自ラ商品ニ付シテ頒布シタル標章ニアラサルコトハ何人モ知悉
スル處ニシテ本商標ノ登錄ヲ受クヘク正當權利者ハ藤本理カ或ハ同人ヨリ明治四十四年十一月十三日
附ヲ以テ該毛生液ノ一手販賣ノ契約ヲ締結スルト同時ニ該商標ノ登錄出願ノ承諾ヲ得タル被請求人ナ
リ殊ニ請求人ハ該商標登錄出願以前即明治四十四年九月十日限り藤本理ヨリ販賣ノ契約ヲ解カルト
同時ニ毛生液「ピローゲン」ノ供給ヲモ絶タレ現在迄引續キ其販賣業ヲ廢止セルヲ以テ商標法第十八條

ノ規定ニ依リ本審判ヲ請求スルノ權利ヲ有セスト云フニ在リテ乙第一號證乃至乙第二十七號證ヲ提出
シ且證人ノ訊問ヲ申請セリ

審決ノ理由

被請求人ハ請求人カ嘗テ本件登錄商標ノ指定商品タル「ピローゲン」ノ販賣者タリシモ現今
ニ於テハ其販賣業ヲ廢止セルヲ以テ本件審判ヲ請求スルノ權利ヲ有セスト主張スルモ請求人ハ以前
「ピローゲン」ノ一手販賣者ニシテ本件登錄商標ト同一商標ヲ使用シ之ヲ周知セシムル爲メ幾多ノ費用
ヲ支出セシコトハ一件書類ニ徴シ明瞭ナルノミナラス其販賣業ヲ廢止セシコト明ナラサル所ニシテ他
ニ同一商標ノ登錄セラルルハ之レカ使用ヲ禁止セラルルノ不利アルヲ以テ本件審判請求ニ關シ利害關
係ヲ有スル者ト認ム依テ之レヲ審案スルニ被請求人ノ本件登錄商標ハ「ピローゲン」ナル文字ヲ横記セ
ルモノニシテ指定商品水劑及浸劑ニ對シ明治四十四年十一月十三日登錄ヲ出願シ同四十五年二月十日
其登錄ヲ受ケタルモノナリ然ルニ請求人ハ本件商標ノ登錄出願以前即明治四十三年三月頃ヨリ同一
商品ニ對シ同一標章ヲ附シ廣ク之レヲ販賣シ請求人ノ商標トシテ世人ノ周知スル所トナリタルコトハ
甲第一號證乃至甲第十三號證ニ依リ之レヲ認ムルコトヲ得故ニ本件登錄商標ハ商標法第二條第五號ニ
該當シ其登錄ハ同法第十一條ニ依リ之レヲ無効ト爲スヘキモノナリ被請求人ハ本商標ハ請求人カ自カ
ラ商品ニ付シテ頒布シタルモノニアラス却テ藤本理カ自己ノ發見シタル毛生液劑ヲ表彰スル爲メ命名シ
タルモノニシテ本商標ノ登錄ヲ受クヘキ正當權利者ハ該藥劑ノ發見者藤本理カ或ハ其商標登錄出願ノ
承諾ヲ受ケタル被請求人ノ外ナシト主張スレトモ凡ソ商標ハ其案出ヲ以テ商標權ノ歸屬ヲ定ムルコト
ヲ得サルノミナラス請求人ノ自己ノ取扱ニ係ル藥品ニ右商標ヲ付シテ使用シタルモノニシテ之ヲ請求
人ノ商標ト稱スルコトヲ妨クルモノニアラスシテ被請求人ノ右主張ハ不當ナリ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月十九日於特許局

五十六

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 村山小次郎

第一千五百三十號

英吉利國ハッダースフィールド在メルサムミルス

請求人

有限責任ジョナス、ブルック兄弟商會

横濱市山下町七十五番地特許辦理士

右代理人

ドクトル、カール、フォーゲト

大阪市東區南久寶寺町四丁目九十一番地

被請求人

清水政兵衛

同 市東區瓦町一丁目五番地特許辦理士

右代理人

廣井代藏

右當事者間ノ第五三八七號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人申立相立タス

審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ商標登錄第五三八七號ハ之レヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人會社ハ世界有數ノ絲製造所ニシテ其名ト製品トハ日本ニ於テモ約二十年前ヨリ周知セラレタリ而シテ請求人ハ登錄商標第九七三六號ヲ所有シ之ヲ絲卷ノ兩面ニ貼附シテ使用シ世人ノ周知スル所トナリタリ今此商標ト本件第五三八七號登錄商標トヲ比較スル

ニ一見シテ本件商標カ請求人ノ商標ヲ模造シタルコトヲ知ルヘシ尤モ本件商標ハ「KNIFE」ノ字アリテ其稱呼ヲ異ニスル如キ觀アルモ商標ハ外觀ヲ重ニスルモノナレハ其「ナイフ」タルト否トハ敢テ問フ所ニアラスシテ本件商標ハ其意匠及圖形ニ於テ請求人ノ商標ニ類似シ其登錄ハ之ヲ無効ト爲スヘキモノナリト云フニアリテ甲第一號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人ノ本件登錄商標ハ中央橢圓形内ニ「ナイフ」ノ圖形及ヒ「KNIFE」ナル文字ヲ顯ハシ其周圍ニ小圓ヲ環列シ且ツ數本ノ周線ヲ施シ之レニ附記ノ文字及外周ヲ施シテ成ルモノニシテ其要部ハ中央ノ「ナイフ」ニアリ從テ自然ニ生スル稱呼モ亦「ナイフ」印ナルコト何人モ疑ヒナキ所ナリ然ルニ請求人ノ登錄商標ハ中央圓形欄内ニ頭部ヲ右ニセル一箇ノ熊手ノ圖及ヒ「HIRST'S」ヲ顯ハシ其周圍ニ數本ノ細線ヲ施シ之レニ附記ノ文字及ヒ外周ヲ施シテ成ルモノニシテ其自然ニ生スル稱呼ハ熊手印ナリ斯ク兩商標ハ其稱呼ヲ異ニスルノミナラス前者ノ要部ハ橢圓形内ノ「ナイフ」ニシテ後者ノ要部ハ圓形欄内ノ熊手ニアルカ故ニ外觀上ニ於テモ差異アリテ兩商標ハ類似スルモノニアラス從テ被請求人ノ本件商標登錄ハ無効トスヘキモノニアラスト云フニアリ

審決ノ理由 請求人ハ被請求人ノ本件第五三八七號登錄商標ハ請求人ノ第九七三六號登錄商標ニ類似シ其登錄ハ無効トスヘキモノナリト主張スト雖請求人ノ右登錄商標ハ大小二重ノ圓形欄内ニ横平行線ヲ引キ以テ大小二箇ノ部分ニ分チ上部ニ Super Glace ナル文字ヲ記シ中央ニ一本ノ熊手ノ圖ヲ畫キ之ニ「HIRST'S」ナル文字ヲ附記シ下部左方ニ YARDS ナル文字ヲ記シタルモノニシテ其要部ハ中央ノ熊手ノ圖ニアリテ其稱呼亦熊手印ト稱スヘキモノナリ然ルニ被請求人ノ本件登錄商標ハ大小數條ノ橢圓形欄内ニ一本ノ「ナイフ」ヲ畫キ之レニ「KNIFE」ナル文字ヲ記シ而シテ之レニ周欄及文字ヲ附記シテ

五十七

成ルモノニシテ其要部ハ中央ニ存在スル「ナイフ」ノ圖及「WEEK」ナル文字ニアリ從テ其稱呼モ亦「ナイフ」印ト稱スヘキモノナルヲ以テ右兩商標ハ其外觀及稱呼ヲ異ニシ類似商標ニアラスト認定ス故ニ被請求人ノ本件第五三八七二號商標登錄ハ無効ト爲スヘキモノニアラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月二十三日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 奥山萬次郎
同 三浦惠一

第二千五百十二號

大阪市西區江戸堀下通三丁目十二番屋敷 請求人 秋山定一
同 市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士 右代理人 堤他彦
同 市南區瓦屋町一番町二番屋敷 被請求人 山本壽
同 市東區博愛町一丁目六十三番地特許辦理士 右代理人 湯淺順
右當事者間ノ第五三八四三號商標登錄無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 被請求人ノ有スル第五三八四三號商標ノ登錄ハ治麻劑ニ付キ之ヲ無効トス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ第五三八四三號商標登錄ハ治麻劑一切ニ付キ無効トス審判費用ハ被請

求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人所有ノ第五三八四三號登錄商標ハ明治四十五年五月三日
日出願シ同年七月十三日附ヲ以テ第一類化學品、藥劑、醫療補助品及香精ニ對シ商標ノ登錄ヲ得タルモ
ノニ係リ其圖形ハ「WEEK」及「一週」ナル文字ヲ三段ニ横記シ之ニ裝飾的輪廓ヲ附シテ成ル
モノニ係リ最世人ノ注意ヲ惹起シ從テ其商標ノ要部ヲナスノ點ハ「WEEK」ナル稱呼及意義ヲ有スル
文字ニ在ルコト明ラカナリ然ルニ請求人ハ前記商標ト稱呼全然同一ナル商標即チ「WEEK」ト稱スル
商標ヲ附シタル賣藥治麻劑ノ製劑竝ニ營業ニ關シ明治四十二年二月九日附ヲ以テ大阪府廳ノ許可ヲ受
ケ同年十一月製劑及營業ニ着手シ甲第一號證ノ如キ體裁ヲ以テ本商品ヲ大阪市内幾多著名ノ賣藥店ト
取引販賣ヲ開始シ更ニ全國各地ノ有力ナル新聞紙上ニ廣告ヲ掲載シタルニヨリ「WEEK」ナル商標ヲ
附シタル商品ハ各地ニ販賣セラルト共ニ「WEEK」ナル商標ハ世人周知ノ商標トナレリ從テ被請求
人ノ登錄第五三八四三號商標ハ請求人使用ノ商標ト要部同一ニシテ世人周知ノ他人ノ商標ト同一若ハ
類似スルモノ即チ商標法第二條第五號ニ該當スルヲ以テ治麻劑一切ニ對シ其登錄ヲ無効トスヘキモノ
ナリト云フニ在リテ甲第一號乃至第五號證ヲ提出シ且證人ノ訊問ヲ申請セリ
被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人
ハ被請求人ノ本件登錄第五三八四三號商標ハ世人周知ノ自己ノ商標ト同一ナルヲ以テ其登錄ヲ無効ト
スヘキモノナリト主張スルモ被請求人ノ登錄商標ト單純ナル「WEEK」ノ文字ノミヲ以テ成ル請求人
ノ商標トハ其大體ノ觀ニ於テ顯著ノ差異アルヲ以テ僅ニ商標中ノ一部タル「WEEK」ノ片假名文字カ
同一ナリト云フモ世人ノ注意ヲ惹起スル點ハ「WEEK」ノ名稱ノミナリト云フハ誤レリ且商標中一部
ノ稱呼カ同一ナリトスルモ世人ノ注意ヲ惹起セシムルハ單ニ稱呼ニノミ歸スヘカラス圖形ノ異同ノ如
キ最世人ノ注目ニ上ルヘキハ爭フヘカラサル事實ナリ殊ニ請求人ハ文字ノ意義ヲ云爲スト雖トモ一般

ノ需要者カ賣藥ヲ購買スルニ當リ意義ノ如何ヲ調査スル如キハ事實ニ於テ有リ得可カラサル所ニシテ殆是非ヲ爭フノ必要ナシ又請求人ハ自己ノ商標ハ世人周知ノ商標ナリト云フモ商標法ニ所謂世人周知ノ商標ト目スヘキハ從來或ル商業界ニ一般ニ使用セラレ兒童、婦女子モ一見シテ何種ノ商標タルヲ解ス可キ極メテ廣汎ニ使用セラルル商標ノ謂ナリ請求人ノ商標ノ如キハ之ヲ世人周知ノ商標ナリト云フヲ得ス從テ請求人ノ本件請求ハ不當ナリト云フニ在リテ乙第一號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 被請求人ノ所有ニ係ル本件登録第五三八四三號商標ハ WEEK「ウイーク」一週ト三段ニ記シタル文字ノ周圍ニ附飾ヲ施シ尙之ニ歐文字ヲ附記シタルモノヨリ成リ商品化學品、藥劑、醫療補助品、香精ニ使用スル爲メ明治四十五年五月三日其登録ヲ出願シ同年七月十三日登録セラレタルモノニシテ其商標ヨリ自然ニ生スル稱呼ハ「ウイーク」ナリ然ルニ請求人ハ三洋商會ノ商號ヲ以テ明治四十三年四月ヨリ「ウイーク」又ハ WEEK ナル標章ヲ治麻劑ニ附シテ廣ク之ヲ販賣シ本件登録商標出願ノ當時ニ於テ既ニ請求人ノ標章トシテ世人ニ周知セラレタルノ事實アルハ甲第四號證ノ一、二、三及證人上原米次郎、宇治伊之助ノ供述ニ照シテ之ヲ認定スルニ足レリ而シテ兩商標ハ稱呼同一ニシテ其外觀ニ於テハ區別ノ認ムヘキモノナキニアラスト雖トモ商標法ニ所謂類似商標タルコトヲ免レス從テ被請求人ノ本件第五三八四三號商標ノ登録ハ商品治麻劑ニ付テハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノトス
依テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月二十九日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 村山小次郎

同 三浦惠一

第二千五百六十一號

獨逸國來因河畔ルードウイッヒスハーフェン

請求人

バーガッシエ、アニリン、ウント、ソーダ、フアアリック

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辦理士

右代理人

ウォルター、オーガスタス、デ、ハピランド

大阪市南區鹽町通二丁目十一番屋敷

被請求人

田中寅之助

右當事者間ノ第五三九九四號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人ノ所有スル第五三九九四號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ第五三九九四號商標ノ登録ハ之ヲ無効トスト審決相成度其理由ハ被請求人ノ右登録商標ハ二箇ノ楯ノ全體シタル圖形ヨリ成リ一方ノ楯ニハ一匹ノ馬ヲ描キ他方ノ楯ニハ一匹ノ獅子ヲ描キタルモノナルカ右ハ請求人ノ有スル登録商標第四二五三七號外二十一箇ノ登録商標〔四二五〇乃至四二五二七、四二五二九乃至四二五三二、四二五三四、四二五三六、四二五三九乃至四二五四二、四二五四九、四八六一四乃至四八六一五號〕ノ圖形ト其考案全ク類似シ且請求人ノ商標ハ悉ク染料、繪具、媒染料及塗料ヲ指定商品トセルカ故ニ被請求人ノ本件登録商標ニ對スル指定商品ヲ包含セルヲ以テ第五三九九四號商標ノ登録ハ無効トスヘキモノナリト云フニ在リ
被請求人答辯ノ要領ハ請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ請求人ハ被請求人ノ本件登録第五三

九九四號商標ハ請求人ノ有スル第四二五三七號外二十一箇ノ登録商標ト其意匠考案全ク類似スト主張スルモ商標ハ其意匠及考案上ニ何等ノ權利ヲ生スルモノニアラス唯確定シタル圖形及稱呼ニ止マル而シテ被請求人ノ商標ハ楯ト馬、請求人ノ第四二五三七號商標ハ天使ニシテ全然其圖形稱呼ヲ異ニスルハ勿論兩者ノ間ニハ請求人ノ云フカ如キ何等意匠考案ノ類似シタル點ナシ其他二十一箇ノ商標ニ對シテモ其圖形稱呼全然異ナリテ更ニ類似ノ點ナシ又請求人ハ本件審判請求書ニ何等因縁關係ナキ二十二箇ノ商標ヲ一括シテ請求ヲ爲スハ各事件各別ニ書類ヲ提出スヘシトノ規定ニ反スル違法アルカ故ニ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決セラレヘキモノナリト云フニ在リ

審決ノ理由 被請求人ノ所有ニ係ル本件第五三九九四號登録商標ハ二箇ノ楯形ヲ重ネ合セ其一方ニハ獅子、他方ニハ馬ヲ描キタル圖形ヨリ成リ商品假漆、油漆、靴墨、草油、防水材料、靴「クリーム」、靴「インキ」ニ使用スル爲メ明治四十五年四月十二日其登録ヲ出願シタルモノナリ然ルニ請求人ノ有スル登録商標第四二五三七號ハ市街ノ上ニ三人ノ天使ヲ描キ其下方ニ本件登録第五三九九四號ノ圖形ト全ク同一ノ目印ヲ記シ尙附記ノ文字及圖形ヲ加ヘテ成リ商品染料、顔料、媒染料及塗料一切ニ使用スル爲メ明治四十三年四月二十二日其登録ヲ出願シタルモノナリ又同シク請求人ノ所有ニ係ル其他二十一箇ノ登録商標〔登録第四二五一〇乃至四二五二七、四二五二九乃至四二五三二、四二五三四、四二五三六、四二五三九乃至四二五四二、四二五四九、四八六一四及四八六一五號〕ハ何レモ他ノ圖形ニ配スルニ前掲二箇ノ楯ヨリ成ル目印ヲ以テシ第四二五三七號登録商標ト同一商品ニ使用スル爲メ被請求人ノ本件商標ノ登録出願以前ニ於テ其登録ヲ出願シタルモノナリ今被請求人ノ本件登録商標ヲ以テ請求人所有ノ前記二十二箇ノ登録商標ニ對比スルニ請求人ノ商標ハ皆二箇ノ楯形ノ目印ノ外ニ夫々他ノ圖形ヲ加ヘタルモノヨリ成リ且又圖形ノ外觀上却テ他ノ圖形ヲ大トナセトモ楯形ノ目印モ亦顯著ノ觀ヲ有シ商標構成上

要部ノ一ヲ成スモノニシテ右楯形ノミヨリナル被請求人ノ商標トハ互ニ混同誤認ノ虞アルモノニシテ彼此類似商標タルコトヲ免レサルモノト認ム而シテ請求人ノ商標ノ指定商品ハ被請求人ノ商標ノ指定商品ヲ包含シ且被請求人ノ商標ハ後日ノ登録出願ニ係ルカ故ニ被請求人ノ本件第五三九九四號商標ノ登録ハ商標法第三條第一項ニ違反スルヲ以テ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノトス被請求人ハ請求人カ二十二箇ノ何等關係ナキ登録商標ヲ一括シテ一審判請求書ヲ提出スルハ違法ナリト主張スト雖トモ本件請求ハ一箇ノ登録第五三九九四號商標ノ登録無効ヲ請求スルモノニシテ之ト互ニ類似スト思考スル二十二箇ノ登録商標ヲ引キテ其無効理由ト爲スニ過キス之ヲ一事件ト爲スヲ妨ケサルモノニシテ被請求人ノ主張ハ不當ナリ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月二十九日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
 特許局事務官 奥山萬次郎
 同 村山小次郎

第二千五百六十七號

東京市赤坂區溜池町五番地

請求人 合資會社二葉屋
 右代表社員 猪俣泰作

東京市神田區猿樂町三丁目三番地特許辨理士
神戸市三宮町一丁目二百六十一番屋敷

右代理人 平澤均治
被請求人 芳永實藏

六十四

右當事者間ノ第五四六九號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人申立相立タス

審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ専用スル登録第五四六九號商標ハ其ノ指定商品中自轉車
自働車及其ノ「タイヤ」其ノ他ノ構成部分品ニ對シテ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審
決相成度其理由ハ第一、被請求人ノ専用スル第五四六九號登録商標ハ明治四十五年五月二日出願大
正元年八月二十七日ノ登録ニ係リ片假名ニテ「パーマー」ト記シテ成ルモノニシテ運搬用機械、器具及
其ノ各部一切ヲ指定商品トス又請求人ノ専用スル第二八九〇六號商標ハ明治四十年三月十五日ノ登録
ニ係リ Palmer ナル文字及橄欖樹ヨリ成リ第五四七〇〇號商標ハ右商標ノ聯合商標トシテ明治四十三
年八月十三日ノ登録ニ係リ Palmer Cord tyre ノ文字ヨリ成ル共ニ自働車、自轉車及其ノ構成部分品
其ノ他「タイヤ」ニ使用スルモノナリ而シテ請求人ハ其ノ登録以來巨額ノ費用ヲ投シテ廣告ヲ爲シ之ヲ
販賣セルヲ以テ「パーマー」ノ商標ハ世人ノ周知スル所ニシテ且請求人ノ商標ヲ假名ニテ表ハシタル
「パーマー」ト被請求人ノ商標「パーマー」トハ日本語トシテ相類似スルヲ以テ即本件商標ハ世人ノ周知
スル「パーマー」ナル商標ト類似スルモノナリト云フニアリ其ノ理由ハ第二ハ被請求人ハ「パーマー」、
「パーマー」ト稱シ盛ニ廣告ヲナシ請求人ノ使用スル廣告繪畫ト同様ノモノヲ用ヒ居ルヲ以テ從來請求人ノ
販賣セル「パーマー」、「タイヤ」ヲ愛用セシ顧客ハ「パーマー」ヲ以テ「パーマー」ト誤認シ欺瞞セラルル
本件商標ハ商標法第二條第五號及第三號ノ末尾ニ該當スト主張シ證據トシテ第一號證及第二號證ヲ提

出シタリ

被請求人ハ之ニ對シ指定期間内ニ答辯書ヲ提出セス

審決ノ理由 請求人ノ主張スル理由ノ第一ハ本件商標ハ世人ノ周知スル請求人ノ商標「パーマー」ニ類似
シ商標法第二條第五號ニ該當スト云フニアレトモ請求人ハ周知ノ事實ニ付テ何等立證スル處ナク且請
求人ノ専用スル處ナク且請求人ノ専用スル登録第二八九〇六號商標ト本件商標トハ互ニ相類似スルモ
ノナリヤヲ稽フルニ元來商品「タイヤ」ニ付テハ「パーマー」ノ名稱ハ從來英國竝ニ北米合衆國ニ於ケル
「パーマー」會社製造ノ「タイヤ」ニ使用セラレ此ノ事實ハ我國ニ於テモ認メラル、所ナルヲ以テ「パー
マー」ナル商標カ請求人ノ商標トシテ世人ニ周知セラレタリト認ムルヲ得ス而シテ請求人ノ第二八九
〇六號商標ハ橄欖ノ圖形ヲ以テ要部トシテ本件商標ハ「パーマー」ノ文字ヨリ成リ爲メニ兩商標ハ互ニ
類似スルモノニ非スト認ム請求人ノ理由ノ第二ハ被請求人ハ「パーマー」、「タイヤ」トシテ盛ニ廣告ヲ爲
シ其ノ看板繪畫ニ請求人ノ看板繪畫ト類似スルモノヲ使用スルヲ以テ從來請求人ノ商品ヲ購求セル顧
客ヲシテ被請求人ノ商品ヲ請求人ノ商品ト誤認セシメ世人ヲ欺瞞スルモノニシテ商標法第二條第三號
ニ該當スト云フニアレトモ商標法第二條第三號ハ商標カ世人ヲ欺瞞スル虞アル場合ニ關スル規定ナル
ヲ以テ本件ノ如キ廣告看板等ノ手段ニ依リ商品ノ混同ヲ生セシムル場合ニ適用スヘキモノニ非ス要ス
ルニ本件商標ハ世人ノ周知スル他人ノ商標ニ類似シ且世人ヲ欺瞞スル虞アルモノトシテ商標法第二條
第五號及第三號ニ該當スルモノト認ムルヲ得ス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月二十七日於特許局

審判長 特許局事務官 村山小次郎

六十五

特許局事務官 三浦小惠一
馬場 穎一

第二千五百六十八號

東京市赤坂區溜池町五番地

請求人 合資會社二葉屋

猪俣泰作

同 市神田區猿樂町三丁目三番地特許辦理士

右代理人 平澤均治

神戸市三宮町一丁目二百六十一番屋敷

被請求人 芳永實藏

大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辦理士

右代理人 堤他彦

右當事者間ノ第五四七〇〇號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 審判請求人申立相立タス

審判費用ハ審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 審判請求人ハ被請求人ノ専用スル登録商標第五四七〇〇號ハ指定商品中自働車、自轉車及

其「タイヤ」其ノ他ノ構成部分品ニ對シテ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度ト

申立テ其理由ハ被請求人ハ明治四十五年五月二日二枚ノ葉ノ間ニ十字架ヲ畫キ下部布片ニ「Harner」ノ

文字ヲ認メタル商標ノ登録ヲ出願シ同年八月二十七日第五四七〇〇號トシテ登録セラレ運搬用機械器

具及其各部分品一切ヲ指定商品トセリ然ルニ請求人ハ明治四十年二月十五日 Palmer ナル文字ト橄欖

樹ヨリ成ル商標ヲ第二八九〇六號トシテ登録ヲ受ケ更ニ明治四十三年八月十三日 Palmer Cord Tyre

ナル商標ヲ第四四二八三號トシテ登録ヲ受ケタリ而シテ二者共ニ自轉車、自働車及其構成部分品其他

「タイヤ」「護謨輪」ニ使用スルモノニシテ其ノ登録以求巨額ノ費用ヲ投シテ廣告ヲ爲シ之レヲ販賣セリ

從テ「バーマー」ノ標章ハ請求人ノ標章トシテ世人ノ周知スル處ナリ且 Harner ト Palmer トハ其字形

類似ス又被請求人及請求人ノ使用スル廣告繪畫ハ互ニ類似スルヲ以テ英文ニ達セサル内國人ニシテ從

來「バーマー」印ノ「タイヤ」ヲ愛用セシ顧客ハ廣告繪畫中ニ記サル、文字ノ差違ヲ區別セス被請求人ノ

「ハーマー」印ヲ「バーマー」ト誤認シ欺瞞セラル以上ノ理由ニ依リ被請求人ノ専用スル本件商標ハ商標

法第二條第五號及第三號末尾ニ該當スト主張シ證據トシテ甲第一號證ノ一、二及甲第二號證ノ一、二ヲ

提出セリ

審判被請求人ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由ハ請求

人専用ノ登録商標第二八九〇六號ノ要部ハ橄欖樹ノ圖形ニシテ被請求人ノ専用スル登録商標第五四七

〇〇號ノ要部ハ十字架形ノF字記號ナリ而シテ Palmer 及 Harner ノ文字ハ右兩商標ニ於ケル附記ノ

文字タルニ過キササルノミナラス綴字モ之ヲ異ニスルヲ以テ二者ヲ外觀上類似商標トスルハ不當ナリ又

稱呼上ニ於テモ登録商標第二八九〇六號ハ「バーマー」ニシテ登録商標第五四七〇〇號ハ「ハーマー」ナ

ルヲ以テ二者類似セス又登録第四四二八三號商標ト登録第五四七〇〇號商標トノ二者ハ何レモ商標上

ノ文字竝ニ其書體ヲ異ニス又請求人ハ「バルマー」ナル商標ハ世人ノ周知スルモノナリト主張スレトモ

甲第一號證ノ一及二ハ登録商標ニ非ス且「バルマー」印トシテ廣告販賣シタル年月カ被請求人ノ本件登

録商標ノ出願前ナルヤ否ヤ不明ニシテ其實ヲ確認スルモノ無キヲ以テ請求人ノ主張ヲ否認ス又甲第

二號證ノ一及二モ亦本件商標ニ非スト主張シ證據トシテ乙第一號證乃至第三號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 審判請求人ノ提出ニ係ル甲第一號證ノ一及二ハ請求人カ廣告ニ使用シタリト稱スル繪畫ニシテ請求人ノ登録第二八九〇六號及第四四二八三號商標カ世人ニ周知セラレタルコトノ證據ト認ムルニ至ラサルモノトス而シテ登録第二八九〇六號商標ハ中央ニ橄欖樹ヲ畫キ其上方ニ Palmer ト其左右ニ Trade mark 及 E. P. ノ文字ヲ分記シテ成リ登録第四四二八三號商標ハ Palmer Cord Tyre ノ文字ヨリ成リ請求人ノ専用ニ係レリ今此兩商標ヲ被請求人ノ専用ニ係ル登録第五四七〇〇號商標ト比較審案スルニ被請求人ノ商標ハ Harner ナル文字ヲ下部ノ布片中ニ記シ二葉ヲ以テ圓形ノ輪廓ヲ造リ其内ニ F 字ヲ四箇組合セテ十字架狀ノ圖形ヲ畫キテ成リ其外觀ニ於テ何等類似ノ點無シ請求人ハ Palmer ト Harner トハ其稱呼相類似スルモノナリト主張スレトモ「パーマー」ハ英米兩國ニ存立スル「パーマー」護謨會社ノ製品「タイヤ」ノ名稱トシテ我國ニ於テ普通ニ使用セラル、處ニシテ「パーマー」ナル標章カ請求人ノ標章トシテ世人ニ周知セラレタリト認ムルヲ得ヌ又請求人ノ専用スル兩商標ト被請求人ノ専用スル本件商標トハ其稱呼ニ於テモ亦類似セス彼此混同誤認ノ虞ナキモノニシテ被請求人ノ商標カ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノト云フヲ得ヌ以上ノ理由ニ依リ被請求人ノ登録第五四七〇〇號商標ハ商標法第二條第五號及第三號ニ該當セサルモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月二十七日於特許局



審判長 特許局事務官 村山小次郎
 同 三浦惠一
 同 馬場穎一

第二千五百八十三號

神戶市楠町四丁目百七十九番屋敷 請求人 瀧川 辨三
 東京市京橋區館屋町十番地特許辨理士 右代理人 内村達次郎
 同 市京橋區館屋町十番地特許辨理士 同 藤田實雄
 同 市日本橋區吳服町二番地特許辨理士 同 杉田金之助
 岡山市大字下石井百十番地 被請求人 田中鹿子吉
 同 市東中山下三丁目二十七番地特許辨理士 右代理人 藤田和孝

右當事者間ノ第五四二六九號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
 主文 第五四二六九號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス
 申立ノ要領 請求人ハ第五四二六九號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人ノ専用スル登録商標第五四二六九號ハ請求人ノ専用スル登録商標第一號乃至第四號證ニ類似シ殊ニ甲第四號證ニ示ス商標即チ登録第四一〇一六號商標トハ其色彩ニ於テモ最モ近似スルモノトス故ニ商標法第三條第一項ノ規定ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ハ無効タルヘキノナリト主張シ證據トシテ甲第一號證乃至第八號證及甲第十號證乃至第十七號證ヲ提出セリ
 被請求人ハ第五四二六九號商標登録無効ノ請求ハ之ヲ却下ス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ本件登録商標ハ請求人ノ登録商標第四一〇七號「更新第四九七二〇號」ニ類似セスト主張シ證據トシテ乙第一號證及第二號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 請求人ノ専用スル登録第四九七二〇號商標ハ明治二十四年十二月二十八日出願同二十五年二月十七日第四一〇七號トシテ登録セラレタル商標ノ更新登録ヲ受ケタルモノニシテ其聯合商標タル第四〇八五一號、第四〇八五二號、第四一〇一六號商標ハ何レモ明治四十二年十一月一日登録出願同四十二年四月十一日ノ登録ニ係リ商品摺附木ニ使用スルモノニシテ何レモ横長方形ノ輪廓内ノ中央ニ桃ノ圖形ヲ畫キ之ニ文字及輪廓ヲ附シテ成レリ特ニ第四〇八五一號第四〇八五二號及第四一〇一六號商標ハ着色ヲ限定セルコト甲第二號證乃至第四號證ニ示スカ如シ而テ被請求人ノ登録第五四二六九號商標ハ明治四十五年四月二十九日登録出願同年七月九日ノ登録ニ係リ同シク商品摺附木ニ使用スルモノニシテ横長方形輪廓内中央ニ桃ノ圖形ヲ畫キ其圖形内ニ獅子ノ太鼓ニ前足ヲ掛ケ居ル圖形ヲ畫キ其商標ノ着色ハ白紙ヲ用ヒ母子線ト桃形「ギボシ」竝ニ唐草形太鼓ト獅子ヲ藍色ニ畫キ「ギボシ」形ハ黄色其ノ斑點ヲ赤藍トシ獅子ノ頭毛ニ赤色ヲ附ス其外ノ地紙ヲ赤ニ染メ歐文ヲ抜文字トシ紙質ヲ顯ハスニアリ仍テ請求人ノ専用スル四箇ノ商標ト本件商標トヲ比較審按スルニ兩者何レモ桃ノ圖形ヲ以テ商標構成ノ要部ト爲シ他ノ圖形又ハ文字ハ附記又ハ副景ナリト認ム被請求人ハ請求人ノ主張セル甲第四號證ト第五四二六九號登録商標トノ彩色ヲ殆ト同様ナリト云ヘルニ對シ被請求人ハ多少ノ色彩上ノ類似ハ之レヲ認ムルモ甲第四號證ハ暗赤色ニシテ本件商標ハ眞紅色ノ差違アリ又甲第四號證ハ桃印ニシテ被請求人ノ登録商標第五四二六九號ハ桃形又ハ桃獅印ナルノミナラス甲第四類證ハ「桃印」ナル大形ノ文字及ヒ Made in Japan ナル羅馬字アルニ反シ第五四二六九號登録商標ニハ Best Match ナル大形ノ白字アリテ小兒ト雖モ右兩商標ヲ識別シ得ト云ヒ又摺附木ノ外函カ請求人ノ使用スルモノト被請求人ノ使用スルモノト互ニ類似シ其差違ヲ認メ難シトノ請求人ノ主張ニ對シテ被請求人ハ甲第十號證ニハ桃印  清燈社トアリ甲第十一號證ニハ桃形  精燈館トアリテ二者大ナル差違アルノミナラス外函

ハ本件ノ争點ニ關係ナシト主張ス然レトモ甲第四號證ニ示ス商標即チ登録第四一〇一六號商標ト本件商標トハ其着色及圖形ノ全體ニ於テ甚タ酷似スルモノト認メ猶摺附木ノ外函上ノ表示ニ就テハ本件係争ノ事件ニ付直接關係ナキヲ以テ説明セス之レヲ要スルニ請求人専用ノ登録第四九七二〇號、第四〇八五一號、第四〇八五二號及第四一〇一六號商標ト本件商標トハ何レモ桃ノ圖形ヲ商標構成ノ要部トセル點ニ於テ外觀上相類似シ特ニ着色ヲ限定セル登録第四一〇一六號商標ト本件商標トハ一層酷似スルノミナラス請求人ノ前記四箇ノ商標ト本件商標トハ稱呼ニ於テモ亦互ニ類似スルモノトス而シテ兩者指定商品ヲ同シクシ又請求人専用ノ四箇ノ商標ノ登録出願ハ何レモ被請求人専用ノ本件商標ノ登録出願ヨリ先ナルヲ以テ本件商標ハ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年六月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 村山小次郎
同 三浦惠一
同 馬場穎一

第二千六百四十四號

大阪市南區西賑町十九番地 請求人 萩原辰藏
同 市東區淡路町一丁目二十四番地特許辨理士 右代理人 佐々木高吉
〇七十一

右當事者間ノ第五六四八九號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 審判被請求人ノ專用スル商標第五六四八九號登錄ハ無効トス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 審判請求人申立ノ要領ハ被請求人專用ノ第五六四八九號登錄商標ハ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ前記商標ハ請求人專用ノ第四八九六六號登錄商標ト同一若ハ類似ニシテ後願ニ係ルモノナリト謂フニ在リテ甲第一、二號證ヲ提出セリ

審判被請求人ノ申立ノ要領ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ前記兩商標ハ同一若ハ類似ノ商標ニアラスト謂フニアリ

審決ノ理由 今前記兩商標ヲ比較對照スルニ被請求人ノ專用スル登錄第五六四八九號商標ハ單ニEMPPRESSト書シ其ノ下ニ片假名ニテ「エンプレス」ト記シテ成レルモノナリ而シテ請求人ノ專用スル登錄第四八九六六號商標ハ大中小三箇ノ方形ノ輪廓ヲ設ケ其ノ大廓内ニEMPPRESSト大書シ且三箇ノ輪廓内ニハ細字ヲ以テ種々ノ英語ヲ記入シ尙大小兩廓内ニハ小サキ鳥ノ圖形ヲ畫ケルト種々ノ文字及圖形ノ結合ヨリ成レルコト被請求人主張ノ如シト雖該商標ヲ一見スル者ハ何人ト雖其主要部分ハ赤色ヲ以テ大廓内ニ大書セルEMPPRESSナルコトヲ否ムヘカラス仍テ案スルニ請求人主張ノ如ク兩商標ハ共ニEMPPRESSナル文字ヲ主要部分トスルモノニシテ商標自體ヨリ生スル稱呼モ亦共ニ「エンプレス」ナルハ類似商標タルコト明ナリ被請求人ハ此ノ點ニ關シタトヘEMPPRESSナル文字アレハトテ其ノ他種々ノ文字及圖形トノ結合ヨリ成レル商標ハ單純ニEMPPRESSナル文字ヲ英語及片假名ニテ二様ニ表セル被請求人所有ノ商標トハ外觀的觀察ニ於テ差異アルカ故ニ同一若ハ類似商標ト云フヲ得

スト主張スト雖不當ナリ而シテ兩商標ノ指定商品モ亦共ニ石鹼ニシテ登錄第五六四八九號商標ノ出願ハ大正元年八月十四日登錄第四八九六六號商標ノ出願ハ明治四十四年八月十七日ナレハ前者ハ後者ヨリ後願ナルカ故ニ登錄第五六四八九號商標ノ登錄ハ商標法第三條第一項ノ規定ニ反ス從テ其ノ登錄ハ同法第十一條ニ依リ無効トスヘキモノナリ
依テ主文ノ如ク審決ス

大正二年六月二十八日於特許局

審判長 特許局事務官 村山小次郎
同 三浦 惠一
同 馬場 穎一

第二千六百七十四號

大阪市東區道修町二丁目一番地 請求人 藤澤友吉
市東區淡路町一丁目二十四番地特許辦理士 右代理人 佐々木高吉
市西區北堀江通一丁目二十五番地 被請求人 大西紋次郎
市南區安堂寺橋通一丁目五番屋敷特許辦理士 右代理人 小池宗三郎
市南區鹽町一丁目二十二番地特許辦理士 同 木村丑三郎

右當事者間ノ第五六九二一號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 第五六九二一號商標ノ登錄ハ散藥、丸藥、煉藥、防臭劑ヲ除キタル第一類化學品、藥劑及醫療補助品

一切ニ對シテ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ第五六九二一號商標ノ登録ハ散藥、丸藥、煉藥、防臭劑ヲ除キタル第一類化學品、藥劑及醫療補助品一切ニ對シテ之レヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ登録第五六九二一號商標ハ請求人ノ專用スル登録第二〇三八六號及第五五一一二號商標ニ類似シ指定商品モ亦抵觸スルヲ以テ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ハ無効タルヘキモノナリト主張シ證據トシテ甲第一號證乃至第七號證ヲ提出セリ

被請求人ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ登録第五六九二一號商標ハ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ該當シ其登録ハ無効タルヘキモノニ非スト主張シ證據トシテ乙第一號證乃至第三號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 請求人ノ登録第二〇三八六號商標ハ散藥、丸藥、煉藥、防臭劑ヲ除キタル化學品、藥劑及醫療補助品一切ノ商品ヲ其ノ指定商品ト爲シ明治三十六年七月十九日出願同年十一月十三日登録ヲ受ケタルモノニシテ登録第五五一一二號商標ハ右商標ノ聯合商標トシテ同一商品ニ使用スル爲メ明治四十五年七月二十五日出願大正元年十月七日登録セラレタルモノナリ而シテ被請求人ノ登録第五六九二一號商標ハ大正元年十月二十三日出願大正二年一月九日登録セラレ化學品、藥劑及醫療補助品一切ヲ以テ其指定商品ト爲セリ仍テ本件商標ト登録第二〇三八六號商標ト比較審按スルニ前者ハ劍尖圓ノ中央部ニ一少年カ頭部ニ鉢巻ヲ爲シ左手ヲ腰ニシ刀ヲ佩シ右手ヲ額ニシ兩足ヲ開シ劍舞シツ、アル姿勢ヲ爲ス圖形ヲ畫キ其人物ノ胸部ニ劍舞ノ二字ヲ記シ人物ノ兩側ニハ大日本及劍舞商會ノ文字ヲ分記シ人物ヨリ光線ヲ發射スル圖ヲ畫キ着色ハ地色ヲ赤色ト爲シ光線ヲ白抜キトシ其他ノ圖形及劍舞ノ文字ハ

藍色大日本劍舞商會ノ文字ハ黑色ト爲セルニ反シ後者ハ鐘植ノ周邊ニ光線ヲ現ハシタル圖形ヨリ成リ二者外觀ヲ異ニスルノミナラス稱呼ニ於テモ異ナレルモノト認ム故ニ本件商標ハ登録第二〇三八六號商標トノ關係ニ於テ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効ト爲スコトヲ得ス然ルニ本件商標ト登録第五五一一二號商標ト比較審按スルニ本件商標ハ前記ノ如キ構成ニ成リ登録第五五一一二號商標ハ人物ノ圖形ニ於テ本件商標ト差違アリト雖モ何レモ劍尖圓ノ圖形内ニ人物ヲ畫キ且其劍尖内ノ外周即チ劍ノ集合體ヲ赤色ト爲セル着色ノ點ニ於テ中央人物ヨリ發射スル光線ヲ白抜キトシ人物ヲ藍色トセルヲ以テ全體トシテ外觀上二者互ニ類似スルモノトス而シテ指定商品互ニ抵觸シ且本件商標ハ登録第五五一一二號商標ノ登録ヨリ後ナルヲ以テ本件商標ハ指定商品散藥、丸藥、煉藥、防臭劑ヲ除キタル第一類化學品、藥劑及醫療補助品一切ニ付商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノトス被請求人ハ本件商標ハ自己ノ專用ニ係ル登録第五一九七二號商標及登録第五二六六〇號商標ノ聯合商標トシテ登録セラレタルモノニシテ被請求人ハ請求人ノ登録商標第五五一一二號ヲ排除スヘキ理由アリト主張スレトモ本件商標ト登録第五五一一二號商標トノ間ニ在リテハ本件商標ハ其登録出願ノ日ニ於テ後ナルヲ以テ被請求人ノ此點ニ關スル主張ハ當ラサルモノトス猶當事者間論爭スルトコロアリト雖本件審決ニ必要ナキヲ以テ之レヲ説明セス仍テ本文ノ如ク審決ス

大正二年七月二日於特許局

審判長 特許局事務官 村山小次郎
同 三浦惠一
同 馬場顯一

第二千五百八十六號

七十六

大阪市東區安土町四丁目四十二番地	請 求 人	大 崎 代 吉
同 市東區北濱五丁目七十番地特許辨理士	右 代 理 人	渡 邊 菊 之 助
同 市東區當盤町一丁目百二十六番地	被 請 求 人	山 名 泰 助
同 市北區堂島中一丁目二十三番地	同	酒 井 亮 三
同 市東區淡路町一丁目二十四番地特許辨理士	右 代 理 人	佐 々 木 高 吉

右當事者間ノ第五四八八二號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 審判請求人申立相立タス

審判費用ハ審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ被請求人ノ専用スル登録第五四八八二號商標ノ登録ハ商品香水ニ對シテ之ヲ無效トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審判相成度ト申立テ其理由ハ登録第五四八八二號商標ハ商標法第三條第一項及第二條第五號ノ規定ニ違反スルヲ以テ同法第十一條ニ依リ其登録ハ無効トスヘキモノナリト主張シ證據トシテ甲第一號證乃至第六號證ヲ提出シ審判番號第一一五〇號、第一一七一號、第一一二八號、第一八三四號及抗告審判番號第二五一號事件ノ審決ヲ援用セリ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由トシテ登錄第五四八八二號商標ハ商標法第三條第一項及第二條第五號ノ規定ニ違反スルモノニ非スト主張シ證據トシテ乙第一號證乃至第六號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 被請求人専用ノ登録第五四八八二號商標ハ商品香水其他ニ使用スル爲メ明治四十五年五月

三十日登録出願ヲ爲シ大正元年九月十二日其登録ヲ受ケ白鶴ノ二文字ヲ縦書シ其上ニ羅馬字ニテ Hakutsuru ノ文字ヲ記シテ成リ而シテ請求人ノ専用スル登録第一三三九四號商標ハ商品香水ニ使用スル爲メ明治三十二年九月二十八日出願同年十月二十五日登録ヲ受ケ其商標タル鶴ノ圖形ヨリ成レリ次テ請求人ハ右商標ノ聯合トシテ明治四十四年九月五日出願同年十月十九日第四八五七六號商標ノ登録ヲ受ケ其商標タル鶴香水ノ文字ヨリ成レリ猶請求人ハ鶴ノ圖形ニ付第三〇一七〇號、第四八八七六號、第四八八七七號、第四九〇七〇號乃至第四九〇七三號ノ登録商標ノ専用權ヲ有シ此等商標ノ登録出願ハ何レモ被請求人ノ本件商標ノ登録出願ヨリ先ナリトス

仍テ本件商標ト請求人ノ専用スル登録第一三三九四號、第三〇一七〇號、第四八八七六號、第四八八七七號、第四九〇七〇號乃至第四九〇七三號トヲ比較審按スルニ本件商標ハ白鶴及 Hakutsuru ノ文字ヲ以テ成リ請求人ノ前記八箇ノ商標ハ何レモ鶴ノ圖形ヲ商標構成ノ要部トセルモノニシテ二者其外觀及稱呼ニ於テ差違アリト認ム而シテ本件商標ト請求人専用ノ登録第四八五七六號商標トヲ比較スルニ後者ハ鶴香水ノ文字ヨリ成リ前者ハ白鶴及 Hakutsuru ノ文字ヨリ成ルヲ以テ二者外觀稱呼共ニ類似セサルモノト認ム從テ本件商標ハ商標法第三條第一項ニ違反セサルモノニシテ同法第十一條ニ依リ之レカ登録ヲ無効トスヘカラサルモノトス猶請求人ハ請求人ノ前記九箇ノ登録商標及其他前記登録商標ノ聯合商標ヲ多數ニ所有シ且此等商標ノ使用ニヨリ鶴香水ナル香水ハ請求人ノ商品トシテ何人ニモ認識セラレ世人ノ周知スルコロナリト主張スレトモ之レヲ證スルニ足ルモノナキノミナラス本件商標ト請求人専用ノ登録第一三三九四號、第四八五七六號、第三〇一七〇號、第四八八七六號、第四八八七七號、第四九〇七〇號乃至第四九〇七三號商標トカ既ニ類似セサル以上本件商標ヲ世人ノ周知スル請求人ノ標章ト同一又ハ類似スルモノナリト爲シ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ之レカ

七十七

登録ヲ無効ト爲スコトヲ得ス猶請求人竝ニ被請求人ノ間ニ於テ論争スルトコロアリト雖審決ニ必要無キヲ以テ説明セス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月一日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
同 三浦 惠一
同 馬場 穎一

第二千六百六十九號

佛蘭西國巴里市ヴラント街十八番 請求人 ウィクトルクロート
神戸市橋通二丁目七番邸特許辦理士 右代理人 飯田 勇記
同 市御幸通八丁目五十五番屋敷 被請求人 日野 筆吉

右當事者間ノ第三〇三二五號登録商標權利範圍確認審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 被請求人カ商品化粧水ノ標章中ニ使用スル『ヒノー』ナル文字ハ登録商標第三〇三二五號ノ權利範圍ニ屬ス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人カ商品化粧水ニ使用スル『ヒノー』ナル標記ハ登録商標第三〇三二五號ノ權利範圍ニ屬ス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人ハ其商品ニ

『ヒノー』化粧水ナル文字ヲ記シタル標章ヲ使用ス然ルニ請求人ハ明治四十年八月二十日第三〇三二五號ヲ以テ第四類香水、香油、化粧水等ノ化粧品一切ニ對シED. Pinard ナル文字商標ノ登録ヲ受ケタリ而シテ佛語 Pinard ハ其發音『ヒノー』ナルヲ以テ被請求人ノ標記『ヒノー』ナル文字ハ之ト相類似スルモノナリ而シテ被請求人ノ姓ハ日野ナルヲ以テ之ヲ假字ニテ記セハ『ヒノ』ナルヘキニ之ヲ殊更ニ『ヒノー』ト引伸ハシ『ヒノー』化粧水ト稱スルハ普通ノ方法ヲ以テ自己ノ氏名ヲ表示スルモノニアラスト云フニアリテ甲第一號同第二號證ヲ提出シタリ

被請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ使用スル『ヒノー』化粧水ノ標章中『ヒノー』ノ文字ハ被請求人ノ姓日野ヲ假字ニテ表示シタルニ過キス且被請求人ハ請求人ノ第三〇三二五號商標ノ登録アリタル事實ヲ知ラス又其使用開始ハ請求人カ第三〇三二五號商標ノ登録ヲ受ケタル以前ナリ而シテ請求人ノ登録第三〇三二五號商標ハ全部佛語ニテ記シ被請求人ノ商標ハ『ヒノー』ト日本語ニテ記ス從テ彼此相類似スルモノニアラスト云フニアリテ乙第一號證乃至第四號證ヲ提出シタリ

審決ノ理由 被請求人カ商品化粧水ノ標章中『ヒノー』ナル文字ヲ使用スルコトハ甲第一號證竝ニ同第二號證及被請求人ノ提出ニ係ル乙第二號證標章ノ内ニ記載アルコトニ依リテ之ヲ認ムルニ足ルノミナラス當事者間争無キ事實ナリ今請求人ノ專用ニ係ル登録商標第三〇三二五號ハ同シク化粧水其他ニ使用スルモノニシテ ED. Pinard ノ文字ヨリ成リ其商標ノ稱呼ハ『ヒノー』ナリ然ルニ被請求人ノ使用スル『ヒノー』ナル文字ト『ヒノー』トハ發音互ニ相類似スルモノナリ爲メニ被請求人ノ標章中『ヒノー』ナル文字ハ請求人ノ登録商標第三〇三二五號ノ商標權利範圍ニ屬スルモノナリト云ハサルヘカラス被請求人カ其標章中『ヒノー』ト記セルハ自己ノ姓日野ヲ表示シタルモノナリト主張スレトモ日野ナルヲ姓ヲ引伸シテ『ヒノー』ト記スルハ商標法第六條ニ所謂普通ニ使用セラル、方法ヲ以テ自己ノ氏名ヲ表示

スルモノト認ムルヲ得シテ被請求人ノ標章カ請求人ノ商標權ノ範圍内ニ屬ストノ認定ヲ覆ヘスニ足
ラス以上ノ外當事者間論争スル處アルモ審決ニ必要ナキヲ以テ説明セス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月三日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
同 同 三 浦 惠 一
馬 場 穎 一

第二千四百七十二號

獨逸國ハンノーベル

請 求 人

コンチネンタル、カウ
チユツク、ウント、グッタベ
ルチャ、コムパニー

横濱市山下町二十四番地特許辨理士

右 代 理 人

ドクトル、カール、
フォーグト

東京市赤坂區溜池町五番地

被 請 求 人

合資會社二葉屋

同 市神田區猿樂町三丁目三番地特許辨理士

右 代 理 人

平 澤 均 治

右當事者間ノ第二六四七九號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 審判請求人申立相立タス

審判費用ハ審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ被請求人所有ノ登録第二六四七九號商標ハ指定商品中自轉車構成部分各種「タイ
ヤ」其他二十類ニ屬スル護謨製品ニ對シテ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度
ト申立テ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立タリ

審決ノ理由 請求人主張ノ第一點ハ請求人會社ハ本店ヲ獨逸國ニ支店ヲ英國及米國ニ設立シテ以來年ヲ
經ルコト古ク其製品ヲ「コンチネンタル」ト稱シ其登録權ヲ得居ルヲ以テ該商標ハ會社ノモノ
ニシテ他ノ窺竊ヲ許サス且米國支店ヲ除クノ外獨逸及英國ニ於ケル商標ハ共ニ「コンチネンタル」云々
ト稱スルヲ以テ「コンチネンタル」ハ其商標ナリ故ニ被請求人所有ノ登録第二六四七九號「コンチネン
タル」ナル商標ハ商標法第二條第八號ニ違反スト云フニアリ然レトモ前段主張ノ外國ニ於テ登録セラ
レタリトノ事實ノミニテハ被請求人ノ商標ヲ無効タラシムヘキ理由トナラス何トナレハ之ノ事實ノミ
ヲ以テシテハ商標法違反ニアラサレハナリ後段主張ノ他人ノ商標ノ無斷使用ハ現行商標法施行後ノ登
録ニ繋ルモノニハ理由アル主張ナリト雖被請求人所有ノ該商標ノ登録ハ明治三十九年六月二十九日ナ
ルカ故ニ現行法施行前ニシテ同法附則ノ規定ニ依リ有效ナルモノナリ從テ請求人ノ主張ハ理由ナシ請
求人主張ノ第二點ハ本邦ニ於テ「コンチネンタル」カウチユツク、ウント、グッタベルチャ、コムパニー」
ノ名稱ハ獨逸商品トシテ熟知セラレ現ニ明治三十四年ノ頃本會社ノ馬印ノ商標ヲ第一五七一七號ヲ以
テ登録セラレタリ此ニ依リテ會社ノ商號ハ流布セラレタリ故ニ被請求人ノ商標ハ商標法第二條第五號
ニ該當スルヲ以テ無効トスヘキモノナリト謂フニアリ然レトモ其會社名ヲ商品ニ使用セラレタリトス
ルモ被請求人ノ商標登録前請求會社名カ商品ノ標章トシテ我國内ニ周知セラレタリトノ事實ハ請求人
提出ノ證據及證人訊問ニ依リ之ヲ認定スルニ不充分ナリ且馬印ノ商標ノ登録ヲ爲セルカ故ニ請求會社

ノ名カ世上ニ流布セラレタリト云フモ理由ナキ主張ナリトス何トナレハ世人周知ハ事實問題ニシテ單ニ商標公報申請會社名ノ記載アリタレハトテ直ニ之ヲ以テ周知ノ標章ト斷定スルヲ得サレハナリ請求人主張ノ第三點ハ世界到ル所「コンチネンタル」ヲ聞知シ評論シ「コンチネンタル」ト言ヘハ直ニ本會社製品ヲ聯想スルニ至レリ從テ被請求人ノ商標ハ商標法第二條第五號ニ該當スト主張スレトモ「コンチネンタル」ト言ヘハ請求人會社製品ヲ聯想スレハトテ直ニ以テ被請求人ノ商標ニ對シ商標法第二條第五號ノ適用ヲ主張スルヲ得ス何トナレハ「コンチネンタル」ナル詞ヲ商品ノ標章トシテ使用シタル事實ヲ立證スルニアラサレハ第二條第五號ニ該當スルニ至ラサレハナリ請求人主張ノ第四點ハ西曆千八百九十九年以來已ニ業ニ本會社製造ノ自轉車「タイヤ」及其他ノ物件ハ「コンチネンタル」ノ表記ヲ以テ輸入セラレタリ且「コンチネンタル」カ日本ニ於テ使用セラレタルハ被請求人ノ商標ノ登錄ヲ受ケタル以前ニ屬ス從テ被請求人ノ商標ハ商標法第二條第四號及第五號ニ該當スト主張シ之カ證據方法トシテ甲第九號證乃至第二十二號證ヲ提出セリ之ノ證據方法ニ付按スルニ廣告又ハ代價表ノ送附又ハ數箇乃至數十箇ノ輸入アリタルコトハ之ヲ認ムト雖モ被請求人ノ商標登錄前本邦ニ於テ「コンチネンタル」カ世人周知ノ標章ト稱シ得ル程度ニ達セリト認ムルヲ得ス從テ被請求人ノ商標ヲ商標法第二條第五號ニ該當スト云フヲ得ス又商標法第二條第四號ハ同業者カ同一商品ニ慣用スル標章ヲ意味スルカ故ニ請求人カ如何ニ多額ノ「タイヤ」ヲ製造シ之ニ「コンチネンタル」ナル標章ヲ附シテ輸入シタレハトテ被請求人ノ商標ヲ目シテ該條項ニ該當スト主張スルヲ得ス請求人主張ノ第五點ハ被請求人ハ其商標登錄以前ニ於テ歐米滯在中業ニ「コンチネンタル」ナル會社ノ存在及「コンチネンタル」ナル名義ヲ以テ製造セラル、製品ノ販賣セラル、コトヲ熟知シ乍ラ急遽歸朝シ其ノ商標ヲ出願セシハ他人ノ商標權ヲ侵害セシモノト云フヘク從テ被請求人ノ商標ハ商標法第二條第三號第五號及第八號ニ該當

シ無効タルヘキモノナリト謂ヒ其證據方法トシテ甲第六號證及甲第七號證ヲ提出セリ然ルニ甲第六號證及甲第七號證ハ共ニ西曆千八百七十七年ノ日附ニシテ被請求人ノ商標登錄出願ハ千九百零六年一月ニシテ其登錄ハ同年六月二十九日ナリ從テ此證據方法ノミヲ以テシテハ被請求人ノ熟知云々ヲ立證スルヲ得ス又甲第十九號證モ請求人主張ノ如ク「即チ被請求人ノ登錄ニ關シ協議中ナリシ千九百零八年一月一日ニ於テ其書ハ記サレタリ」ト云フモ本件商標ノ千九百零六年ニ登錄セラレタルモノカ千九百零八年ニ於テ其登錄ニ關シ協議セラル、ノ理ナシ又被請求人ノ不知ヲ別問題トスルモ我國ニ於テ登錄ナキ商標ニ付商標權侵害ノ問題ハ起ラサルヘシ又被請求人ノ商標ヲ以テ商標法第二條第三號ニ該當スト主張スルニハ請求人ノ商標「コンチネンタル」カ本邦内ニ於テ一定程度迄周知セラレ被請求人ノ商品ヲ請求人ノ商品トシテ混同誤認セラル、モノナルコトヲ立證スルヲ要ス然ルニ被請求人ノ商標登錄當時ニ於テハ「コンチネンタル」ナル請求人ノ商標ハ本邦内ニ知ラル、コト此程度ヲ達セルモノナルコトハ請求人提出ノ證據方法ニテハ之ヲ認ムルニ不十分ナリ從テ世人欺瞞ト稱スルヲ得ス其他ノ點ニ付テハ既ニ前說セルヲ以テ省略ス

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月九日於特許局

審判長 特許局事務官 村山小次郎
 同 同 三浦惠一
 馬場 穎一

第二千四百七十一號

獨逸國ハンノーベル

請求人

コンチネンタル、カウ
チエック、ウント、グッタ
ルチヤ、コムパニー

横濱市山下町二十四番地特許辨理士

右代理人

ドクトル、カール、
フォーグト

東京市赤坂區溜池町五番地

被請求人

合資會社二葉屋

同 市神田區猿樂町三丁目三番地特許辨理士

右代理人

平澤均治

右當事者間ノ第四六三〇九號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人所有ノ商標第四六三〇九號登録ハ指定商品中自轉車用構成部分各種「タイヤ」其他第二十類ニ屬スル護謨製品ニ對シテハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ所有スル登録第四六三〇九號指定商品中自轉車用構成部分各種「タイヤ」其ノ他第二十類ニ屬スル護謨製品ニ對シテハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人會社ハ獨逸國ニ本店ヲ有シ英國及米國ニ支店ヲ有シ其ノ製品ヲ「コンチネンタルタイヤ」ト稱シ前記各國ニ於テ登録ヲ得タリ又請求人會社ノ商標ナル「コンチネンタル、カウチエック、ウント、グッタベルチャ、コムパニー」ナル名稱ハ明治三十四年頃本會社ノ商標ナル馬印ノ商標第一五七一一七號ヲ以テ本邦ニ於テ登録セラレ之ニヨリ會社ノ商標ハ流布セラレタリ又其略語ナル「コンチネンタル」ハ請求人會社ノ商標トシテ世上一般ニ認識セラレ、ノミナラス西曆千八百九十九年以來會社製品ニ「コンチネンタル」ノ表記ヲ附シ本邦ニ輸入セルハ被請求人カ該商標ノ登録ヲ

受ケタル以前ニアリ且ツ被請求人ハ千九百五年歐洲ニ滞在シ「コンチネンタル」ナル會社ノ存在商標及「コンチネンタル」ナル名義ヲ以テ製出セラル、製品ノ販賣セラル、コトヲ熟知シナカラ急遽歸朝シ其ノ登録ヲ受ケタルモノナリ從テ被請求人所有ノ商標ハ商標法第二條第三號、第四號、第五號及第八號ニ該當スルモノナリ依テ商標法第十一條ニ依リ無効タルヘキモノナリト主張シ其證據方法トシテ甲第一證乃至甲第二十二號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ外國ニ於テ登録セラレタルモ本邦ニ於テ登録ナキ以上商標權侵害ノ問題ハ起ラス又「コンチネンタル」ナル詞ハ大陸ヲ意味スルカ故ニ敢テ請求人會社若ハ其商品ヲ聯想スルモノニアラス且ツ假令之ヲ以テ請求人會社ノ商標トスルモ舊商標法ノ下ニ登録セラレタルモノニ就テハ現行商標法附則第二項ノ規定ニ依リ同法第二條第八號ヲ適用セラレサルモノナリ而シテ被請求人ノ本件商標ハ明治三十九年舊商標法ノ下ニ登録ヲ受ケタル第二六四七九號商標ノ聯合商標ナリ從テ第二六四七九號商標カ商標法第二條第八號ノ適用ヲ受ケサル以上ハ本件商標ノ登録モ亦有效ナルモノナリ又「コンチネンタル」會社名ハ多年熟知セラレタリトテ標章ニ何等關係無シ且ツ第一五七一一七號商標ノ馬印ハ毫モ「コンチネンタル」ノ標章ヲ記載スルモノニアラサルノミナラス請求人ノ商品カ「コンチネンタル」ナル表記ヲ以テ本件商標登録前本邦ニ輸入セラレタル事實ハ之ヲ認メス從テ被請求人ノ商標ヲ目シテ商標法第二條第五號ニ該當スト云フヲ得ス又請求人ハ被請求人カ滯歐中「コンチネンタル」ノ商標ヲ熟知シ乍ラ急遽歸朝シ其登録ヲ受ケタルハ他人ノ商標權ヲ侵害スルモノナルト主張スレトモ請求人提出ノ甲第六號證以下ニ示ス如ク本件商標ノ聯合商標ナル第二六四七九號商標ハ千九百六年ニ登録セラレタルモノニシテ甲第六號證ハ千九百七年ノモノナリ從テ請求人ノ主張ハ理由ナシト云フニアリ

審決ノ理由 「コンチネンタル」ナル詞ハ請求人ノ商號ノ略號ニシテ商號タルノ價值アルモノナリ被請求人ハ此點ニ關シ「コンチネンタル」ナル詞ハ大陸ヲ意味スル普通名稱ニシテ何人モ之ヲ使用シ得ヘク請求人會社ニ何等關係ナキモノナリト主張スレトモ被請求人ノ該商標ノ登録ヲ受クル前即チ明治四十三年末迄ニハ「コンチネンタル」カウチユック、ウント、グッタペルチヤ、コムバニー」カ其製造「タイヤ」ヲ「コンチネンタル」ト稱シテ我國ニ代價表竝ニ見本ヲ輸送セルコト竝ニ其輸入商品ニ「コンチネンタル」ナル文字標章アルコト及「コンチネンタル」ト言ヘハ直ニ請求人會社ノ商品トシテ知ラル、コトハ請求人提出ノ證據書類及證人ノ證言ニ依リテ明ナルカ故ニ「コンチネンタル」ハ請求人會社ノ商號トシテ認識セラル、モノナリ又被請求人ハ本件商標ハ明治三十九年中即舊商標法時代ニ登録ヲ受ケタル第二六四七九號商標ノ聯合商標ナリ從テ第二六四七九號商標カ現行商標法附則第二項ノ適用ニヨリ有效ナル以上ハ本件商標モ亦有效ノ商標ナリト主張スレトモ本件商標ハ現行法施行後ニ登録セラレタルモノナルヲ以テ現行法第二條第八號ノ規定ノ適用ヲ受クルハ當然ニシテ舊法ニ依リ登録ヲ受ケタル商標ニアラサルカ故ニ附則第二項ノ適用ナキモノナリ從テ被請求人ノ本件商標ハ商標法第二條第八號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ無効トスヘキモノナリ請求人會社ハ本邦ニ其「タイヤ」ヲ輸入セルコト遅クモ明治三十六年ノ頃ニシテ以來「コンチネンタル」ノ名稱ノ下ニ馬印ノ商標及「コンチネンタル」ノ商號ヲ附セル「タイヤ」ヲ輸入シ明治四十三年末ニ至リテハ請求人會社輸入ノ自働車ノ「タイヤ」ニ關シ「コンチネンタル」ナル標章ハ一般當業者間ニ周知セラル、ニ至リシコトハ請求人提出ノ證據書類證人「グスタフマルテンス」竝ニ證人倉林賢造ノ證言竝ニ本件ト關係アル審判番號第二五一四號事件ニ付提出セル甲第一號證乃至第三號證ニ依リテ之ヲ認定スルニ足ル從テ被請求人ノ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ指定商品自働車「タイヤ」ニ對

シ其登録ヲ無効トスヘキモノナリ
以上ノ理由ニ依リ請求人ノ申立ヲ理由アリトシ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月九日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
同 三 浦 惠 一
同 馬 場 穎 一

第二千五百十四號

獨逸國ハンノーベル

請 求 人

コンチネンタル、カウチユック、ウント、グッタペルチヤ、コムバニー

横濱市山下町二十四番地特許辨理士

右 代 理 人

ドクトル、カール、フォーグト

東京市赤坂區溜池町五番地

被 請 求 人

合資會社二葉屋

同 市神田區猿樂町三丁目三番地特許辨理士

右 代 理 人

平 澤 均 治

右當事者間ノ第五〇八〇一號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 審判被請求人所有ノ商標第五〇八〇一號登録ハ其指定商品中第二十類ニ屬スル自働車「ゴム」輪其

ノ他本類ニ屬スヘキ護謨製品ニ對シ之ヲ無効トス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ被請求人ノ所有スル登録商標第五〇八〇一號ハ其指定商品中第二十類ニ屬スル自働車用「ゴム」輪其他本類ニ屬スヘキ護謨製品ニ對シテ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト
審決相成度ト申立テ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タスト審決相成度ト申立タリ

審決ノ理由 請求人主張ノ第一點ハ請求人カ明治四十一年第二十類ニ屬スル護謨製「タイヤ」一切ニ對シ登録ヲ受ケタル第三二五二三號商標ハ中間ニ存スル文字ノ外飛躍セル馬アリト雖該文字竝ニ出願人ノ名義ニ由テ明白ナルノミナラス本會社カ護謨製造會社トシテ世界ニ著聞シ其製品「タイヤ」ハ夙ニ吾邦ニ輸入セルヲ以テ「コンチネンタル」ハ請求人會社ノ商號ナリ從テ被請求人カ明治四十四年十一月二十日登録ヲ出願シ明治四十五年二月二十四日其登録ヲ得タル第五〇八〇一號商標ハ商標法第二條第八號ニ該當ス從テ同第十一條ニ依リ無効タルヘキモノナリト謂フニアリ依テ按スルニ「コンチネンタル」ナル詞ハ「コンチネンタル」カウチユック、ウント、グッタベルチャ、コムバニー」ノ略語ニシテ商號ト認ムヘキモノナリ從テ被請求人ノ商標ハ商標法第二條第八號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノナリ被請求人ハ此點ニ關シ「コンチネンタル」ノ語ハ大陸ヲ意味シ固有名詞ニアラス從テ本件商標ハ商標法第二條第八號ニ該當セスト主張スレトモ「コンチネンタル」カウチユック、グッタベルチャ、コムバニー」カ其製品ヲ「コンチネンタル」ト稱シテ我國ニ代價表竝ニ見本ヲ送附セルコト竝ニ其輸入商品ニ「コンチネンタル」ナル文字アルコト竝ニ「コンチネンタル」ト云ヘハ請求人會社ノ商品トシテ知ラルルコトハ請求人提出ノ證據書類竝ニ證人「グスタフマルテンス」及小林淳二ノ證言ニ依リテ明ナルカ故ニ「コンチネンタル」ハ「コンチネンタル」カウチユック、グッタベルチャ、コムバニー」ノ略語ニシテ商號タル價值アルモノナリ請求人主張ノ第二點ハ請求人

所有ノ登録第三二五二三號商標ニハ馬ノ圖形ノミナラス其中間ノ文字CC&GPCモ主要ナルモノナリ從テ被請求人ノ當該商標ト類似シ後者ハ前者ノ後願ナルカ故ニ商標法第三條第一項ニ依リ無効タルヘキモノナリト主張セリ然レトモ「CC&GPC」ト「Continental」トノ二商標ノ類似ハ之ヲ認ムルヲ得ス從テ此點ニ關スル請求人ノ主張ハ理由ナシ請求人主張ノ第三點ハ明治四十三年十二月「コンチネンタル」ナル標章ヲ附シタル自働車用「タイヤ」ヲ本邦ニ輸入シ當該需要者間ニ周知セラルルヲ以テ被請求人ノ商標ハ商標法第二條第四號及第五號ニ該當スルヲ以テ無効トスヘキモノナリト主張セリ依テ按スルニ請求人會社カ本邦ニ其「タイヤ」ヲ輸入セルハ遅クモ明治三十五年頃ニシテ以來「コンチネンタル」ノ名稱ノ下ニ代價表及見本等ヲ輸入セルコトハ本件ト關聯セル審判第二四七一號及同第二四七二號ニ付提出セル證據ニ依リテ明ニシテ漸次馬印ノ商標及「コンチネンタル」ナル商號ヲ附セル「タイヤ」ヲ輸入シ明治四十三年末ニ至リテ請求人會社輸入ノ自働車「タイヤ」ニ關シテ「コンチネンタル」ナル標章ハ一般營業者間ニ周知セラル、ニ至リシコト甲第一號證乃至第三號證及證人「グスタフマルテンス」竝ニ證人倉林賢造ノ證言ニ依リテ之ヲ認ムルニ充分ナリ依テ被請求人所有ノ商標ハ商標法第二條第五號ニ該當スルヲ以テ其指定商品中自働車「タイヤ」ニ對シテ其登録ヲ無効トスヘキモノナリ此點ニ關シ被請求人ハ既ニ明治三十九年六月二十九日第二十類車ノ護謨製品一切ニ關シ使用スル爲メ「Continental」ノ商標「第二四七九號」ヲ登録セリ從テ何人モ同類商品ニ「コンチネンタル」ノ商標ヲ使用シ得ヘキ權利ナシ故ニ使用ノ權限ナキ請求人カ右標章ヲ使用セル事實アリトスルモ商標法第二條第四號又ハ第五號ノ利益ヲ主張シ得ルノ權ナシト謂フト雖元來自己ノ氏名若クハ名稱ヲ普通ノ方法ヲ以テ商品ニ表示スルハ各人ノ自由ニシテ他人ノ商標權ノ爲ニ制限ヲ受クルモノニアラサルコト商標法第六條ニ規定スル所ナリ從テ請求人ハ普通ノ方法ヲ以テ其商號ノ「Continental」ヲ商品

ニ附スルハ被請求人ノ商標權ノ爲メニ制限ヲ受クルモノニアラス唯請求人ニ於テ被請求人ノ商標權ヲ侵害セントスル惡意ニ出テタルモノナル場合ニノミ此原則ノ適用ナキモノナリ然ルニ請求人會社ハ被請求人カ前記第二六四七九號商標ノ登録ヲ受クル以前即チ明治三十九年以前ニ於テ其會社ヲ設立シ歐米及我國ニモ「コンチネンタルタイヤ」トシテ代價表竝ニ「タイヤ」ヲ輸入セル事實ハ審判事件第二四七一號ニ付提出セル甲第一號證乃至第二十二號證ニ依リテ明ナレハ其善意ノ使用ナルコトニ付疑ナシ從テ被請求人ノ此ノ主張ハ理由ナキモノトス尙請求人ハ被請求人ノ商標ヲ以テ商標法第二條第四號ニ擬スト雖第四號ハ同業者カ同一商品ニ使用スル慣用商標ヲ云ヒ請求人ノ商標ハ慣用商標ニアラサルカ故ニ此主張ハ理由ナキモノトス要スルニ被請求人ノ第五〇八〇一號登録商標ハ商標法第二條第五號ニ該當スルヲ以テ此點ニ於テ其指定商品自働車ノ「タイヤ」ニ無効タルヘク同法第二條第八號ニ該當スルヲ以テ此點ニ關シテ其登録ハ無効タルヘキモノナリ

仍テ請求人ノ申立ニ依リ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月九日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
 同 三 浦 惠 一
 同 馬 場 頴 一

第二千六百二十四號

臺灣臺北廳大加納堡大稻埕得勝外街七十一番戶

請 求 人 陳 朝 駿

同 臺北廳大加納堡大稻埕建昌街二丁目十三番戶

被 請 求 人 陳 大 珍

右當事者間ノ第五四五二〇號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 審判被請求人ノ專用スル第五四五二〇號商標ノ登録ハ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ專用スル第五四五二〇號商標登録ハ無効トヌ審判費用ハ被

請求人ノ負擔トヌト審決相成度其理由ハ請求人ハ先代ヨリ「義裕」ヲ以テ店號トシ然シテ此店號ニ各種

ノ意匠ヲ配シテ商標トシ明治四十一年中第三一七〇五號、第三一七〇六號、第三一七〇七號、第三一七

〇九號ヲ以テ登録ヲ受ケタリ而シテ之等ノ商標ハ何レモ一ハ請求人ノ店號ヲ示シ一ハ請求人ノ商標ナ

ルコトヲ表示シタルヲ以テ義裕ハ請求人ノ店號ニシテ之ニ意匠ヲ加ヘタルモノハ請求人ノ商標ナルコ

トハ世人ノ周知セル所ナリ然ルニ被請求人ノ專用スル登録第五四五二〇號商標「義裕」ハ明ニ請求人ノ

店號ヲ侵シ且ツ請求人專用ノ各商標ニ類似スルモノナルカ故ニ其登録ハ無効タルヘキモノナリト云フ

ニ在リテ甲第一號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タヌ審判費用ハ請求人ノ負擔トヌト審決相成度其理由ハ請求人

ハ先代ヨリ「義裕」ヲ以テ商標トナシタリト主張スルモ請求人カ先代ヨリ用ヒタル商標ハ「義裕」ニアラ

スシテ「永裕」ナリ而シテ被請求人ハ明治十二年頃ヨリ「義裕」ナル商標ヲ使用シ大正元年八月十五日

之カ登録ヲ受ケタルモノナルカ故ニ無効タルヘキモノニアラスト云フニアリテ乙第一號證ヲ提出セリ

審決ノ理由

被請求人ハ明治十二年頃ヨリ本件商標ヲ使用シタリト主張スルモ何等ノ立證ヲナサ、ル

カ故ニ被請求人カ本件商標ヲ其登録出願ニ先立ツ何年前ヨリ使用シタルヤヲ明ニスルコト能ハス從テ

本件商標ヲ以テ商標法第三條第二項ニ間擬スルヲ得ス次ニ請求人ハ先代ヨリ「義裕」ヲ以テ商號トナシ

タリト主張シ之カ立證トシテ甲第一號證ヲ提出セルモ該證據ニ依リテ直ニ請求人ノ主張ヲ確實ナリト認ムルヲ得ス却テ被請求人ノ提出シタル乙第一號證ニ依リ請求人カ其先代ヨリ用ヒタル商標ハ義裕ニアラシテ『永裕』ナルコトヲ認ムルヲ得又請求人ハ其專用ニ係ル登録第三一七〇五號乃至第三一七〇七號及第三一七〇九號ノ商標ハ何レモ一ハ請求人ノ店號ヲ示シ一ハ請求人ノ商標ナルコトヲ表示シタルモノナルカ故ニ『義裕』ハ請求人ノ店號トシテ世人ノ周知スル所ナリト主張スルモ商標ト商標トハ自ラ其性質ヲ異ニスルモノナルカ故ニ假令商標ニ『義裕』ナル文字カ記載シアルモ這ハ單ニ商標ノ構成部分トシテ見ルヘク決シテ之カ爲ニ『義裕』ノ文字カ請求人ノ商標トシテ表示セラレタルモノト云フヲ得ス故ニ之ヲ以テ請求人ノ商標カ『義裕』ナルコトノ證左トナスヲ得テ本件商標ヲ以テ商標法第二條第八號ニ問擬スルヲ得サルモノトス之ヲ要スルニ被請求人ノ專用スル本件商標登録ノ效力ハ該商標カ請求人ノ專用スル登録第三一七〇五號乃至第三一七〇七號及第三一七〇九號商標ト類似スルヤ否ヤニ依リテ決セラル、モノトス仍テ按スルニ請求人ノ專用ニ係ル登録第三一七〇五號乃至第三一七〇七號及第三一七〇九號商標ハ各其圖形及配合セル文字ニ多少ノ相異アルモ何レモ『義裕』ノ文字ヲ表ハシタルモノナリ而シテ被請求人ノ專用スル本件登録商標ハ『義裕』ノ二字ヨリ成ルモノナルカ故ニ請求人ノ專用スル前記各登録商標ニ類似スルモノト認ムヘキモノトス而シテ双方ノ登録商標ハ其指定商品ヲ同フシ且ツ被請求人専用ノ本件登録商標ハ請求人専用ノ登録商標ニ比シテ後願ニ屬スルカ故ニ其登録ハ商標法第三條第一項ノ規定ニ違反シ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効トナスヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十四日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎

同	同
同	三浦 惠一
同	馬場 穎一

第二千五百九十號

亞米利加合衆國紐育市

東京市京橋區三十間堀三丁目三番地特許辨理士

大阪市東區道修町三丁目六十三番屋敷

請求人 ヒムロッド、マニファクチュ
ウ、コムパニー

右代理人 芹澤 孝太郎

被請求人 田邊 五兵衛

右當事者間ノ第五一九五九號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 第五一九五九號商標登録ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ第五一九五九號商標登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由ハ被請求人ノ專用スル登録第五一九五九號ト肖像、文字竝ニ其形狀、配置共全然同一ナル標章ハ西曆千八百七十一年以降北米合衆國ニ於テ「アズマキューア」ナル散藥ノ商標トシテ用ヒラレ我帝國ニ於テモ明治三十九年ヨリ同四十二年十一月被請求人カ本件商標ノ登録ヲ出願シタル當時迄ニ横濱、東京、神戸等ニ於ケル十三人ノ商人ノ注文ニ應シテ請求人會社カ直接ニ輸入シタル分ノミニテモ都合二十七回三百二十餘打ニ達シ請求人ノ標章ノ世人周知ノ事實ヲ確ムルニ足ル從テ本件商標ノ登録ハ商標法第二條第五號ニ該當ス又本件商標ノ要部タル肖像ハ「アズマ、キューア」ノ調劑創始者「ビーター、ヒムロッド」ノ肖像ニシテ被請求人ニ於テ同人ノ承諾ヲ得テ商標ニ之ヲ使用シタルモノニ非ス

此點ヨリ本件商標ハ商標法第二條第八號ニ該當シ其登録ハ無効タルヘキモノナリト主張シ甲第一號證ヲ提出セリ

被請求人ハ請求人ノ主張ニ對シ何等答辯セス

審決ノ理由

本件商標ハ縱長方形函形ノ上面中央ニ人物ヲ畫キ其上部ニ Himrod's Cure ト記シ其左右ニ

Rose cold 及 Influenza ノ文字ヲ分記シ其下部ニ Asthma 其他ノ文字ヲ記シテ成リ藥品散藥ニ使用スルモノニシテ明治四十四年十一月十八日其登録ヲ出願シ同四十五年四月十六日登録セラレタルモノナリ然ルニ本件商標登録出願ノ日以前ニ於テ北米合衆國「ヒムロッド、マニファクチュアコムパニー」カ我國ニ輸入シタル散藥ニ附シタル標章即チ甲第一號證ニ貼付セルモノハ本件商標ト殆ト同一ナリ而シテ明治三十九年ヨリ同四十二年十一月迄ニ東京、横濱、神戸等ノ十三人ノ商人ノ注文ニ依リ直接ニ請求人會社カ輸入シタル分ノミニテモ三百二十餘打ニ及ヒ請求人會社ノ標章カ世人ニ周知セラルルニ至リタルコトハ請求人提出ノ甲第一號證中ニ記載セル數字其他ニ依リ之ヲ信憑スルコトヲ得次ニ請求人カ本件商標ハ他人ノ肖像ヲ有スルヲ以テ豫メ「アズマ、キューア」ノ調劑創始者タル「ピーター、ヒムロッド」ノ承諾ヲ受クヘキモノナリト主張スレトモ本件商標ノ人物ハ商標法第二條第八號ニ所謂他人ノ肖像トシテ其承諾ヲ受クヘキモノナリトノ證據不充分ナリ尙被請求人ハ本件商標ノ無効審判請求ニ對シ何等答辯書ヲ提出セサルノミナラス大正二年二月二十日日本件商標權ヲ拋棄シタル旨ヲ以テ登録ノ抹消ヲ申請シ同月二十七日其登録ハ抹消セラレタリ之ヲ要スルニ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十四日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 村山次郎
同 三浦惠一

第二千六百七十二號

兵庫縣武庫郡大庄村ノ内又兵衛新田字西新田
口ノ割百八十八番地、百八十九番地

請求人 日本リーパー、ブラ
ザース株式會社

右代表者

ヘンリー、トレビリ
アン、トーマス

東京市麴町區内幸町一丁目三番地特許辨理士
横濱市千歲町一丁目九番地

右代理人 増島六一郎
被請求人 宮下利八

右當事者間ノ第五七七五六號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 第五七七五六號商標登録ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ被請求人ノ所有スル第五七七五六號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由ハ被請求人所有ニ係ル第五七七五六號登録商標ハ大正元年十一月三十日登録ヲ出願シ大正二年二月二十八日登録セラレタルモノニシテ香料、燻料及他類ニ屬セサル化粧品ヲ指定商品トス然ルニ請求人所有ノ第五三九四號登録商標ハ明治四十五年六月二十八日

登録ヲ出願シ同年七月十七日登録セラレ香水、香油、白粉、髮膏、香袋、線香、炷香、化粧下其他ノ香料、燻料及他類ニ屬セサル化粧品一切ヲ指定商品トス故ニ被請求人ノ第五七七五六號商標登録ノ出願ハ請求人ノ第五三九四四號商標登録ノ出願ノ日ヨリ後ナリ而シテ二者指定商品全ク同一ナリ而シテ第五七七五六號商標ハ「ペンギン」ノ文字ヲ中央ニ記シ其兩側ニ二羽ノ「ペンギン」鳥ノ圖形ヲ畫キ及右文字及圖形ヲ圍ム薔薇花ノ副飾ノ圖形竝ニ右文字及圖形ニ配シタル着色ヲ以テ構成セラル而シテ右商標ノ要部ハ「ペンギン」ノ文字ヲ第一トシ之ニ次ク「ペンギン」鳥ノ圖形トシ其商標ノ稱呼ハ「ペンギン」ナリ然ルニ第五三九四四號登録商標ハ「Penguin」ノ文字ヨリ成リ其稱呼ハ亦「ペンギン」ナリ故ニ第五三九四四號登録商標ト第五七七五六號登録商標トハ稱呼同一ニシテ然モ商品一致シ後者ハ前者ヨリ後願ナルヲ以テ本願商標ハ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ無効タルヘキモノナリト云フニ在リ

被請求人ハ指定ノ期間内ニ答辯書ヲ提出セス

審決ノ理由 請求人専用ノ第五三九四四號商標ハ明治四十五年六月二十八日出願同年七月十七日登録ヲ受ケ香水、香油、白粉、髮膏、香袋、線香、炷香、化粧下其他ノ香料、燻料及他類ニ屬セサル化粧品一切ヲ指定商品トス然ルニ被請求人専用ノ第五七七五六號商標ハ大正元年十一月三十日出願大正二年二月二十八日其登録ヲ受ケ香料、燻料及他類ニ屬セサル化粧品ヲ指定商品トス故ニ右兩商標ハ指定商品全ク同一ニシテ第五七七五六號ハ第五三九四四號商標ヨリ其登録出願ノ日ニ於テ後ナリ而シテ第五三九四四號商標ハ「Penguin」ノ文字ヨリ成リ其商標ノ稱呼ハ「ペンギン」ナリ第五七七五六號商標ハ「ペンギン」ノ文字ヲ中央ニ記シ二羽ノ「ペンギン」鳥ヲ其文字ノ兩側ニ一羽ツ、畫キ副景トシテ薔薇花ノ圖ヲ附シ且着色シテ成リ「ペンギン」ノ文字及「ペンギン」鳥ノ圖形ハ此商標ヲ構成スル要部ナルヲ以テ此商標ノ稱

呼ハ「ペンギン」ナリト云フヲ正當ト認ム故ニ第五三九四四號ト第五七七五六號商標トハ稱呼ニ於テ二者互ニ同一ナリトス而シテ後者ハ前者ヨリ登録出願ノ日ニ於テ後ニシテ指定商品同一ナルヲ以テ第五七七五六號登録商標ハ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年七月二十六日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 村山小次郎
同 三浦惠一

第二千六百三十號

姫路市西二階町五番地 請求人 小野宇一郎
同 市堅町三十五番地 同 齋藤新藏
同 市驛前町二番地ノ十二 同 蒲田吉藏
同 市豆腐町三百四十四番地ノ一 同 辰巳源次
大阪市南區順慶町四丁目七十三番地特許辨理士 右代理人 山内香
姫路市堅町八番屋敷 被請求人 杉本小三郎
大阪市東區五町一丁目五番地特許辨理士 右代理人 廣井代藏

右當事者間ノ第四七四九號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 第四七四九號商標登錄ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ第四七四九號商標ノ登錄ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由ハ被請求人ノ明治四十四年五月二十九日ノ出願ニ係リ同年七月二十五日登錄セラレタル本件商標ハ中央ニ白鷺城ノ天主閣及其牙城ヲ畫キ其下部斜ニ區劃シタル個所ニ於テ菊神社ノ圖形ヲ顯ハシ且其上部ニ白鷺城ノ文字ヲ記シテ成リ商品「ビスケット」及燒物西洋菓子一切ヲ除キタル菓子一切ナリ從テ其商標カ世人ニ印象セラルヘキ部分ハ白鷺城ノ天主閣及其牙城ヨリ成レル圖形即チ所謂姫路城又ハ白鷺城ノ圖形ナリ然ルニ此圖形ヨリ成ル商標ハ明治三十年頃ヨリ訴外齋藤新太郎カ同一商品ニ對シ專ラ使用シタリシモ明治三十七八年ノ頃ヨリ同業者一般同一商品ニ慣用スルニ至リタルモノナルヲ以テ本件商品ハ商標法第二條第四號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其登錄ヲ無効ト爲スヘキモノナリト主張シ甲第一號證乃至第四號證ヲ提出シ且證人訊問ノ申請ヲ爲セリ
被請求人ハ請求人申立相立ス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由ハ本件商標ハ被請求人ニ於テ其登錄出願前被請求人自身ニ於テ之ヲ使用シタルコトアルモ其他ノ同業者間ニ於テハ之ヲ同一商品ニ使用シタル事實ハ之ヲ認ムルコト能ハス被請求人ノ店舗ハ一般ニ城屋ト稱スルヨリ見ルモ他ノ同業者間ニ本件商標ト同一又ハ類似ナルモノヲ自由ニ使用セルモノニ非サルコト明ナリ訴外齋藤新太郎カ本件商標登錄出願前姫路城又ハ白鷺城ノ商標ヲ同一商品ニ使用シタルコトハ之ヲ認ムルコトヲ得ス又訴外齋藤新太郎カ明治四十五年五月二十三日附ヲ以テ被請求人ニ對シ提起シタル審判番號第二四一〇號第四七四九號商標登錄無效審判事件ニ對シテハ該審判審理中請求人齋藤新太郎ハ被

請求人ノ第四七四九號ノ登錄商標權ヲ認メ同年八月該審判ノ取下ケヲ爲シタルニヨリテ見ルモ彼ノ齋藤新太郎カ被請求人ノ本件商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ本件商標ノ出願以前ニ使用シタルモノニ非サルヤ明ナリ要スルニ本件商標ハ其登錄出願前ニ決シテ自由標章トナルモノニ非スト主張シ乙第一號證ヲ提出シ證人訊問ノ申請ヲ爲セリ

審決ノ理由 本件商標ハ明治四十四年五月二十九日ノ出願ニ係リ同年七月二十五日登錄セラレ落雁其他菓子一切「但「ビスケット」及燒物西洋菓子一切ヲ除ク」ヲ其指定商品ト爲シ其商標タル姫路城又ハ白鷺城及其牙城ヲ畫キ其上部ニ白鷺城ノ文字ヲ記シ下部ニ於テ菊神社ノ文字及圖ヲ畫キテ成レリ故ニ白鷺城ノ文字及白鷺城ノ圖形ハ本件商標ノ要部ナリトス然ルニ本件ニ關シ大正二年七月十四日姫路區裁判所ニ於ケル證人岡部龜吉ノ供述ニ依リ白鷺城ノ圖形及其文字ヨリ成ル標章ハ明治三十七八年頃ヨリ菓子一切ニ對シ姫路市ニ於ケル菓子同業者一般ニ慣用セララル、ニ至リタルコト及其慣用セララル、ニ至リタル標章ハ被請求人ノ登錄商標第四七四九號ニ類似スルコトヲ認ムルニ足ル從テ本件商標ハ商標法第二條第四號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其登錄ハ無効トスヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十九日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
同 三 浦 惠 一
同 馬 場 穎 一

第二千六百三十八號

百

東京市淺草區南元町十九番地
同 東京橋區木挽町九丁目七番地特許辨理士
同 市下谷區竹町二十七番地

請 求 人 宅 間 千 吉
右 代 理 人 稻 木 繁 太 郎
被 請 求 人 井 上 健 太 郎

右當事者間ノ第五六六三二號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主 文 審判被請求人所有ノ第五六六三二號商標登錄ハ其指定商品中白髮、赤毛染ニ對シテハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人所有ノ第五六六三二號商標登錄ハ商品白毛、白髮、赤毛染ニ對シテハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人ノ被相續人亡宅間末吉ハ本件商標ノ登錄出願前即チ明治四十二年十二月頃ヨリ本件商標ニ類似セル黑蝴蝶ナル商標ヲ商品白毛、白髮、赤毛染ニ使用シ然シテ該商標ハ明治四十四年九月頃ニ於テ世人ノ周知スル所トナリタルモノニシテ請求人ハ相續人トシテ之ヲ承繼シタルモノナリ故ニ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ其登錄ハ無効タルヘキモノナリト云フニアリテ甲第一號證乃至第二十一號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人ハ請求人ノ被相續人亡宅間末吉ヲ染髮料製造人トシテ雇入レ同時ニ被請求人ノ名義ヲ以テ營業許可願ヲ警視廳ニ提出シ許可ノ指令ヲ待チツ、アル間ニ於テ偶々鈴木大吉ナル者ノ所有ニ係ル第二〇二〇號白髮、赤毛染營業免許證ノ權利ヲ買受ケタルモノ之ヲ被請求人名義ニ書換ユルハ既ニ申請中ノ營業許

可願ニ對シ不許可ノ指令ヲ與ヘラル、コトアランヲ慮リ表面上被請求人ノ使用人タル右宅間末吉名義ニ書換ヘサセ之カ營業ハ被請求人ト右宅間末吉トノ共同トナシ黑蝴蝶ナル商標ヲ附セシメ明治四十二年頃ヨリ其販賣方ヲ宅間末吉ニ一任シ利益金ヲ平等ニ分配スルコト、ナシ新聞紙等ニ廣告シ盛ニ販賣セシメタリ其後宅間末吉ハ利益金ノ分配ヲモ爲サ、ルヲ以テ被請求人ハ右宅間末吉ニ告知シ其承諾ヲ得テ單獨ニ本件商標ノ登錄ヲ出願シタル次第ナリ要スルニ黑蝴蝶ナル商標ヲ附セル染髮料ハ被請求人ト請求人ノ被相續人タル亡宅間末吉トノ共同營業ニシテ被請求人ハ自己ノ使用スル商標ニ付登錄ヲ受ケタルモノナルカ故ニ其登錄ハ無効ニアラスト云フニアリテ乙第一號證乃至第六號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 商標法第二條第五號ニ所謂世人ノ周知スル他人ノ標章トハ其標章カ世人ニ周知セラシ、モノナル以上其他人カ單獨ニテ之ヲ使用シタルト又出願人ト共同ニテ之ヲ使用シタルトヲ問ハス苟クモ出願人ノ獨占的使用ニ係ルモノ、外ハ悉ク之ニ包含スルモノトス從テ數人共同シテ一箇ノ商標ヲ使用シ周知トナリタル場合ニ於テハ該商標ハ其一方ノ商標トシテ世人ニ認識セラシ、ト同時ニ又他方ノ商標トシテ世人ニ認識セラシ、モノナルカ故ニ此場合ニ一人カ單獨ニテ其商標ノ登錄ヲ出願シタルトキハ之ニ對シテ商標法第二條第五號ノ適用ヲ受クルハ亦已ムヲ得サル所ナリトス今本件ヲ審按スルニ本件商標ト類似ナル『黑蝴蝶』ナル商標カ本件商標專有者ナル被請求人ノ登錄出願前世人周知ノモノナルコトハ請求人ノ主張スル所ニシテ又被請求人ノ爭ハサル所ナルノミナラス當事者双方ノ提出セル證據方法ニ依リ之ヲ認定スルニ足ル然リ而シテ本件商標カ他人ノ標章ト同一又ハ類似ナルヤノ點ニ付テハ請求人ハ明治四十二年十二月頃ヨリ請求人ノ被相續人亡宅間末吉カ單獨營業ノ下ニ商品白髮、赤毛染ニ對シ黑蝴蝶ナル商標ヲ使用シタルカ故ニ本件商標ハ他人ノ商標ト類似ナリト主張シ被請求人ハ請求人ノ被相續人亡宅間末吉ト被請求人トノ共同營業ノ下ニ商品白髮、赤毛染ニ對シ黑蝴蝶ナル商標ヲ明

百一

治四十二年未頃ヨリ使用シタルカ故ニ共有ノ商標ナルヲ以テ他人ノ商標ニ類似ノモノニアラスト主張シ當事者双方ニ於テ之カ證據方法ヲ提出セリト雖モ此等ノ事實ノ如何ハ本件審理上必要ナシ何トナレハ若シ請求人ノ主張ヲ事實トスレハ本件商標ハ其指定商品中白髮、赤毛染ニ對シテハ商標法第二條第五號ニ該當スヘク又被請求人ノ主張ヲ事實トスルモ前記理由ニ依リ等シク同法同條同號ニ該當スヘキモノナレハナリ從テ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其指定商品中白髮、赤毛染ニ對シテハ其登錄ヲ無効トスヘキモノナリ尙被請求人ハ被請求人カ單獨ニテ本件商標ノ出願ヲナスニ付請求人ノ被相續人亡宅間末吉ノ承諾ヲ得タリト主張スルモ商標法第二條第五號ノ規定ハ商標使用者ノ承諾ノ有無ニ依リテ其適用ヲ左右セラル、モノニアラサルカ故ニ假令被請求人ノ主張カ確實ナリトスルモ之カ爲ニ商標法第二條第五號ノ適用ヲ免カル、モノニアラス

大正二年七月二十九日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
 特許局事務官 村山小次郎
 同 馬場 穎一

第二千六百二十九號

東京市淺草區南元町十九番地
 同 東京橋區木挽町九丁目七番地特許辦理士

請求人 宅間 千吉
 右代理人 稻木繁太郎

同 市下谷區竹町二十七番地

被請求人 井上 健太郎

右當事者間ノ第五一三四六號商標登錄無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
 主文 審判被請求人所有ノ第五一三四六號商標登錄ハ其指定商品中白髮、赤毛染ニ對シテハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス
 申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人所有ノ第五一三四六號商標登錄ハ商品白毛、白髮、赤毛染ニ對シテハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ請求人ノ被相續人亡宅間末吉ハ本件商標ノ登錄出願前即チ明治四十二年十二月頃ヨリ本件商標ニ類似セル黑蝴蝶ナル商標ヲ商品白毛、白髮、赤毛染ニ使用シ然シテ該商標ハ明治四十四年九月頃ニ於テ世人ノ周知スル所トナリタルモノニシテ請求人ノ相續人トシテ之ヲ承繼シタルモノナリ故ニ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ其登錄ハ無効タルヘキモノナリト云フニアリテ甲第一號證乃至第二十一號證ヲ提出セリ
 被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ被請求人ハ請求人ノ被相續人亡宅間末吉ヲ染髮料製造人トシテ雇入レ同時ニ被請求人ノ名義ヲ以テ營業許可願ヲ警視廳ニ提出シ許可ノ指令ヲ待チツツアル間ニ於テ偶々鈴木大吉ナル者ノ所有ニ係ル第二〇二〇號白髮、赤毛染營業免許證ノ權利ヲ買受ケタルモ之ヲ被請求人名義ニ書換ユルハ既ニ申請中ノ營業許可願ニ對シ不許可ノ指令ヲ與ヘラル、コトアランヲ慮リ表面上被請求人ノ使用人タル右宅間末吉名義ニ書換ヘサセ之カ營業ハ被請求人ト右宅間末吉トノ共同トナシ之ニ黑蝴蝶ナル商標ヲ附セシメ明治四十二年未頃ヨリ其販賣方ヲ宅間末吉ニ一任シ利益金ヲ平等ニ分配スルコト、ナシ新聞紙等ニ廣告シ盛ニ販賣セシメタリ其後宅間末吉ハ利益金ノ分配ヲモ爲サ、ルヲ以テ被請求人ハ右宅間末吉ニ告知シ其

承諾ヲ得テ單獨ニ本件商標ノ登録ヲ出願シタル次第ナリ要スルニ黒蝴蝶ナル商標ヲ附セル染髮料ハ被
請求人ト請求人ノ被相續人タル宅間末吉トノ共同營業ニシテ被請求人ハ自己ノ使用スル商標ニ付登
録ヲ受ケタルモノナルカ故ニ其登録ハ無効ニアラスト云フニアリテ乙第一號證乃至第六號證ヲ提出セ
リ

審決ノ理由 商標法第二條第五號ニ所謂世人ノ周知スル他人ノ標章トハ其標章カ世人ニ周知セラル、モ
ノナル以上其他人カ單獨ニテ之ヲ使用シタルト又出願人ト共同ニテ之ヲ使用シタルトヲ問ハス苟クモ
出願人ノ獨占的使用ニ係ルモノ、外ハ悉ク之ニ包含スルモノトス從テ數人共同ニシテ一箇ノ商標ヲ使
用シ周知トナリタル場合ニ於テハ該商標ハ其一方ノ商標トシテ世人ニ認識セラル、ト同時ニ又他方ノ
商標トシテ世人ニ認識セラル、モノナルカ故ニ此場合ニ一人カ單獨ニテ其商標ノ登録ヲ出願シタルト
キハ之ニ對シテ商標法第二條第五號ノ適用ヲ受クルハ亦已ムヲ得サル所ナリトス今本件ヲ審按スルニ
本件商標ト類似ナル「黒蝴蝶」ナル商標カ本件商標專有者ナル被請求人ノ登録出願前世人周知ノモノナ
ルコトハ請求人ノ主張スル所ニシテ又被請求人ノ爭ハサル所ナルノミナラス當事者双方ノ提出セル證
據方法ニ依リ之ヲ認定スルニ足ル然リ而シテ本件商標カ他人ノ標章ト同一又ハ類似ナルヤノ點ニ付テ
ハ請求人ハ明治四十二年十二月頃ヨリ請求人ノ被相續人宅間末吉カ單獨營業ノ下ニ商品白髮、赤毛
染ニ對シ黒蝴蝶ナル商標ヲ使用シタルカ故ニ本件商標ハ他人ノ商標ト類似ナリト主張シ被請求人ハ請
求人ノ被相續人宅間末吉ト被請求人トノ共同營業ノ下ニ商品白髮、赤毛染ニ對シ黒蝴蝶ナル商標ヲ
明治四十二年末頃ヨリ使用シタルカ故ニ共有ノ商標ナルヲ以テ他人ノ商標ニ類似ノモノニアラスト主
張シ當事者双方ニ於テ之カ證據方法ヲ提出セリト雖モ此等ノ事實ノ如何ハ本件審理上必要ナシ何ト
ナレハ若シ請求人ノ主張ヲ事實トスレハ本件商標ハ其指定商品中白髮、赤毛染ニ對シテハ商標法第二

條第五號ニ該當スヘク又被請求人ノ主張ヲ事實トスルモ前記理由ニ依リ等シク同法同條同號ニ該當ス
ヘキモノナレハナリ從テ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其指定商品中白
髮赤毛染ニ對シテ其登録ヲ無効トスヘキモノナリ尙被請求人ハ被請求人カ單獨ニテ本件商標ノ出願ヲ
ナスニ付請求人ノ被相續人宅間末吉ノ承諾ヲ得タリト主張スルモ商標法第二條第五號ノ規定ハ商標
使用者ノ承諾ノ有無ニ依リテ其適用ヲ左右セラル、モノニアラサルカ故ニ假令被請求人ノ主張カ確實
ナリトスルモ之カ爲メニ商標法第二條第五號ノ適用ヲ免カル、モノニアラス
以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス

大正二年七月二十九日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 村山小次郎
同 馬場 穎一

第二千四百九十七號

横濱市山下町二十九番地
東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士
同 市本郷區本郷二丁目十七番地

請 求 人 ハ、アイレンス、ウント、
コムバニー、ナツハフ
右 代 理 人 ウオルター、オーガス
タス、デ、ハピラント
被 請 求 人 合名會社佐々木商店
右代表社員 佐々木 安 則

右當事者間ノ第四九五七號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 第四九五七號商標ノ登錄ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人ハ第四九五七號登錄商標ハ同一商品ニ使用スル請求人専用ノ第二三八〇四號及第三〇〇六九號登錄商標ニ類似シ又請求人ノ右兩登錄商標ハ被請求人カ自己ノ商標トシテ其登錄ヲ出願セシ際既ニ公知ニ屬セルモノナルニ依リ被請求人ノ前記登錄商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ無効タルヘキモノナリト申立テ其理由トシテ請求人ハ明治三十八年七月二十一日附登錄ニ係ル第二三八〇四號及明治四十年七月二十五日附登錄ニ係ル第三〇〇六九號商標ヲ原所有者ヨリ合法ニ讓受ケ此兩商標ヲ寒暖計ニ使用スルモノナリ抑モ右兩商標ノ登錄ヲ出願セシ際商標主ハ出願代理人ニ該商標ハ之ヲ「サーモメター」類ニ對シ登錄ヲ受クヘキ旨ノ指圖ヲ與ヘタリキ然ルニ代理人ハ之ヲ寒暖計ト記シテ指定商品ヲ記シタルヲ以テ實際使用スルハ體溫器ナルニ係ラス指定商品ハ寒暖計ト記サレタルモ帝國關稅表ニ於テハ檢溫器ヲ寒暖計ノ中ニ包含セシメ居ル事實アルヲ以テモ體溫器ハ寒暖計ノ内ニ包含シ請求人ノ指定商品中ニ入ルヘキモノナリト思考ス然レトモ該兩商標ヲ用ヒテ我國ニ輸入シタル商品ハ其實體溫器ノミニシテ該兩商標ノ何レカヲ掲ケタル物ノ我國ニ輸入サレタルハ多年間ニ互リ被請求人ノ商標登錄出願前公知ニ屬セリ且ツ被請求人モ前記請求人ノ商標ノ體溫器ニ使用サレアルコトヲ知悉セリ又被請求人ノ商標カ請求人ノ兩商標ニ類似セルコトハ説明ヲ要セスト云フニ在リ

被請求人ハ請求人申立相立タスト審決相成度ト申立テ其理由ハ請求人カ合法ニ讓渡サレタリト稱スル第二三八〇四號及第三〇〇六九號ノ二登錄商標ハ原所有者「ウイヘルムユーベ」カ商標權者ナリシカ明治四十二年十月六日即チ新商標法實施ノ前第三〇〇六九號登錄商標ヲ讓受ケタルニ同商標ト類似商標タル第二三八〇四號登錄商標ハ「ウイヘルムユーベ」ヨリ讓受ケ又ハ同人ト共有トモ爲サス且同人カ使用ヲ廢止セス舊商標法第六條第二項ニ違反シテ第三〇〇六九號商標權ノ讓受ヲ爲シタリ然ルニ請求人ハ本審判ニ於テハ右兩商標ヲ合法ニ讓受ケタリト云フモ右第二三八〇四號登錄商標ハ既ニ消滅セルモノナリ從テ請求人カ右兩商標ノ商標權者トシテ本審判ヲ請求スルハ不當ナリ又寒暖計ノ内ニ體溫器ヲ包含セサルハ明ナリ尤モ右兩商標ノ圖形ヲ體溫器ニ附シテ我國ニ輸入シタルハ之ヲ認ムルモ其輸入ヲ爲シタルハ「ウイヘルムユーベ」ナルノミナラス其商標ヲ附シタル物ハ被請求人ノ第四九五七號商標登錄前ニ輸入セラレタルモ其商標カ世人周知ノ程度ニ達セスト云フニ在リ

審決ノ理由

請求人ハ「ウイヘルムユーベ」ヨリ明治四十五年六月十一日登錄第二三八〇四號及第三〇〇六九號商標權ヲ正當ニ讓受ケ登錄ヲ受ケ居ル者ナルヲ以テ此點ニ關スル被請求人ノ主張ハ當ラス次ニ請求人ノ登錄第二三八〇四號及第三〇〇六九號商標ノ指定商品ハ何レモ寒暖計ニシテ寒暖計ノ内ニ體溫器ヲ包含セサルモノト認ム然レトモ「ウイヘルムユーベ」ナル商標ハ體溫器ノ標章トシテ被請求人専用スル第四九五七號商標登錄出願ノ日即チ明治四十四年十一月六日以前既ニ我國ニ於テ世人ノ周知スル處ナルコトハ證人村田康太郎カ陳述ノ際持參セル體溫器ニ右ト同一ノ標章ヲ附セラレタルコト及右持參ノモノニ附セラレタルト同一ノ標章ヲ附シタル體溫器ハ陸軍衛生材料廠ニ於テ明治四十年十月頃ヨリ購入セラレ其數ハ明治四十三年度迄ニ於テ二萬一千二百箇ニ達シ各師團ニ配布シタリト云フニ徵シテ明ナリ且右ノ標章ハ獨逸國「ツェルプスト」市「ウイヘルムユーベ」ノ體溫器ノ標章トシテ我國ニ於テ知ラ

レタルモノナルコトハ被請求人モ亦認ムル處ニシテ其事實ハ之レヲ認ムルニ足ル而シテ右標章ト被請求人ノ登録第四九五五七號商標トハ同一商品即チ體温器ニ使用スルモノニシテ其圖形文字及商標又ハ標章ノ全體トシテ互ニ類似スルモノトス從テ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其登録ハ之レヲ無効ト爲スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年八月十六日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
同 三 浦 惠 一
同 馬 場 穎 一

第二千六百五十七號

新潟縣古志郡板尾町五百八十五番戸

東京市京橋區木挽町十丁目五番地特許辦理士

長岡市東坂之上町六百六十番地ノ七

東京市日本橋區蠣殼町一丁目三番地特許辦理士

請 求 人 小 林 早 太 郎

右 代 理 人 中 川 津 平

被 請 求 人 小 林 傳 作

右 代 理 人 河 緒 義 三 郎

右當事者間ノ第五四六四二號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 審判被請求人ノ専用スル第五四六四二號商標登録ハ之ヲ無効トス
審判費用ハ審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人申立ノ要領ハ第五四六四二號商標登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トス
スト審決相成度其理由ハ本件商標ハ明治四十五年六月二十日登録ヲ出願シ大正元年八月二十三日付ヲ以テ登録セラレタルモノナリ然ルニ之ト同一標章ハ明治四十一年頃ヨリ請求人カ専ラ木綿織物ノ商標トシテ使用シ全國ニ涉リテ取引ヲナシタルカ故ニ該商標ハ本件商標ノ登録出願前請求人カ木綿織物ニ使用スル商標トシテ各地同業者間ニ周知セラレタルモノナリ從テ本件商標ハ商標法第二條第五號ノ規定ニ該當シ其登録ハ無効タルヘキモノナリト云フニ在リテ甲第一號證乃至甲第十一號證ヲ提出セリ
被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トス
スト審決相成度其理由ハ本件商標ハ明治四十一年中被請求人カ之ヲ案出シ自己ノ商品タル織物ニ使用シテ之ヲ販賣シ又同時ニ其商品ハ長岡織物同業組合ノ所產物トシテ同組合ノ商標ヲ併用シ廣ク販賣シタルモノナリ次テ明治四十二年ニ至リ長岡市氷田町木村清松ノ懇願ニヨリ或條件ノ下ニ其商標ノ使用ヲ許諾シ同人ノ製造シタル織物ハ之ヲ被請求人ノ製品トシテ該商標ヲ貼付シテ販賣セシメタリ然ルニ請求人ハ被請求人ノ右商品カ販路非常ニ擴張シ名聲日ニ隆々タルヲ羨望シ明治四十三年六七月頃ニ至リ被請求人ノ右商標及長岡織物同業組合ノ商標ヲ偽造シ粗製織物ヲ製造又ハ購買シテ之ニ右商標ヲ貼付シ以テ該商品カ恰モ被請求人ノ商品ナルカ如ク裝ヒテ之ヲ販賣セル爲メ被請求人ハ營業上多大ノ打撃ヲ受クルニ至リタルカ故ニ明治四十五年六月二十日右商標ノ登録ヲ出願シ大正元年八月二十三日之カ登録ヲ受ケテ其權利ヲ主張スルニ至リタル次第ニテ本件商標ノ登録ハ請求人主張ノ如ク無効タルヘキモノニアラスト云フニ在リテ乙第一號證乃至乙第八號證ヲ提出セリ

審決ノ理由 本件商標ノ登録出願前即明治四十五年六月二十日以前ニ於テ其商標ト同一ナル商標ヲ請求人カ本件商標ノ指定商品ト同一ナル商品〔織物〕ニ使用シテ販賣シタルコトハ被請求人ノ認ムル所ニシ

テ然カモ該商標カ請求人ノ商標トシテ世人ニ周知セラレタルコトハ甲號證ニ依リテモ之ヲ認ムルコトヲ得從テ本件商標ノ登録ハ商標法第二條第五號ニ該當スルカ故ニ同法第十一條ニ依リ之ヲ無効トナスヘキモノトス

被請求人ハ本件商標カ被請求人ノ最先案出ニ係ルコトヲ主張スルモ商標法ハ商標ノ案出又ハ考案ヲ保護スルモノニアラサルカ故ニ商標ノ案出如何ノ問題ハ商標法上毫モ問フ所ニ非ス從テ此點ニ於ケル被請求人ノ主張ハ其理由ナシ

又被請求人ハ自己カ數年間自己ノ商品ニ使用シタルニヨリ始メテ世人ニ周知セラレ、ニ至リタル場合ナルヲ以テ商標法第二條第五號ニ該當セスト主張セリ固ヨリ被請求人ノ商標トシテ本件商標登録前世人ニ周知セラレタルコトハ被請求人提出ノ乙號各證ニ依リ之ヲ認ムト雖モ同時ニ又請求人ノ同一商品ノ標章トシテ世人ニ周知セラレ、ニ至リタルコトハ請求人提出ノ甲號各證ニ依リ之ヲ認ムルニ十分ナリ從テ被請求人ノ商標ノ登録ハ商標法第二條第五號ノ適用ヲ免ル、ヲ得ス

又被請求人ハ請求人カ本件商標ノ登録出願前被請求人ノ商標ヲ偽造シテ使用シタリト主張スルモ商標ノ專用權ハ其登録前ニ於テハ毫モ存在セサルハ勿論其出願前ニ於テハ商標法上毫モ商標ニ關スル權利ヲ認メラレサルカ故ニ假令請求人カ被請求人ノ既ニ使用シツ、アル商標ヲ故意ニ使用シタリトスルモ被請求人ハ之ニ對シテ商標法上ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス從テ苟クモ其商標即チ本件商標ト同一ナル商標カ本件商標ノ登録出願前請求人ノ商標トシテ世人ニ周知セラレタル以上ハ本件商標カ商標法第二條第五號ニ該當スルモノト斷定スルニ妨ケナシトス從テ同法第十一條ニ依リ無効トスヘキモノナリ仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年八月二十八日於特許局

審判長 特許局技師 平山英三
特許局事務官 村山小次郎
同 馬場穎一

第二千六百七十三號

大阪市東區道修町二丁目一番地

請求人 藤澤友吉

同 市東區淡路町一丁目二十四番地特許辨理士

右代理人 佐々木高吉

同 市西區北堀江通一丁目二十五番地

被請求人 大西紋次郎

同 市南區安堂寺橋通一丁目五番屋敷特許辨理士

右代理人 小池宗三郎

同 市南區鹽町一丁目二十二番地特許辨理士

同 木村丑三郎

右當事者間ノ第五二六六〇號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 第五二六六〇號商標ノ登録ハ商品樟腦ニ對シ無効トス

審判費用ハ審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ第五二六六〇號商標ノ登録ハ散藥、丸藥、煉藥ヲ除キタル化學品、藥劑及醫療補助

品ニ對シテ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由ハ本件商標ハ商

標法第二條第五號及第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ハ無効タルヘキモノナリト云フ

ニ在リ

被請求人ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由ハ本件商標

ハ請求人専用ノ登録第二〇三八六號商標ニ類似セス且甲第二號證ニ示ス標章ハ請求人ノ標章トシテ本件商標ノ登録出願前世人ノ周知スルモノニアラス從テ本件商標ハ請求人ノ論旨ニ據リ其登録ヲ無効タラシムヘキモノニ非スト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人ノ登録商標第二〇三八六號ハ鐘馗ノ肖像ヲ中央ニ畫キ其ノ周邊ニ光線ヲ現シタル圖ヨリ成リ散藥、丸藥、煉藥ヲ除ク化學品、藥劑及醫療補助品一切ヲ指定商品トシ明治三十六年七月十九日出願同年十一月十三日登録ヲ得タルモノナリ而シテ被請求人ノ登録商標第五二六六〇號即チ本件商標ハ一少年カ頭部ニ鉢巻ヲ爲シ左手ヲ腰ニシ左腰ニ刀ヲ佩シ右手ヲ額ニ翳シ兩足ヲ開キ劍舞シツ、アル圖形ヲ現シ其人物ノ中央部ニ劍武ノ二字ヲ記シ其人物ノ左右ニ羅馬字ニテ大阪「ジャパン」及大西商店ノ文字ヲ分記シ其人物ヨリ光線ヲ發射シ其周圍ヲ劍尖圓トナシタル圖形ヨリ成リ着色ハ地色ヲ白色トシ中央ノ人物及文字ハ「ブロンズブリー」トシ周圍ノ劍ノ集合體ハ「クリムソンレーキ」ト爲シ化學品、藥劑及醫療補助品一切ヲ指定商品ト爲シ明治四十五年四月十五日出願同年五月二十一日登録セラレタルモノナリ仍テ右兩商標ヲ比較審按スルニ二者全體ノ外觀ニ於テ異ルノミナラス何レモ中部ニ畫ケル人物ノ圖形ニ於テ登録商標第二〇三八六號ハ鐘馗ノ圖ナルニ反シ本件商標ニ於ケル人物ハ明ニ劍舞ヲ爲ス者ノ圖ニシテ二者互ニ外觀上及稱呼上類似セサルモノト認ム從テ本件商標ハ商標法第三條第一項ニ違反シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノニ非ス故ニ此點ニ關スル被請求人ノ主張ハ正當ナリ次ニ請求人ノ使用シタリト稱スル甲第二號證ニ示ス商標ト被請求人ノ登録第五二六六〇號商標トカ類似スルモノナリヤ否ヤヲ按スルニ劍光圓内ニ畫キタル人物及文字ニ差違アリト雖モ何レモ劍光圓ヲ畫キ其地色ヲ白色ト爲シ中央ノ人物及文字ハ「ブロンズブリー」トシ周圍ノ劍ノ集合體ハ「クリムソンレーキ」色又ハ之レニ酷似スル赤色ト爲シ爲メニ其外觀甚タ酷似シ二者混同誤認ノ虞アルモ

ノト認ム而シテ被請求人ハ甲第二號證ハ請求人ノ標章トシテ世人ノ周知セラレ居ルモノナルコトヲ否認ス然レトモ甲第二號證ノ標章ハ請求人カ明治三十五年頃ニ於テ既ニ樟腦ニ使用シタル事實及第五二六六〇號商標登録出願ノ日即チ明治四十五年四月十五日以前ニ於テ請求人カ樟腦ニ使用スル標章トシテ世人ノ周知スルトコロトナレル事實ハ證人池田常吉、小森多六、溝口澄江、阪本清吉及森川桑三郎ノ證言ニ依リテ之ヲ認ムルコトヲ得尙請求人ハ散藥、丸藥、煉藥ヲ除ク總テノ化學品、藥劑及醫療補助品ニ對シ登録第五二六六〇號商標ノ登録ヲ無効トスヘキコトヲ主張スレトモ商品樟腦以外ノ商品ニ付甲第二號證ニ示ス標章カ請求人ノ標章トシテ世人ニ周知セラレタル事實ヲ證スルノ證據トシテ採用スヘキモノナシ仍テ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ商品樟腦ニ對シテ之レヲ無効トスヘキモノトス其他被請求人ハ本件商標ノ登録セラレタル日以後ニ於テ請求人カ甲第二號證ト同一ノ商標登録ノ出願ヲ爲シ登録ヲ受ケ居ルヲ以テ其ノ甲第二號證ト同一ノ請求人ノ登録商標コソ反テ其登録ヲ無効トスヘキモノナルコトヲ主張スレトモ本件審決ニ關係ナキヲ以テ説明セス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十月九日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
同 三 浦 惠 一
同 馬 場 穎 一

第二千七百二十號

百十四

英吉利國バーミンガム市	請求人	トーマス、スタデー
同 國バーミンガム市	同	フリーバー
同 國バーミンガム市	同	アーネスト、スタデー、フリーバー
同 國バーミンガム市	同	ウィリアム、スタデー、フリーバー
東京市麴町區八重洲町一丁目一番地	右代理人	ウォルター、オーガス
同 市牛込區東五軒町十一番地	被請求人	タス、デ、ハピラント
		石川 徳 松

右當事者間ノ第五九四九一號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 審判被請求人ノ専用スル第五九四九一號商標ノ登録ハ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ被請求人ノ専用スル登録第五九四九一號商標ノ登録ハ無効トスト審決アリタシト申立テ其ノ理由ハ第五九四九一號登録商標ハ請求人ノ専用スル第二九三二七號登録商標ニ類似シ且其ノ指定商品モ牴觸スルヲ以テ右登録ハ無効トスヘキモノナリト謂フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決アリタシト申立テ其ノ理由ハ第五九四九一號登録商標ハ第二九三二七號登録商標ニ類似セスト謂フニ在リ

五九四九一號登録商標ハ第二九三二七號登録商標ニ類似セスト謂フニ在リ

審決ノ理由 被請求人ノ専用スル第五九四九一號登録商標ハ「ペン」ノ地球ヲ貫ケル圖形ヨリ成リ請求人ノ専用スル第二九三二七號ハ「ペン」ノ地球ヲ貫ケル圖形ヨリ成リテ地球ノ圖形ハ兩

商標ニ於テ共ニ其ノ一要部ヲ占ムルカ故ニ兩者ハ混同ノ虞アルモノニシテ即チ相類似セルモノト斷セサルヲ得ス而シテ本件登録商標ハ第二九三二七號ト其ノ指定商品ヲ同一ニシ且ツ其ノ出願ハ後願ニ係ルヲ以テ本件登録商標ハ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ其ノ登録ヲ無効トスヘキモノトス猶請求人竝ニ被請求人ニ於テ主張スル所アリト雖本件審決ニ付必要ナキヲ以テ説明セス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十月二十二日於特許局

審判長	特許局事務官	馬場 穎一
同	同	山岡 國利
同	同	中松 眞卿

第二千六百二十四號

右當事者間ノ第三四〇三三號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

百十五

獨逸國プロイセン州シヤロッテンアルゲ市カエスト	請求人	ドクトル、エルンス
ウムト、アイフエンアレー街二二、二三、二四	同	ト、ビーベル
横濱市山下町二十四番地特許辨理士	右複代理人	ドクトル、カール、
奈良縣高市郡高取町大字清水七十二番屋敷	被請求人	野木 市治
大阪市東區粉川町四十七番屋敷	同	春元 重助
名古屋市中區南伊勢町二丁目十四番地特許辨理士	右代理人	宮村 隆治

主文 被請求人ノ専用スル第三四〇三三號商標ノ登録ハ之レヲ無効トス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ被請求人ノ専用スル第三四〇三三號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其ノ理由ハ本件商標ハ騎士カ一頭ノ馬ニ跨リタル圖ヨリ成リ石鹼ニ使用スル爲メ明治四十一年十月二十四日登録ヲ受ケタルモノナリ而シテ請求人ノ専用スル第二九一五號登錄商標ハ二頭ノ馬ニ各一名ノ騎士ノ跨リタル圖ヨリ成リ同シク石鹼ニ對シ明治四十年四月十日登録ヲ受ケタリ然ルニ右兩商標ニ於テハ馬及之ニ乗レル騎士カ右ヨリ左ニ向ヒ馬カ一頭ニシテ騎士モ亦一人ナルト他ハ馬カ二頭ニシテ騎士モ二人ナルカ左方ヨリ右方ニ向ヒ且之ニ附記ノ文字及地面ノ圖ヲ加ヘテ成レルノ差異アルノミニシテ何レモ輕裝セル競馬騎士カ奔馳セル馬ニ乗レル點ニ於テ圖形ノ構成同一軌ニ出ツルヲ以テ之ヲ同一商品ニ使用スルトキハ互ニ混同誤認ノ虞アルノミナラス請求人カ第二九一五號登錄商標ヲ使用スルコト多年ニシテ競馬印トシテ請求人ノ製造ニ係ル商品石鹼ニ使用スル商標トシテ廣ク需要者ニ知悉セラレ爲メニ被請求人ノ本件商標ハ世人ヲ欺瞞スルモノナリ又請求人ハ第二九一五號登錄商標ノ外第二九三三號登錄商標ヲ包裝トセル箱ノ内ニ入レタル各箇ノ石鹼ニハ一頭ノ馬ニ跨リタル騎者カ右方ヨリ左方ニ向ヒ奔馳セル圖ヲ現ハシ之ニ附記ノ文字アル第一號證ヲ示ス包裝ヲ附シテ廣ク販賣擴布セリ此各箇ノ石鹼ニ附セラレタル標章カ本件商標登錄前ヨリ需要者ニ知悉セラル、モノナリ以上ノ理由ニ依リ本件商標ハ商標法第二條第三號及ヒ第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノナリト云フニ在リ
被請求人ハ請求人ノ請求ヲ棄却シ審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度ト申立テ其理由ハ本件商標ト第二九一五號商標トハ其外觀稱呼共ニ全然類似セス又第二九三三號登錄商標ハ數人ノ競馬騎

士ヲ描キ出セル圖形ヨリ成レリ故ニ右登錄商標ヲ附シタル箱ノ内ニ容レタル各箇ノ石鹼ノ包裝ニ附セラレタル甲第一號證ノ標章即チ一人ノ競馬騎士ノ圖形ヲ以テ第二九三三號登錄商標ナリト云フヲ得スト云フニ在リ

審決ノ理由 被請求人専用ノ本件商標ハ一頭ノ馬ニ跨リタル騎士カ右ヨリ左ニ向テ馳セツ、アル圖形ヨリ成リ請求人専用ノ登録第二九一五號商標ハ二頭ノ馬ニ一人ツ、騎士ノ乗レルカ左ヨリ右ニ向ヒ競馬ヲ爲セル圖ヲ畫キ歐文字ニテ競馬俱樂部石鹼ノ意義ノ文字及附記ノ文字圖形ヲ以テ成リ二者其外觀及稱呼ニ於テ異リ互ニ同一又ハ類似ノ商標ト認ムヘカラサルヲ以テ請求人ノ右商標カ假令世人周知ノモノナリトスルモ本件商標ハ商標法第二條第三號又ハ第五號ニ該當スルモノト論スルヲ得ス然ルニ請求人専用ノ登録第二九三三號商標ヲ包裝トセル箱ノ内ニ入レタル石鹼各箇ノ包裝トシテ請求人ノ使用スルモノ即チ甲第一號證ニ示ス無登録ノ標章カ本件商標出願ノ日即チ明治四十一年一月三十日前世人ノ周知スルトコロナリシコトハ證人「エーレーベータッハ」及關藤兵衛ノ證言ニ依リテ之レヲ認ムルコトヲ得而シテ甲第一號證ノ標章ト登録第三四〇三三號商標トハ共ニ鳥打帽ヲ冠レル騎士カ馬ニ乘リテ馳走スル圖ヲ畫キ以テ商標又ハ標章構成ノ要部ト爲セリ故ニ二者ハ其ノ外觀ニ於テ類似スルノミナラス稱呼上亦混同ノ虞アルモノト認ム從テ本件商標ハ商標法第二條第五號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ其登録ヲ無効トスヘキモノト認ム尙當事者間論争スル所アルモ審決ニ必要ナキヲ以テ説明セス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月十八日於特許局

審判長 特許局事務官 三浦 惠 一
同 馬場 穎 一

第二千七百十八號

特許局事務官

山岡 國利

百十八

神戸市北野町四丁目百十番ノ一

請求人

エッチ、エヌ、フテハ

東京市京橋區館屋町十番地特許辨理士

右代理人

内村 達次郎

同 市京橋區館屋町十番地特許辨理士

同

小谷 鐵次郎

神戸市三宮町一丁目二十八番館シ、アブドーラ商會内

被請求人

エム、エッチ、ヒル

同 市楠町七丁目六十三番屋敷特許辨理士

右代理人

秋田 信太郎

右當事者間ノ第五七六八七號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人ノ申立相立タス

審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人申立ノ要領ハ第五七六八七號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其ノ理由ハ第五七六八七號登録商標ハ其ノ洋裝正面ノ半身人物タル點ニ於テ請求人ノ有スル第三八一二七號及其ノ聯合商標タル第五八九三七號登録商標ト離隔的觀察上相類似シ混同誤認ノ虞アルモノナルカ故ニ商標法第三條第一項ニ違反シ其ノ登録ハ無効タルヘキモノナリ又本件登録商標ハ燐寸業ニ何等關係ナキ名古屋市硝子商石塚元三郎ノ出願ニ係リ同人ハ當初ヨリ燐寸ニ使用スルノ意思ヲ有セサリシモノナルカ故ニ其ノ出願ハ商標法第一條第一項ニ違反シ其ノ登録ハ無効タルヘキ

モノナリト謂フニ在リテ甲第一號證乃至甲第五號證ヲ提出セリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ請求相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其ノ理由ハ請求人ハ被請求人登録ノ商標第五七六八七號ト請求人登録商標第三八一二七號及其聯合商標第五八九三七號トハ離隔的觀察上相類似スト主張スレトモ此等ノ商標ハ肖像ヲ以テ其ノ主要部ト爲スト謂フ外更ニ類似ノ點ナク彼我混同誤認ノ虞アルコトナシ又請求人ハ被請求人ノ有スル本件登録商標ハモト使用ノ意思ナキ石塚元三郎ノ出願登録ニ係ルカ故ニ無効ナリト主張スルモ元來石塚元三郎ハ印度國輸出ノ硝子商ニシテ同國ヘ燐寸輸出ノ計畫ノ下ニ曩ニ本件被請求人所有ノ商標ニ付キ登録ヲ受ケタルモノニシテ本商標登録出願ノ當初ニ於テ出願人ハ之カ使用ノ意思アリシコト明白ナルノミナラス斯クノ如キ主張ハ本件商標登録無効ニ直接關係ナキ贅言ナリト謂フニ在リテ乙第一號證乃至乙第六號證ヲ提出シタリ

審決ノ理由

被請求人ノ有スル登録商標第五七六八七號ト請求人ノ有スル登録商標第三八一二七號及其ノ聯合商標タル第五八九三七號登録商標トヲ對比觀察スルニ何レモ南方亞細亞土人ノ肖像ヲ以テ要部トスル點ニ於テハ相一致セリト雖トモ被請求人ノ有スル第五七六八七號登録商標ハ其ノ着色ノ點ニ於テ其ノ人物ノ姿勢及帽子頸飾其ノ他ノ服裝ノ點ニ於テ請求人ノ有スル第三八一二七號及其ノ聯合商標タル第五八九三七號登録商標ニ比シ顯著ナル差異ヲ有ス此差異アルカ故ニ之ヲ離隔シテ觀察スルモ何等混同誤認ノ虞アルコトナシ從テ此點ニ關スル請求人ノ主張ハ理由ナシ又請求人ハ被請求人ノ有スル本件登録商標ハ燐寸業ニ何等ノ關係ナキ石塚元三郎ノ出願ニ係リ當初ヨリ其ノ指定商品タル燐寸ニ使用スルノ意思ナクシテ登録ヲ受ケタルモノナルヲ以テ商標法第一條第一項ニ違反シ無効タルヘキモノナリト主張スルモ此主張ヲ確ムヘキ證據充分ナラス從テ此主張モ亦採用スルニ由ナシ

仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年十一月二十一日於特許局

審判長 特許局事務官

同 同 三浦惠一
同 同 中山國利
同 同 中松眞卿

第二千六百五十一號

朝鮮慶尙北道大邱府大邱面元町一丁目四十番地一號	請 求 人	堺 萬次郎
同 慶尙北道大邱府大邱面元町一丁目七十二番地	同	中 村 カン
同 慶尙北道大邱府大邱面錦町一丁目一番地二號	同	麻 野 清一
同 慶尙北道大邱府大邱面東城町一丁目四番地	同	有 田 寛一
同 慶尙北道大邱府大邱面大和町一丁目三十一番地	同	大 竹 初太郎
同 慶尙北道大邱府大邱面大和町二丁目	同	船 井 初太郎
同 釜山西町四丁目五十九番戶	同	本 田 小二郎
同 釜山本町二丁目十番地	同	松 本 吉次郎
同 釜山西町四丁目六十七番戶	同	松 山 常太郎
同 釜山本町一丁目十七番地	同	浦 上 吳 朗
同 釜山幸町一丁目三十八番地	同	片 田 繁 松

同 釜山富平町一丁目五十番地 塚 本 ツル
同 釜山富平町一丁目九十八番戶 岡 田 政 吉
同 釜山辨天町一丁目一番地ノ二 寺 田 安 太郎
同 釜山本町一丁目三十九番戶 安 部 徳 次郎
同 釜山西町三丁目二十四番戶 都 留 幸 十郎
同 釜山辨天町二丁目 田 口 彌 三郎
同 釜山西町一丁目二十四番戶 久 本 長 次
同 釜山港富平町四丁目三十二番地 同 生 駒 嵩 三
同 釜山西區江戶堀南通四丁目十番地特許辨理士 右 代 理 人 阿 部 直 藏
朝鮮京城西部獨立門通二丁目六番戶 被 請 求 人 吉 野 新 平

右當事者間ノ舊韓國統監府特許局第四一六號登錄商標權利範圍確認審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 (イ)號ノ商標ハ被請求人所有ノ舊韓國第四一六號登錄商標ノ權利範圍ニ抵觸ス
審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ(イ)號商標ハ被請求人所有舊韓國統監府特許局第四一六號登錄商標ノ權利範圍ニ屬セシ審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ第四一六號登錄商標ノ人物及花並ニ國旗其ノ他ノ文字等ハ其出願前ヨリ全ク普通ニ用ヒラレタルモノニシテ之等ノモノ又ハ之等ノモノ、結合シタル部分ヲ主要トシタルモノトセハ該登錄ハ商標法ニ所謂特別顯著ナラサルモノヲ登錄シタルノ違法アリ從テ本件商標ノ要部ハ旗、朝鮮人、草花等ニアラスシテ單ニ上部ノ◆ニアリ而シテ(イ)號商標ハ單

ニ朝鮮人及草花等ノ圖形ノ結合ナルカ故ニ本件第四一六號ノ商標權ノ權利範圍ニ屬セスト謂フニアリ
被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其ノ理由ハ本件
商標ト請求人ノ使用スルイ(イ)號商標トハ其主要部分全ク相類似スルヲ以テ請求人ノ主張ハ採用スヘカラ
ス尚請求人ハ本件商標ノ登録前公知公用ヲ主張シ其登録ヲ受クルヲ得サルモノナルト謂フモ商標權ノ
範圍確認ノ理由ト爲スニ適セスト謂フニアリ

審決ノ理由 一定既登録商標ニ對シ其指定商品ヲ同フスル一定未登録商標カ其類否ニ關シ其ノ商標權ノ
權利範圍ニ屬スヘキヤ否ヤヲ判定スルニハ先ツ彼此兩商標ノ要部ヲ比較對照シ世人カ彼此混同誤認ノ
虞アルヤ否ヤニ依ラサルヘカラス而シテ此ノ場合ニ於テ假令既登録商標ノ要部カ商標法第二條ノ各號
ノ一若ハ二以上又ハ其ノ他ノ規定ニ該當シ登録スヘカラサリシモノトスルモ當該商標ノ登録ノ存在シ
其ノ無効ノ宣言ノ確定セラレサル以上ハ其要部ニ付キ商標權アルモノトシテ權利範圍抵觸ノ有無ヲ斷
セサルヘカラス

今本件舊韓國商標第四一六號ヲ觀察スルニ二要部ヨリ成ル即チ一ハ朝鮮男女ノ人物及草花ノ圖形ノ結
合ニシテ他ハ上部記載ノ印ナリ更ニ(イ)號商標ヲ觀察スルニ其要部ハ朝鮮男女ノ人物及草花ノ圖形ノ
結合ニアリ從テ後者ノ要部ハ前者ノ一要部ト殆ト同一ナリ故ニ(イ)號商標ハ本件第四一六號登録商標ト
類似ス而シテ前記理由ニ依リ假令第四一六號登録商標ノ(イ)號商標ニ類似スル一要部カ請求人主張ノ如
ク其登録前世人ノ周知スル他人標章ト類似シ又ハ同一商品ニ慣用スル商標ニシテ登録スヘカラサリシ
モノトスルモ登録ノ存在スル以上尚ホ其ノ圖形ニ付キ權利アルモノト爲サルヘカラス從テ(イ)號商標
ハ舊韓國商標第四一六號登録ノ商標權ノ權利範圍ニ抵觸スルモノトス尚ホ請求人ハ本件第四一六號登
録商標ノ要部ハ印ナリト主張スレトモ本商標ノ要部ハ前述セル如ク單ニ(イ)ノミナラス人物草花ノ圖

形ノ結合モ亦其要部ノ一ナルヲ以テ此點ニ關スル請求人ノ主張ハ理由ナシ
以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月二十九日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
同 三浦 惠一
同 馬場 穎一

第二千六百五十五號

朝鮮釜山港富平町四丁目三十二番地	請求人	生駒 嵩三
同 慶尙北道大邱府大邱面元町一丁目四十番地一號	同	堺 萬次郎
同 慶尙北道大邱府大邱面大和町一丁目三十一番地	同	大竹 初太郎
同 慶尙北道大邱府大邱面大和町二丁目五十四番地ノ六號	同	船井 初太郎
同 慶尙北道大邱府大邱面錦町一丁目一番地二號	同	麻野 清一
同 慶尙北道大邱府大邱面東城町一丁目四番地	同	有田 寛一
同 慶尙北道大邱府大邱面元町一丁目七十二番地	同	中村 カン
大阪市西區江戶堀南通四丁目十番地特許辨理士	右代理人	阿部 直藏
朝鮮京城西部獨立門通り二丁目六番地	被請求人	吉野 新平

右當事者間ノ舊韓國統監府特許局第四一六號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

舊韓國商標第四一六號ノ登録ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人申立ノ要領ハ舊韓國統監府特許局第四一六號商標登録ハ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其理由ハ甲一號證ノ商標ハ被請求人ノ登録出願前即チ明治三十八年以來公知公用ニ屬スルモノナルヲ以テ之ト同一若ハ類似ナル被請求人ノ專用スル登録第四一六號ノ舊韓國商標ノ登録ハ無効タルヘキモノナリト謂フニアリ

被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ請求相立タサル旨ノ審決アリタシト申立テ其理由トシテ被請求人ハ明治三十七年以來朝鮮京城ニ於テ人參飴朝鮮飴及其他ノ菓子ノ製造販賣營業ヲ爲セルモノナル所朝鮮人ノ男女及插花竝朝鮮旗ニ流ヲ交叉セル圖形ヲ主要部分トセル商標ヲ案出シ乙一號證ヲ人參飴ノ商標ニ乙二號證ヲ朝鮮飴ノ商標ニ使用シ來リタル所明治四十一年八月統監府特許局新設セラレタルヲ以テ乙一號證人參飴ノ商標登録ヲ出願シ登録第三二號ヲ以テ其登録ヲ得タリ當時乙二號證朝鮮飴ノ商標登録ヲ出願セザリシハ兩者其主要部分ヲ同フセルヲ以テ其ノ一ニ付キ登録ヲ受クルニ於テハ他ノ一ハ當然專用シ得ヘキ結果ヲ生スヘキヲ以テナリ然ルニ被請求人ノ朝鮮飴ノ販路漸次擴張スルニ至リタルヲ以テ重複ヲ厭ハス更ニ朝鮮飴専用ノ商標トシテ明治四十三年四月乙二號證ノ登録ヲ出願シ同月二十八日第四一六號ヲ以テ其登録ヲ得タリ之レ請求人ノ甲一號證ト類似ニシテ請求人ノ無効ヲ主張スル所ノモノナリ被請求人ノ本件商標使用ノ事情前述ノ如シ然ルニ請求人ハ本件商標ヲ以テ明治三十八年來公知公用ニ屬スト主張スレトモ請求人提出ノ證據方法ヲ以テシテハ之ヲ證スルニ足ラサルノミナラス請求人等ハ被請求人カ登録ヲ得タル商標ナルコトヲ知りツ、之ヲ使用シタルモノナリト主張シ乙一號證乃至乙五號證ヲ提出シ證人訊問ヲ申請セリ

審決ノ理由

請求人ノ提出セル甲第一號證ノ商標カ被請求人ノ專用スル舊韓國商標第四一六號ノ登録出願前即チ明治四十三年四月十二日以前ニ於テ之ヲ請求人等ニ於テ使用シ既ニ世人ノ周知スル商標タリシコトハ請求人提出ノ證據書類及證人訊問ニ依リテ之ヲ認ムルニ十分ナリ蓋シ甲第一號證ノ商標ヲ請求人生駒巖三若ハ生駒嵩三(巖三ハ嵩三ノ誤ニシテ同一人ナリト認ム)ノ注文ニ依リ内地ニテ印刷ノ上朝鮮ニ移入シタルハ明治三十八年二月初マリ同三十九年ニ至リ既ニ其數數萬枚ヲ下ラサリシコトハ證人合田益太郎同竹中秀四郎及同山本三郎ノ供述ニ依リ之ヲ認ムルニ足ル而シテ此ノ商標ヲ商品朝鮮飴ニ使用販賣セル時期ハ請求人提出ノ甲第六號證大邱地方院檢事局商標法違反事件記録被告人堺萬次郎第一回訊問調書中ノ明治三十八九年頃ヨリ甲第四號證同伴同麻野清一第一回訊問調書中ノ明治四十一年一月頃ヨリ甲第三號證同伴參考人堺順藏第一回訊問調書中ノ明治四十一年四月前ヨリ何レモ之ヲ使用販賣セルコト竝ニ證人淺野幸次郎人中村カンノ訊問調書中ノ明治四十一年四月前ヨリ何レモ之ヲ使用販賣セルコト竝ニ證人淺野幸次郎ノ證言ニ依リ明治四十一年末以前ニ於テ被請求人以外ノ者カ之ヲ朝鮮飴ニ使用シタル事實ヲ認ムルニ足ル而シテ此ノ商標ヲ附セル商品ノ販賣高ハ前記各號ノ證據書類中ニ於ケル記載ニ依リ本件第四一六號ノ登録出願前世人ニ周知セラル、程度ニ達セルモノト認ム

今甲第一號證ノ商標ト本件第四一六號商標トヲ比較スルニ其要部ハ何レモ朝鮮男女ノ圖形及草花其他ノ文字ノ結合ニシテ殆ト同一ナリ只交叉セル旗ノ圖形竝ニ有無ノ差異アリト雖此等ノ小差ハ兩商標ノ類似タルコトヲ妨クルモノニアラス

以上ノ事實ヲ商標法ニ照スニ被請求人ノ專用スル舊韓國商標第四一六號ノ登録ハ其登録前ニ於ケル世人ノ周知セル他人ノ商標ニ類似シ且其ノ指定商品ノ同一ナル點ニ於テ商標法第二條第五號ニ該當シ又朝鮮國ニ於ケル菓子製造販賣業者ノ多數カ其登録前商品朝鮮飴ニ使用シ來リタル所謂慣用商標タル點

ニ於テ同法第二條第四號ニ該當スルモノトス從テ同法第十一條ニ依リ無効トスヘキモノナリ
 被請求人ハ本件商標使用ノ來歴ヲ述ヘ舊韓國商標第三二號ノ登錄アルカ故ニ第四一六號ハ假令登錄ヲ
 受ケサルモ第三二號ニ類似ナルカ故ニ當然專用シ得ラルヘキモノナリト主張スルニ似タリト雖登錄第
 三二號商標ハ其指定商品第一類人參飴ニシテ第四一六號商標ハ第四十三類菓子類ノ朝鮮飴ニ使用スル
 モノナルカ故ニ其ノ指定商品ヲ異ニスルヲ以テ被請求人ノ主張ハ理由ナシ又假令其指定商品ヲ同一ト
 シ甲第一號證ノ商標ハ登錄第三二號商標ニ類似スト假定スルモ第三二號商標ノ登錄出願前即明治四十
 一年十月三十日以前ニ於テ甲第一號證ノ商標カ既ニ同業者ノ同一商品ニ慣用スル商標ナルノミナラス
 世人周知ノ商標ニシテ同一商品ニ使用セルモノナルコト前記甲各號證特ニ甲第四號證及第六號證並ニ
 甲第八號證ニ依リ之ヲ認ムルニ足ルヲ以テ被請求人ノ主張ハ何等理由ナキモノトス其他被請求人ニ於
 テ主張スル所アリト雖上記説明ニ依リ其理由ナキコト自ラ明ナルヲ以テ敢テ説明セス
 以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月二十九日於特許局

審判長 特許局事務官 村山 小次郎
 同 三 浦 惠 一
 同 馬 場 穎 一

第二千六百五十三號

獨逸國シヤルロテンブルヒ

請 求 人

有限責任會社ラヂオヂェン、
グセルシヤフト、ミット、ベ
シユレンクテルハフトウン

橫濱市山下町二十四番地特許辨理士

右 代 理 人

ドクトル、カール、
フオーグト

橫濱市山下町百九十四番地

被 請 求 人

オレストテ、ヂュツセ
ルドルブ

右當事者間ノ第五七三六號商標登錄無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人ノ專用スル第五七三六號商標ノ登錄ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ主文ノ如ク審決アリタシト申立ヲ爲シ其理由ハ被請求人ハ本件商標登錄前請求人
 ノ代理人トシテ本邦ニ於テ請求人ノ製品ヲ輸入販賣シタルモノナルカ故ニ本件商標ハ請求人ノ商標ヲ
 表スモノナルコトヲ知リツ、何等ノ承諾ヲ得スシテ登錄ヲ受ケタルモノナルヲ以テ商標法第二條第八
 號前段ノ規定ニ該當シ同法第十一條ニ依リ無効タルヘキモノナリト謂フニアリ
 被請求人ハ之ニ對シ何等ノ答辯ヲ爲サス

審決ノ理由 「ラヂオヂェン、ゲゼルシヤフト、ミット、ベシユレンクテル、ハフトウン」カ獨逸國ニ於ケル請
 求人ノ商號ナルコトハ請求人ノ提出セル伯林中央王國區裁判所ノ商業登記簿本ニ依リ之ヲ認ムルニ足
 ル而シテ請求人カ其商品ニ商號ヲ附シ之ヲ帝國ニ輸入販賣シ爲メニ該商號カ本件商標登錄前既ニ帝國
 内ニ於テ同業者間ニ認識セラル、ニ至リタルコトハ證人「バウエル」及同守田保太郎ノ供述ニ依リテ之
 ヲ認ムルニ十分ナリ而シテ本件商標ハ RADIOGEN ト記シタルモノナルヲ以テ請求人ノ商號ヲ其承

諾無クシテ表示シタルモノトス從テ商標法第二條第八號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ無効トスヘキモノナリ

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月二十九日於特許局

審判長 特許局事務官

村山 小次郎

同

馬場 穎一

同

中松 眞卿

第二千六百五十四號

獨逸國シヤルロツテンブルヒ

請 求 人

有限責任會社ラヂオゲン、
ゲゼルシャフト、ミット、ベ
シユレンクテルハフトウン
ク

橫濱市山下町二十四番地特許辨理士

右 代 理 人

ドクトル、カール、
フォーグト

同 市山下町百九十四番地

被 請 求 人

オレスト、ヂュツセル
ドルブ

右當事者間ノ第五五三七號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人ノ専用スル第五五三七號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人ハ主文ノ如ク審決アリタシト申立ヲ爲シ其理由ハ被請求人ハ本件商標登録前請求人ノ代理人トシテ本邦ニ於テ請求人ノ製品ヲ輸入販賣シタルモノナルカ故ニ本件商標ハ請求人ノ商號ヲ表スモノナルコトヲ知リツ、何等ノ承諾ヲ得スシテ登録ヲ受ケタルモノナルヲ以テ商標法第二條第八號前段ノ規定ニ該當シ同法第十一條ニ依リ無効タルヘキモノナリト謂フニアリ

審決ノ理由

「ラヂオゲン、ゲゼルシャフト、ミット、ベシユレンクテル、ハフトウング」カ獨逸國ニ於ケル請求人ノ商號ナルコトハ請求人ノ提出セル伯林中央王國區裁判所ノ商業登記謄本ニ依リ之ヲ認ムルニ足ル而シテ請求人カ其商品ニ商號ヲ附シ之ヲ帝國ニ輸入販賣シ爲メニ該商號カ本件商標登録前既ニ帝國内ニ於テ同業者間ニ認識セラル、ニ至リタルコトハ審判第二六五三號ニ於ケル證人「バウエル」及同守田保太郎ノ供述ニ依リテ之ヲ認ムルニ十分ナリ而シテ本件商標ハ「RADIOGENOL」ト記シタルモノナリ從テ語尾ニ於テ小變化アリト雖尚ホ請求人「RADIOGEN」會社ノ商號ヲ其ノ承諾ナクシテ表示シタルモノト謂フヲ妨ケサルモノトス故ニ商標法第二條第八號ニ該當シ同法第十一條ニ依リ無効トスヘキモノナリ

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク審決ス

大正二年十一月二十九日於特許局

審判長 特許局事務官

村山 小次郎

同

馬場 穎一

同

中松 眞卿

第二千七百二十七號

百三十

支那國上海美租界北河南路錫須里四百四十一號 請求人 井上助市
 大阪市東區博勞町一丁目六十三番地特許辨理士 右代理人 湯淺順
 同 市南區日本橋筋三丁目五百三十番地 被請求人 吉田久四郎
 同 市東區高麗橋二丁目百二十六番屋敷特許辨理士 右代理人 岡田謙三郎

右當事者間ノ第三八七四二號登錄商標權利範圍確認審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
 主文 請求人ノ申立相立タス

審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人申立ノ要領ハ被請求人ノ所有ニ係ル登録商標第三八七四二號ノ權利ハ請求人ノ使用
 スル(ロ)號商標ニ及ハス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決相成度其ノ理由ハ本件登録商標ト請求人
 ノ使用スル(ロ)號商標ト比較對照スルニ莖花及裝飾紐ヲ有スル周欄ノ部分ニ於テハ多少相似タル點ナ
 キニアラスト雖モ此等ノ圖形ハ畢竟附記ノ圖形ノミ殊ニ莖花ノ欄ノ如キハ石鹼ノ商標トシテハ何人モ
 任意ニ使用シ得ル所謂普通商標ニ屬ス其ノ他欄内ニ記載スル文字ニ至リテハ自家商品ノ效能ヲ記シタ
 ルモノニ過キス從テ此兩商標ノ類否ヲ決スヘキ主要部分ハ中央上部ノ鳥ノ圖形ニ在リテ存ス而シテ第
 三八七四二號登錄商標ノ要部ハ樹枝ヲ咬ヘ右向シテ立テル毛冠ヲ有スル一羽ノ鳥ニ存シ請求人使用ノ
 (ロ)號商標ノ要部ハ王冠ノ下部ニ一羽ノ雄鷄ヲ配シテ成ルモノナルヲ以テ對照上ノ概觀ニ於テ異ル而已
 ナラス自然ニ生スル稱呼モ全然相異リ毫モ類似スルコトナシト謂フニ在リ
 被請求人申立ノ要領ハ請求人ノ使用スル(ロ)號商標ハ被請求人ノ商標權ヲ有スル登録商標第三八七四

二號ニ撞着ス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決相成度其ノ理由ハ本件登録商標ト請求人提出ノ(ロ)號
 證トヲ對照スルニ其ノ全體ノ概觀殆ト相類似セルノミナラス特ニ請求人ノ說明セル主要部分ニ就テノ
 ミ觀察スルモ花環狀ノ裝飾及「リボン」狀ノ下方ニ一羽ノ鳥ヲ描ケルニ對シ左右ニ花束狀ノ「リボン」ト
 中央ニ寶冠ト其ノ下方ニ鷄トヲ現ハシタルモノナルカ故ニ二者ノ商標殆ト相近似シ殊ニ裝飾ヲ金色ト
 爲シタルカ爲ニ一層類似ノ程度ヲ顯著ナラシムト謂フニ在リ

審決ノ理由 請求人ハ本件登錄商標第三八七四二號ニ於テ莖花及裝飾紐ヲ有スル周欄ノ部分ハ單ニ附記
 ノ圖形タルニ止マリ殊ニ莖花ノ欄ノ如キハ石鹼ノ商標トシテハ何人モ任意ニ使用シ得ル所謂普通商標
 ノ範圍ニ屬スルモノナリト論スト雖モ莖花ハ石鹼ノ商標中ニ多ク使用セラル、モノナリト謂フノ外何
 人モ自由ニ使用シ得ヘク從テ石鹼ニ使用スル商標甄別ノ資料トシテ常ニ認ム可カラサルモノナリト謂
 フヲ得サルノミナラス本件登錄商標ニ於テ莖花及裝飾紐ノ周欄ハ中央上部ニ描カレタル鳥ノ圖形及
 中央ニ記セル羅馬字ト相待ツテ本件登錄商標ノ要部ヲ構成セルモノナリ今請求人ノ使用スル(ロ)號商標
 ヲ見ルニ同シク莖花及裝飾紐ヲ以テ橫長方形ノ周欄ヲ描キ其ノ中央上部ニ鳥ノ圖形ヲ描キ中央ニ同様
 ノ記載方法ヲ以テ羅馬字ヲ記シテ成ルモノナルヲ以テ其全體ニ於テ二者外觀上相類似シ混同誤認ノ虞
 アルモノトス又假リニ請求人ノ說明セル主要部分ニ付キテノミ觀察スルモノ一羽ノ鳥ヲ畫ケル點ニ於テ
 相類似シ一ハ雄鷄ニシテ他ハ然ラサル點又ハ樹枝及王冠ノ有無ノ如キハ二者ヲ區別スルニ足ラス以上
 ノ理由ニ基キ請求人カ石鹼ニ使用スル(ロ)號商標ハ本件登錄商標第三八七四二號ト類似スルモノト認ム
 仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月九日於特許局

審判長 特許局事務官 三 浦 惠 一

百三十一

第二千七百四十六號

特許局事務官 山岡國利
同 中松真卿

百三十二

東京府豊多摩郡澁谷町大字麻布廣尾町六十三番地
東京市麴町區道三町四番地特許辨理士
大阪府東區瓦町四丁目五十一番地
同 市北區眞砂町四十二番地特許辨理士

請求人 川邑春松
右代理人 木原元次
被請求人 藤岡清造
右代理人 岸本晋亮

右當事者間ノ第五三六五六號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 被請求人専用ノ第五三六五六號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス
審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ第五三六五六號商標ノ登録ヲ無効トシ審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ被請求人専用ノ本件商標ハ獅子頭部ノ圖形ヲ主要部トスルモノナルヲ以テ獅子全身ノ圖形ヲ主要部トスル請求人専用ノ第四三八七八號ノ二登録商標ト圖形竝ニ稱呼上類似タルヲ免レス而シテ兩商標ノ商品相抵觸シ本件商標ハ後願ニ係ルヲ以テ其ノ登録ハ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ無効トスヘキモノナリト謂フニ在リ
被請求人ハ請求人ノ申立相立タストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ請求人専用ノ第四三八七八號ノ二登録商標ハ圓輪廓内ニ獅子全身ヲ畫ケルモノナルニ本件商標ハ「ハート」形内ニ獅子頭部ノ

ミヲ現ハセルモノヲ主要部トナスモノナレハ兩者ハ類似セス且ツ兩者ノ商品ハ其ノ範圍ニ於テ大差アリト謂フニ在リ

審決ノ理由 本件商標ハ獅子ノ頭部ヲ現ハシ之ヲ子母線「ハート」形ニテ圍ミ上部ニLION CREAM下部ニ「ライオンクリーム」ト横記シタルモノニシテ請求人専用ノ第四三八七八號ノ二登録商標ハ全身ノ獅子ヲ畫キ之ヲ二重圍ニテ圍ミ圓線間ニ種々ノ歐字ヲ記セルモノナルヲ以テ兩商標ハ頭部ト全身トノ差コソアレ何レモ獅子ヲ以テ最主要部ト爲セルコト論ナク圖形上竝ニ稱呼上混同ノ虞アルコト明ナルヲ以テ本件商標ハ請求人ノ前記登録商標ニ類似セルモノト認メサルヲ得ス而シテ本件商標ノ商品ハ「クリーム」ナルヲ以テ請求人ノ前記登録商標ノ商品タル「クリーム」ト同一ニシテ且ツ本件商標ハ後願ニ係ルヲ以テ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ其ノ登録ハ之ヲ無効トスヘキモノトス
仍テ審決スルコト主文ノ如シ

大正二年十二月九日於特許局

審判長 特許局事務官 三浦惠一
同 山岡國利
同 中松真卿

第二千七百二十三號

神戸市兵庫水木通一丁目二十九番邸ノ九十五
東京市日本橋區吳服町二番地特許辨理士

請求人 良燧合資會社
右代理人 杉田金之助

百三十三

廣島市三川町四十四番地

大阪府東區高麗橋二丁目百二十六番屋敷特許辨理士

被請求人 廣島油明株式會社

右當事者間ノ第四七〇三九號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人ノ專用スル第四七〇三九號商標ノ登錄ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ被請求人專用ノ第四七〇三九號商標ノ登錄ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ

負擔トスト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ明治四十四年六月中ニ登錄アリタル本件商標ヲ請求

人カ明治四十三年三月中ニ登錄ヲ得タル第四〇二七九號商標ト對比スルニ其ノ中央ノ筒様ノ圖形ヨリ

兩側ニ於ケル添物、上部ノ布片、其ノ内ニ記載セル英語、上部兩隅ノ蝙蝠形唐草模様、下部橫長方形欄其

ノ上部ニ引ケル黃地ニ赤ノ橫線其他縱長方形ノ外欄、赤黃黒ノ色彩及其ノ配置ニ至ルマテ殆ト全部ニ

涉リテ前者ハ後者ニ酷似シ且ツ商品相抵觸スルヲ以テ本件商標ハ商標法第三條第十一條及第十八條ニ

依リ無効トスヘキモノナリト謂フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要

領ハ本件商標ハ方形ノ鉢ニ植エタル三叉狀ノ蘇鐵タルコト明白ニシテ第四〇二七九號登錄商標ハ一本

ノ筭ヲ現ハセルモノタルコト亦疑ヲ容レズ且其ノ圖形ノ下部ニ金筭爲記ノ文字アリテ稱呼上ヨリスル

モ筭印タルコト明ナルヲ以テ兩商標ハ類似ナリト謂フヘカラス翻テ兩商標ニ於ケル周圍ノ欄、上部兩

隅ノ唐草 Safetyノ文字及其ノ色彩ノ如キハ隣寸ノ商標ニ於テ早クヨリ一般ニ慣用セラル、所ナルヲ以

テ之等ノ點ハ兩商標ノ類似如何ヲ左右スヘキ分子ニアラスト謂フニ在リ

審決ノ理由 本件商標ノ主要部タル蘇鐵ノ圖形ト第四〇二七九號登錄商標ノ主要部タル筭ノ圖形及笹模

様トヲ仔細ニ對照スルトキハ何人モ其ノ區別アルコトヲ認ムヘシト雖モ兩圖形ヲ離隔的ニ概觀スルト
キハ頗ル相紛ハシキモノアリテ混同ヲ生スルノ虞アリト認メサルヲ得ス加フルニ兩商標ハ其ノ縱長方
形外欄、上部兩隅ノ模様、上部ニ半圓形ヲナセル布片形、其ノ内ニ記セル英語、下部ノ橫長方形欄及着色
竝ニ其ノ配置等ニ至ルマテ極メテ近似セルヲ以テ結局兩商標ハ類似セルモノナリト斷セサルヲ得ス而
シテ兩商標ハ其ノ商品ヲ同一ニシ本件商標ハ後願ニ係ルヲ以テ本件商標ノ登錄ハ商標法第三條第一項
及第十一條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノトス尙當事者各主張スル所アルモ審決ニ付必要ナキヲ以テ説
明セス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月九日於特許局

審判長 特許局事務官 三浦 惠一

同 岡 國利

同 中松 眞卿

第二千七百四十五號

東京府豊多摩郡澁谷町大字麻布廣尾町六十三番地

東京市麴町區道三町四番地特許辨理士

大阪府東區瓦町四丁目五十一番地

同 市北區真砂町四十二番地特許辨理士

請求人 川 邑 春 松

右代理人 木 原 元 次

被請求人 藤 岡 清 造

右代理人 岸 本 晋 亮

右當事者間ノ第四四二七三號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 被請求人専用ノ第四四二七三號商標ノ登録ハ靴墨及「クリーム」ニ付テハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人ハ第四四二七三號商標ノ登録ヲ無効トシ審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ被請求人専用ノ本件商標ハ獅子頭部ノ圖形ヲ主要部トスルモノナルヲ以テ獅子全身ノ圖形ヲ主要部トスル請求人専用ノ第四三八七八號ノ二登録商標ト圖形竝ニ稱呼上類似タルヲ免レス而シテ兩商標ノ商品相抵觸シ本件商標ハ後願ニ係ルヲ以テ其ノ登録ハ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ無効トスヘキモノナリト謂フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ請求人専用ノ第四三八七八號ノ二登録商標ハ圓輪廓内ニ獅子全身ヲ畫ケルモノナルニ本件商標ハ「ハート」形内ニ獅子頭部ノミヲ畫ケルモノナレハ兩者ハ類似セス且ツ兩者ノ商品ハ其ノ範圍ニ於テ大差アリト謂フニ在リ

審決ノ理由

本件商標ハ獅子ノ頭部ヲ現ハシ之ヲ子母線「ハート」形ニテ圍メルモノニシテ請求人専用ノ第四三八七八號ノ二登録商標ハ全身ノ獅子ヲ畫キ之ヲ二重圓ニテ圍ミ圓線間ニ種々ノ歐字ヲ記セルモノナルヲ以テ兩商標ハ頭部ト全身トノ差コソアレ何レモ獅子ヲ以テ最主要部ト爲セルコト論ナク圖形上竝ニ稱呼上混同ノ虞アルコト明ナルヲ以テ本件商標ハ請求人ノ前記登録商標ニ類似セルモノト認メサルヲ得ス而シテ本件商標ノ商品ハ請求人ノ前記登録商標ノ商品タル靴墨及「クリーム」ト抵觸シ且ツ本件商標ハ後願ニ係ルヲ以テ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ其ノ登録ハ靴墨及「クリーム」ニ付テハ之ヲ無効トスヘキモノトス
仍テ審決スルコト主文ノ如シ

大正二年十二月九日於特許局

審判長 特許局事務官

三浦 惠一
岡 國利
山岡 國利
中松 眞卿

第二千七百五十四號

大阪市西區本田町一丁目二十二番地

請求人 山代 甚七

東京市京橋區南金六町十二番地特許辨理士

右代理人 關 直彦

同 市芝區愛宕下町四丁目六番地特許辨理士

同 神戸市下山手通八丁目百九十一番屋敷

被請求人 飯田 健次郎

東京市京橋區鎗屋町八番地特許辨理士

右代理人 森井 棹太郎

同 市京橋區鎗屋町八番地特許辨理士

同 内村 達次郎

同 市京橋區鎗屋町八番地特許辨理士

同 小谷 鐵次郎

右當事者間ノ第四三九四三號商標登録無効審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 被請求人ノ専用スル第四三九四三號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人ハ被請求人ノ専用スル第四三九四三號商標ノ登録ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ明治四十三年十二月十九日登録ヲ得タル本件商標ハ中央ニ花形様ノ圓形ヲ描キ二頭ノ獅子カ其左右ヨリ前脚ヲ之ニ掛ケテ對向セル圖形ヲ以テ要部

ト爲シ其上下部ニ羅馬字ヲ記シタルモノニシテ請求人ノ専用ニシテ先願ニ係ル第六二六九號登錄商標ハ中央ニ壽字紋ヲ表ハセル圓形ヲ描キ二頭ノ獅子カ其左右ヨリ之ニ前脚ヲ掛ケテ對向セル圖形ヲ以テ要部ト爲シ其上下部ニ羅馬字ヲ記シタルモノナルカ故ニ兩商標ハ外形上竝ニ稱呼上類似タルヲ免レヌ且ツ兩商標ハ其商品ヲ同一ニスルヲ以テ本件商標ハ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ其登錄ヲ無効トスヘキモノナリト謂フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件商標ハ中央ニ鞠ヲ畫キ其左右ニ正面ヲ見タル狍犬ヲ表ハシタルモノニシテ第六二六九號登錄商標ハ中央ニ圓形壽字紋ヲ畫キ其左右ニ唐獅子ヲ對向セシメタルモノナルヲ以テ兩商標ハ判然タル區別アリト謂フニ在リ

審決ノ理由 本件商標ハ中央ナル圓形ノ模様ト其左右ニ對向セル動物ノ圖形トヲ主要部ト爲シ第六二六九號登錄商標ハ中央圓形内ニ壽字紋ヲ畫キ其左右ニ對向セル動物ノ圖形ヲ表ハセルモノヲ主要部ト爲セルコト明ニシテ歐字ノ如キハ單ニ附記ニ過キス而シテ右兩者ノ動物ハ其圖形ニ於テ甚タ近似シ加フルニ中央ノ圓形ニ前脚ヲ掛ケテ對向セル點等ヨリ觀察スルトキハ右兩商標ハ外形頗ル近似セルヲ以テ本件商標ハ着色ヲ限定セルニ拘ラス兩者ハ稱呼上ニ於テ混同ヲ生スルノ虞アルコト明ニシテ即チ類似セルモノト認メサルヲ得ス而シテ兩者ハ其商品ヲ同一ニシ本件商標ハ後願ニ係ルヲ以テ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ其登錄ハ之ヲ無効トスヘキモノトス尙被請求人ニ於テ商標法第十八條第三項及第三條第二項ノ解釋竝ニ之等條項ト聯合商標トノ關係ニ付キ主張スル所アルモ其誤レルコト明白ナルヲ以テ茲ニ之ヲ説明スルノ煩ヲ爲サス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月二十四日於特許局

審判長 特許局事務官 三浦 惠一
同 岡 國利
同 山 岡 國利
同 中 松 眞 卿

第二千七百四十八號

大阪市西區本田町一丁目二十二番地 請求人 山代 甚七
東京市京橋區南金六町十二番地特許辦理士 右代理人 關 直 彦
同 市芝區愛宕下町四丁目六番地特許辦理士 同 飯 田 健 次 郎
神戸市下山手通八丁目百九十番屋敷 被請求人 森 井 棗 太 郎
東京市京橋區鎗屋町八番地特許辦理士 右代理人 内 村 達 次 郎
同 市京橋區鎗屋町八番地特許辦理士 同 小 谷 鐵 次 郎

右當事者間ノ第四三三〇〇號商標登錄無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 被請求人ノ専用スル第四三三〇〇號商標登錄ハ之ヲ無効トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ被請求人ノ専用スル第四三三〇〇號商標ノ登錄ハ之ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ明治四十三年十一月二日登錄ヲ得タル本件商標ハ中央ニ花形様ノ圓形ヲ描キ二頭ノ獅子カ其左右ヨリ前脚ヲ之ニ掛ケテ對向セル圖形ヲ以テ要部

ト爲シ其上下部及左右ニ羅馬字ヲ記シタルモノニシテ請求人ノ專用ニシテ先願ニ係ル第六二六九號登錄商標ハ中央ニ壽字紋ヲ表ハセル圓形ヲ描キ二頭ノ獅子カ其左右ヨリ之ニ前脚ヲ掛ケテ對向セル圓形ヲ以テ要部ト爲シ其上下部及左右ニ羅馬字ヲ記シタルモノナルカ故ニ兩商標ハ外形上竝ニ稱呼上類似タルヲ免レス且ツ兩商標ハ其ノ商品ヲ同一ニスルヲ以テ本件商標ハ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ其ノ登錄ヲ無効トスヘキモノナリト謂フニ在リ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其ノ理由ノ要領ハ本件商標ハ中央ニ鞠ヲ畫キ其左右ニ正面ヲ見タル狛犬ヲ表ハシタルモノニシテ第六二六九號登錄商標ハ中央ニ圓形壽字紋ヲ畫キ其左右ニ唐獅子ヲ對向セシメタルモノナルヲ以テ兩商標ハ判然タル區別アリト謂フニ在リ

審決ノ理由 本件商標ハ中央ナル圓形ノ模様ト其左右ニ對向セル動物ノ圖形トヲ主要部ト爲シ第六二六九號登錄商標ハ中央圓形内ニ壽字紋ヲ畫キ其左右ニ對向セル動物ノ圖形ヲ表ハセルモノヲ主要部ト爲セルコト明ニシテ歐字ノ如キハ單ニ附記ニ過キス而シテ右兩者ノ動物ハ其圖形ニ於テ甚タ近似シ加フルニ中央ノ圓形ニ前脚ヲ掛ケテ對向セル點等ヨリ觀察スルトキハ右兩商標ハ外形頗ル近似セルヲ以テ本件商標ハ着色ヲ限定セルニ拘ラス兩者ハ稱呼上ニ於テモ混同ヲ生スルノ虞アルコト明ニシテ即チ類似セルモノト認メサルヲ得ス而シテ兩者ハ其商品ヲ同一ニシ本件商標ハ後願ニ係ルヲ以テ商標法第三條第一項及第十一條ニ依リ其ノ登錄ハ之ヲ無効トスヘキモノトス尙被請求人ニ於テ商標法第十八條第三項及第三條第二項ノ解釋竝ニ之等條項ト聯合商標トノ關係ニ付主張スル所アルモ其ノ誤レルコト明白ナルヲ以テ茲ニ之ヲ説明スルノ煩ヲ爲サス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年十二月二十四日於特許局

審判長 特許局事務官

三浦	惠一
中山	岡國利
中松	眞卿

商標審決錄 終

特許抗告審決錄

大正十一年十月二十四日

特許審判官

三

特許抗告審決録目次

審決要旨	抗告審判番	件名	當事者	審決年月日	頁數
第三〇九號	第一二七三八號	改訂特許(宮西式唧筒)無効事件 (明治四十四年十一月二十一日審決參照)	(請) 宮野 福次郎 (被) 神藤 又吉	二、二、三	一頁
第四〇七號	第五二九〇號	特許(大根早切機)無効事件 (明治四十五年七月一日審決參照)	(請) 中島 きん (被) 森 淺治郎	二、二、五	三
第四〇九號	第六四七一號	特許(美術絹絲)願拒絶再査定不服事件	(請) 安井 菊藏	二、二、九	六
第四〇二號	第五〇四四九號	特許(紡績用材料)願拒絶再査定不服事件	(請) エミル、クラ フイーツ	二、二、三〇	八
第三四一號	第七六七八號	特許(吹止真綿製造法)無効事件 (明治四十五年二月十日審決參照) (大正二年六月二日大審院判決參照)	(請) 中川 雋太 (被) 武藤喜久一郎	二、二、三二	一〇

第三四一號
特許法第八十一條ニ審
決ノ送達ヲ受ケタル日
ヨリ六十日以内ニ抗告
審判ヲ請求スルコトヲ
得トアル其期間ノ計算
ハ初日ヲ算入セサルモ
トス

審決要旨

第一九〇號
一、點ノ白米ヲ製シ得ルノ
二、點ノ米ヲ以テ精米方法
ノ可クテ定ムヘカラス
急激ナル運動及壓迫粒ニ
與ヘテ緩ニシテ時間ハ之
等チ緩ルチ最良ノ方法
ト加フルチ最良ノ方法

抗告審判

件名

當事者

審決年月日 頁數

第四〇六號

第四七七二號
特許(安定ナル無水次
亞硫酸曹達製造法)願
拒絶再査定不服事件

(請) バーチッシュ、ア
グ、フアブリック

二、二、四 二六

第一九〇號

第九一二〇號
特許(精米機)無効事件
(明治四十四年一月二十七日
日審決參照)

(請) 川口治之丞
合資會社粟辻
商店

二、二、二 一八

第一九二號

第九一二〇號
特許(精米機)權利確認
事件
(明治四十四年一月二十七日
日審決參照)

(請) 川口治之丞
合資會社粟辻
商店

二、二、二 二四

第二八七號

第五七五六六號
特許(數多ノ機械ヲ運
轉セシムル電氣的裝
置)願拒絶再査定不服
事件

(請) クリストッフ、
ウイルト

二、二、三 二八

第三九四號

第六二二八〇號
特許(浸水體防護電氣
裝置)願拒絶再査定不
服事件

(請) ショーン、エザン
ス、セームス

二、二、八 三〇

第四一五號

第六二九八六號
特許(硝酸製造法)願拒
絶再査定不服事件

(請) フアルブウエルケ、
フォルム、マイス
ンド、ブルニク

二、二、八 三三

第二九〇號

第一〇一〇九號
特許(墨汁)權利確認事
件
(明治四十四年十月六日審
決參照)

(請) 青木銀左衛門
被) 千澤平三郎

二、三、四 三四

第三五五號

第一六四八七號
特許(起毛織物製造法)
無効事件
(明治四十五年三月十一日
審決參照)

(請) 奥野治平
被) 武田竹三郎

二、三、〇 三七

第三七二號

第五七九〇八號
特許(撚諸絲)願拒絶再
査定不服事件

(請) 木村偉三郎

二、四、二 四二

第三〇二號

第二七二二五號
改訂特許(麵類製造機)
無効事件
(明治四十四年十一月二十
九日審決參照
大正二年十月二十日大審
院判決參照)

(請) 原田儀左衛門
被) 鶴澤榮吉

二、四、五 四四

第四〇八號

第六二八七六號
特許(車體積載量輕減
運搬器)願拒絶再査定
不服事件

(請) 薰田權次郎

二、四、七 四七

第三七七號

第六〇九四四號
特許(エヌエヌポンプ)
願拒絶再査定不服事件

(請) 西常五郎

二、四、七 四八

第四二七號

第一七七四六號
特許(亞鉛華製造裝置)
權利確認事件
(大正元年九月三十日審決
參照)

(請) 宇津市太郎
被) 青木清太郎

二、四、八 五一

審決要旨

抗告審判

番

名

當事者

審決年月日

頁數

第四一四號

第六二四八〇號
特許(煉炭製造法)願拒
絶再査定不服事件

(請) ウェットカー、ホ
ナイジンケ、リミ
テット

二、四、六
五頁

第四二號

第四九〇三四號
特許(魚類鹽漬保存方
法)願拒絶再査定不服
事件

(請) イウアン、イウアン
ウイッチコノノフ

二、四、三〇
五

第四三四號

第二〇三六五號
特許(柔質「オブラー
ト」無効事件
(大正元年十月十六日審決
参照)

(請) 岡村 平助
(被) 小林 政太郎

二、五、七
五

第四一九號

第六四八二二號
特許(燐寸發火劑製造
法)願拒絶再査定不服
事件

(請) アー、マラン

二、五、九
六

第四六九號

第六五五二七號
特許(甘蔗處理法)願拒
絶再査定不服事件

(請) シモンズ、シユガ
ー、コムパニー

二、五、九
五

第四六五號

第一九八八〇號
特許(關式硫酸安母尼
亞製造用分離器)無効
事件
(大正元年十二月四日審決
参照)

(請) 町井 正路
(被) 田原 明

二、五、三
六

第四六五號

發明ノ明細書ニ其實施
ニ必要ナル事項ヲ其
故意ニ記載スルモ其
ラシムル目的ニ出テ
ラシムル場合ハ特

第四二二號

第六三三三五號
特許(町井式「アンモ
ニア」蒸溜用分離器)願拒
絶再査定不服事件

(請) 町井 正路

二、五、三
七

第四一七號

第一六四三三號
特許(練墨)權利確認事
件
(大正元年八月八日審決參
照)

(請) 林 長之助
(被) 田口 精爾

二、六、八
七

第四三一號

第一六四八七號
特許(起毛織物製造法)
權利確認事件
(大正元年十月十日審決參
照)

(請) 山口 安吉
(被) 武田 竹三郎

二、六、四
七

第四八一號

第六七二二六號
特許(廢蜜精糖法)願拒
絶再査定不服事件

(請) 和田 長史

二、六、四
八

第四七六號

第四九一號
特許(四季ノ友)願拒絶
再査定不服事件

(請) 笠井 讓一

二、六、六
八

第四二〇號

第二二一六〇號
特許(龜甲形金網編織
器械)無効事件
(大正元年八月二十四日審
決参照)

(請) 大阪金網合名
會社
(被) 堀越 幸

二、六、六
八

第三八〇號

第六〇七二四號
特許(福山式給水栓)願
拒絶再査定不服事件

(請) 福山 政市

二、六、三〇
八

第四五七號

第一三一七號
特許(水ノ不斷運動)願
拒絶再査定不服事件

(請) 長田 音吉

二、六、三〇
九

許法第四十九條第一項
第四號ニ該當セス
二自己ノ特許發明ニ付
改良ハ擴張シタル點カ
新規ノ發明ヲ構成スル
場合ニ於テ其新規ナル
發明ニ付テハ特許法第
一條ノ規定ニ依リ明ニ
シテ同法第二條第一項
ニ於テハ此場合ニ於テ
特許ヲ受クル權利ヲ
追加特許ヲ選擇スルコ
トヲ得ヘキ旨ヲ規定シ
テ之ヲ受クルコトヲ拒
スル趣旨ニアラス

第四一七號

抗告審判ニ於テハ各當
事者ノ原審ニ於ケル申
立ノ範圍内ニ於テ係争
事件ノ全體ニ付更正審
理及審決ヲ爲スコトヲ
得ヘキモノトス

第四二二號

相手方カ特許ノ方法ト
同ナル方カ特許ノ方法
トシテ事實アルヤ否ヤ
ノ事ヲ審判請求ハ之
的トスル審判請求ハ之

審決要旨

審決要旨	抗告審判番號	件名	當事者	審決年月日	頁數
	第四九二號	舊韓國第一〇〇號特許(腹掛「バッチ」)權利確認事件 (大正二年三月二十六日審決參照)	(請) 戶田兵右衛門 (被) 丹羽莊治郎	二年三月九日	九三頁
	第四八二號	特許(洗眼器)無效事件 (大正二年三月二十二日審決參照)	(請) 千々和政喜 (被) 中原孫助	二年三月九日	九五頁
	第五〇〇號	特許(種蒔器)權利確認事件 (大正二年四月二十四日審決參照) (大正二年十二月十一日大審院判決參照)	(請) 黑田梅太郎 (被) 阪利外一名	二年三月九日	九六頁
	第三五二號	特許(斬毛機)無效事件 (明治四十五年三月一日審決參照) (大正二年十二月二十三日大審院判決參照)	(請) 柳生利吉 (被) 小仲嘉次郎	二年三月九日	九九頁
	第三三六號	特許(甲式火力乾燥裝置)願拒絕再查定不服事件 (大正二年四月三十日審決參照)	(請) 辻頼母	二年三月九日	一〇三頁
	第五一〇號	特許(衛生防臭器)權利事件 (大正二年三月十四日審決參照)	(請) 衛生防臭器製造合資會社	二年三月九日	一〇五頁

	第三六四號	確認事件 (大正二年三月十四日審決參照)	(被) 園田才治	二年三月九日	一〇七頁
	第五二〇號	特許(水田粉種蒔器)權利確認事件 (大正二年四月三十日審決參照)	(請) 黒田梅太郎 (被) 山本太三郎	二年三月九日	一〇九頁
	第五一四號	特許(水田粉種蒔器)權利確認事件 (大正二年四月三十日審決參照) (大正二年十二月十一日大審院判決參照)	(請) 黒田梅太郎 (被) 赤坂利外一名	二年三月九日	一一二頁
	第三四八號	特許(吹止綿製造法)權利確認事件 (明治四十五年二月二十六日審決參照)	(請) 武藤喜久一郎 (被) 武井泉三郎	二年三月九日	一二四頁
	第三九八號	特許(複籽裝置箴框)無效事件 (明治四十五年六月四日審決參照) (大正二年十二月十八日大審院判決參照)	(請) 中川雋太郎 (被) 樂滿常太郎	二年三月九日	一二五頁

審決要旨

抗告審判番號	件名	當事者	審決年月日	頁數
第三三一號	第五九四四一號 特許(甲式乾燥空氣流促進裝置)願拒絶再査定不服事件	(請) 辻 頼母	二、七、二四	二、三〇
第四九一號	第一〇六〇八號 特許(染抜並製造法)權利確認事件 (大正二年二月二十一日審決参照)	(請) 上岡 卯之吉 (被) 市川 善兵衛	二、七、二四	二、三三
第四六七號	第六一〇二九號 特許(玉蜀黍精白割製造法)願拒絶再査定不服事件	(請) 竹内 又藏 外一名	二、八、六	二、三五
第三三三號	第六〇六三六號 特許(同一ノ後座長ノ有スル砲身後座式)願拒絶再査定不服事件	(請) 株式會社フリイ ドリッピン、ケルプア	二、八、六	二、三七
第五二九號	第六八七三一號 特許(錦代硯)願拒絶再査定不服事件	(請) 原 重太郎	二、八、六	二、三〇
第五一九號	第四四七七號 特許(鹹水濃縮裝置)願拒絶再査定不服事件	(請) 小川 文之助	二、八、六	二、三三
第四一八號	第六〇〇八七號 特許(蘭草撰粒器)願拒絶再査定不服事件	(請) 野上 猛次郎	二、八、八	二、三三

第三三三號
一、一般火砲ノ設計ニ於テ發射ニ際シテ砲尾ノ振動ヲ減スルノ目的ヲ以テ動シ身ニ特ニ質量ヲ増加シ以テ反動ノ一部ヲ増收セシムルノ考案ハ所從來普通ニ行ハル所ナリ

第五一九號
一、砲身ニ十分ナル均衡重量ヲ付スレハ從テ復座機ノ重量ノ增加ヲ來シテ解セル各駄載重量ハ從テ增加スヘキモノトス

抗告審判番號	件名	當事者	審決年月日	頁數
第五三一號	第五九三二〇號 特許(シャツ)願拒絶再査定不服事件	(請) 古家 豊	二、八、九	二、三五
第四〇三號	第六二三四四號 特許(煉乳製造法)願拒絶再査定不服事件	(請) 裕 文之進	二、八、二	二、三七
第五二六號	第一〇四八號 特許(岩間式精米法)願拒絶再査定不服事件	(請) 岩間 四郎平	二、九、一	二、三九
第三七九號	第六二二三八號 特許(船舶用推進裝置)願拒絶再査定不服事件	(請) チャールズ、アル ガンソン、バーソ ンズ	二、九、二七	二、四七
第五〇九號	第六八三五二號 特許(捺染用印版製造法)願拒絶再査定不服事件	(請) 小川 岩之助	二、九、二八	二、四三
第四九七號	第二〇一一四號 特許(噴霧器)權利確認事件 (大正二年三月十三日審決参照)	(請) 橋野 定吉 (被) 小川 太良四郎	二、九、二〇	二、四五
第三九九號	第一七三九一號 特許(改良綿子)捺染仕上ケ方法)無効事件 (明治四十五年三月二十日審決参照)	(請) 渡邊 綱五郎 外十七名 (被) 吉川 哲雄	二、九、二六	二、四八

第五二六號
一、精米ニ於テ掩護ト精工トノ作用ヲ有スル資料ヲ初メヨリ混和スルコトハ從來公知ニ屬ス

第五二六號
其表面ヨリ加フルト其底面ヨリ加フルトハ乾燥シタル瓦斯ヲ流動セシメ液體ヨリ發生シタル蒸氣ヲ急速ニ他ニ移動セシムルコトハ必要條件ナリ

第三九九號
一、當事者ノ一方ノ主張ヲ相手方カ認諾スルモ之レニ依リテ特許ノ有效ヲ無効ト決スヘキモノニアルス

審決要旨

抗告審判

件

名

當事者

審決年月日

頁數

第四三三號

第六〇四一六號
特許(溶液特ニ水冶金の溶液ヨリ貴金屬沈澱收得法)願拒絕再査定不服事件

(請) チャールス、ダブリュ、マール

二、九二六 一五三

第四九〇號

一試験ノ結果ヲ雜誌ニ登載シテ發表シタル爲メ發明力公然知ラル、ニ至リタル場合ニ於テハ發明力試驗ノ爲メ公然知ラル、ニ至リタリト謂フヲ得ス

第一八三三七號

特許(肥料)無効事件
(大正二年二月二十七日審決参照)

(被) 町井 正路
東京硫酸肥料株式會社 外一名

二、九三〇 一五三

第五二五號

第五二七九二號
特許(亞硝酸鹽ヲ硝酸鹽ニ變化スル方法)願拒絕再査定不服事件

(請) バイガッシュ、ニアニ、リン、ワン、ド、ソ、ダ、フ、ア、アリック

二、九三〇 一五七

第三二七號

第五九〇二四號
特許(展開金屬板製造法)願拒絕再査定不服事件

(請) ゼ、エキスパンテック、ド、メタル、コム、バニ、リミテッド

二、一〇、六 一五八

第五四二號

第四九六九號
特許(人髮諸色染)願拒絕再査定不服事件

(請) 田中金三郎

二、一〇、九 一六二

第四八四號

第五二二八六號
特許(「スチールクラック」ト鑄鐵法)願拒絕再査定不服事件

(請) 大日方 一輔

二、一〇、九 一六三

第三四九號

第一二二九一號
特許(製革法)無効事件

(被) 井上 次八
井上 竹治

二、一〇、一〇 一六五

第四八四號

一請求範圍ノ記載不完全ナル場合ニ於テ其範圍ヲ明確ナラシムルニハ明細書ノ本文ニ依リ之ヲ解釋スルヲ至當トス

第五四五號

第二二〇二五號
特許(中田式輕便把手)權利確認事件
(大正二年五月三十一日審決参照)

(請) 中田 松治郎
北井 菊松 外一名

二、一〇、一〇 一六九

第五四六號

第一八〇三一號
特許(第二中田式輕便幅板)權利確認事件
(大正二年六月三日審決参照)

(被) 中田 松治郎
信木 富造

二、一〇、一三 一七三

第三五九號

第五八三二四號
特許(窒素肥料製造法)願拒絕再査定不服事件

(請) 鈴木 藤吉

二、一〇、一四 一七六

第五五五號

第六八五四九號
特許(金屬纖維條電球ノ改良)願拒絕再査定不服事件

(請) ドイツ、エ、カ、ス、グ、リ、ユ、イ、リ、ヒ、ト、ア、ク、チ、エ、ン、ケ、セ、ル、シ、ヤ、ブ、ト

二、一〇、三〇 一七六

第五七一號

第六八七〇七號
特許(畦壞機)願拒絕再査定不服事件

(請) 中島 侃二

二、一〇、一九 一八〇

第四七五號

第六四六七〇號
特許(甘蔗糖製造法)願拒絕再査定不服事件

(請) ユーゼン、ハ、ア、ール、バツ、テ、ル

二、一〇、一〇 一八二

第四七八號

第六五三三二號
特許(明撮幕)願拒絕再査定不服事件

(請) 小澤 章雄

二、一〇、二二 一八四

(明治四十五年二月二十九日審決参照)

審決要旨

審決要旨	抗告審判番號	件名	當事者	審決年月日	頁數
特許(中田式輕便把手)權利確認事件 (大正二年五月三十一日審決參照)	第五六一號	北井 菊松 外二名 田中 松治郎	(請) 北井 菊松 (被) 田中 松治郎	二二、二六 二二、二六	一八頁
特許(マグネシウムヲ含有スル)アルミニウム合金ノ質ヲ改良スル方法)願拒絶再査定不服事件	第四二九號	アルフレット、ウヰルヘルム	(請) アルフレット、ウヰルヘルム	二二、二六	一九二
特許(絹絲紡績原料精練法)無効事件 (大正二年二月二十七日審決參照)	第四九四號	鐘淵紡績株式會社 井上 篤太郎 外一名	(請) 鐘淵紡績株式會社 (被) 井上 篤太郎 外一名	二二、二六	一九三
特許(輕便目立テ幅板)權利確認事件 (大正二年六月六日審決參照)	第五六二號	神田 政吉 外五名 中田 松治郎	(請) 神田 政吉 (被) 中田 松治郎 外五名	二二、二六	一九七
特許(高速力ノ船艦ノプロペラ)改良)願拒絶再査定不服事件	第四〇一號	パルシ、レック ソンス	(請) パルシ、レック ソンス	二二、二六	二〇二
特許(横目式諸目網編)	第四六四號	西口 利平	(請) 西口 利平	二二、二六	二〇四

第五四一號
鐵面ニ鋼ヲ附着シテ後之ヲ數箇ニ切斷セハ鋼ノ附着均等ナル物ヲ得ルモノナリ

成方法)願拒絶再査定不服事件	第五六六號	長谷川 政記	(請) 長谷川 政記	二二、二九	二〇六
特許(長谷川式火焰管管塞器填材)願拒絶再査定不服事件	第四七七號	アンドリュ、レイング	(請) アンドリュ、レイング	二二、三一	二〇七
特許(液體燃燒爐等ノ液體燃料燃燒火口)願拒絶再査定不服事件	第五九六號	龜本 熊三郎 外二名	(請) 龜本 熊三郎 外二名	二二、三三	二〇九
特許(龜本式鑄鐵製後釜)願拒絶再査定不服事件	第五四一號	平岡 善市 外一名	(請) 平岡 善市 外一名	二二、三三	二一一
特許(打刃物製造法)願拒絶再査定不服事件	第三八七號	オット、カール セルベック	(請) オット、カール セルベック	二二、三九	二二二
特許(電氣抵抗爐)願拒絶再査定不服事件	第五五六號	ゲセル、シャフト、フエーリ、シネン、アイスマン、ゲセル、シヤフト	(請) ゲセル、シャフト、フエーリ、シネン、アイスマン、ゲセル、シヤフト	二二、四〇	二二五
特許(水素含有混合瓦斯ヨリ水素瓦斯素ノ改良分離法)願拒絶再査定不服事件	第五五六號		(請)		

審決要旨

抗告審判
番號

件

名

當事者

審決年月日

頁數

第五七四號

第二六六九號

(請) 安保伊右衛門
外一名

二二二五

二七

第三五六號

第二六七〇號
特許(真球素質被着法)
無効事件
(明治四十五年四月十日審決參照)

(請) 長束七郎
(被) 御木本幸吉

二二二五

二八

第三五六號
一、球ト云ハ球ト等
分シタルモハ球ト等
スヘク各種ノ大サノ短
球ト云ハ直徑ノ長短
ニ於テ種々ノ差異アル
切球ト謂フニ義ニシテ
半球ト謂フニ義ニシテ
ノ切球ト謂フニ義ニシテ
ノ義ニアルトス
二、特定ノ目的ヲ以テ球
一、小部ヲ切落シタルモ
ノト半球ヲ作ルル目的
以テ半球ヲ作ルル目的
多ク偏倚ニ因リ生ジチ
タル不正確ナル球トシ
ハ其間大ニ差異アリ
三、核ニ食鹽處理サリ
シテ食鹽ナシキハ
眞球素質ヲ分泌スルコ
ト遲緩ナルヲ以テ眞球
素質ヲ吐出セラルル
ノ介殼外ニ吐キ出スル
介殼内ニ止マリテ眞球
チ被着スルモノニ在リ
テモ其介殼ト爲ルル部
分ノ厚層ト爲ルル部

二、核ヲ食鹽ニ磨クカ
又ハ濃厚食鹽水ニ浸シ
テ之ヲ用フルトキハ眞
球素質ノ分泌ヲ促進シ
爲メニ眞球素質ヲ被着
珠層ノ被着カ核ノ從テ
ニ接スル部分ノ如キコ
ト厚層トナル形ニシタ
ルナキカ故ニ形ニシタ
薄層トナル速ナル爲
珠層ノ被着ノ速ナル爲
メ核ノ介殼外ニ吐キ出
ラメ核ノ介殼外ニ吐キ
結果チ生スルモノトス

特許抗告審決録

第三百九號

福岡縣鞍手郡直方町大字直方九百五十九番地

請求人 宮野福次郎

同 縣鞍手郡直方町大字直方四百四十六番地

同 西原徳太郎

大阪市北區眞砂町二十九番地特許辨理士

右代理人 奥戸善之助

同 市西區江ノ子島東之町二十七番地

被請求人 神藤又吉

同 市東區道修町五丁目一番地特許辨理士

右代理人 近藤貞三

右當事者間ノ第一二七三八號改訂特許(宮西式唧筒)無効審判請求事件ニ付明治四十四年十一月二十五日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人ハ原審決ヲ廢棄ス被請求人ノ請求相立タス審判費用ハ全部被請求人ノ負擔

トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ特許第一二七三八號宮西式唧筒ハ新規ノ發明ニシテ出願前公知公用ノモノニアラス被請求人カ本件特許ヲ無効ト爲サントシテ主張シタル審判請求理由ハ本件特許ハ出願前公知公用ニ屬シタル「ウイニングポンプ」ト同一ナルヲ以テ特許法第四條第一號ニ該當スト云フニ在リ而シテ被請求人ハ立證ノ爲メ甲第一及第二號證ヲ提出シタルモ請求人ニ於テ其成立ヲ否

認スルカ故ニ舉證者ニ於テ先ツ其成立ノ真正ナルコトヲ立證スルニアラサレハ何等ノ證據力ナク又之ヲ真正ナリト假定スルモ單ニ或一二ノ學校又ハ會社ニ備付アレハトテ直チニ公知公用ナリト云フヘカラス特許法第四條第二號ニ所謂帝國内ニ頒布セラレタル刊行物トハ一般公衆カ取得シ又ハ閱覽シ得ヘキ程度ニ置カレタル刊行物ヲ謂フモノナリト云フニ在リテ證人細本久一ノ訊問ヲ申請シタリ

抗告審判被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ムト申立テ其理由ノ要領ハ本件ハ本件特許發明カ出願前公知ナリシトノ一言ヲ以テ斷セラレヘキモノナリ甲第一及第二號證ハ十分此點ニ付立證セリト云フニ在リ

審決ノ理由 本件特許第一二七三八號改訂宮西式唧筒ハ圓筒イノ中眞ニ軸ロヲ架シ軸ロノ上側ニ弁ホ(ヘ)ヲ備ヘタル扇子ハニヲ固着シ圓筒イノ下部兩側ニ弁ホヲ備ヘタルハ形隔板リヲ取付ケ軸ロノ片端ニ槓杆又ヲ取付ケタル構造ニシテ之ヲ甲第一號證「ブジョーリング」著「ボンブエンド、ボンブモータス」第二卷第二百七十三圖及第二百七十四圖ニ記載セル「ウイングボンブ」ニ比較スルニ本件特許唧筒ニ於ケルハ形隔板ト「ウイングボンブ」ニ於ケル一平面隔板トノ相異アルコトノ外兩者ハ全然其構造ヲ同フシ如上隔板ノ相異ハ何等效果ヲ異ニスヘキモノニアラサルコト原審決所說ノ如シ故ニ本件特許唧筒ハ結局甲第一號證ニ記載セル「ウイングボンブ」ト同一構造ノモノタルニ外ナラス又甲第一號證冊子カ西曆千八百九十五年「明治二十八年」ニ英國倫敦ニ於テ刊行セラレ明治三十四年二月二十日大阪高等工業學校ニ受入レラレタルコトハ該冊子ニ於ケル刊行地及刊行年ノ記載竝ニ受入年月日記人ノ印影ニ依リ明カナリ而シテ學校ニ受入レラレタル刊行物カ其學校ノ教職員及生徒ノ公然ノ閱覽ニ供セラレ、コトハ普通ノ狀態ナルカ故ニ甲第一號證冊子ハ大阪高等工業學校ニ於テ其ノ受入ノ當時ヨリ公然教職員及生徒ノ閱覽ニ供セラレ從テ該冊子ニ記載シアル「ウイングボンブ」ノ構造ハ其時ヨリ此等ノ教職員及生徒

ニ公然知ラレタリト認定スルヲ至當トス故ニ本件特許唧筒ノ構造ハ其特許出願ノ日タル明治四十年七月九日以前帝國内ニ於テ公然知ラレタルモノニシテ特許法第四條第一號ニ該當シ其特許ハ同法第一條及第四十九條ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス抗告審判請求人ハ細本久一ヲ證人トシテ證人カ本件特許唧筒ノ特許ヲ出願スルニ至リタル順序特ニ其發明ノ經路如何ヲ訊問センコトヲ申請セリト雖其訊問ノ結果ニ依リ本件特許出願前甲第一號證冊子カ大阪高等工業學校ニ受入レラレ從テ其教職員及生徒ニ公然閱覽セラレタル事實ヲ證人カ知ラサリシコトヲ證明シ得ルコトアルヘキニ止マリ如上ノ事實無キコトヲ證明シ得ヘキ筈ナシ故ニ右證人ノ訊問ハ本件ニ於テ必要ナシ

以上ノ理由ニ基キ主文ノ如ク審決ス

大正二年一月十三日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
 特許局技師 湯淺 藤市郎
 特許局事務官 田中 鐵二郎

第四百七號

愛知縣丹羽郡丹陽村大字重吉

請求人 中島 きん

右親權者

中島 さし

大橋 綱次郎

木戸 傳

三

同 縣中島郡一宮町大字一宮千二百二番戶
 東京市京橋區采女町二十七番地特許辨理士

同 右兩名代理人

東京市京橋區采女町二十七番地特許辨理士
同 市日本橋區上横町二番地特許辨理士
同 市麴町區三番町五十三番地特許辨理士
愛知縣中島郡一宮町字下馬町八百二十番戶
名古屋市西區長島町三丁目十五番地特許辨理士

右兩名代理人 市川 寬
同 村田 任太郎
同 竹内 義一
被請求人 森 淺治郎
右代理人 織 田 了

右當事者間ノ第五二九〇號特許(大根早切機)無效審判請求事件ニ付明治四十五年七月一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ連帶負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ原審ノ證人宇田川幾次郎、秋山鐵五郎及鈴木忠次郎ノ證言ハ決シテ信スヘキモノニアラス彼等證人特ニ宇田川幾次郎カ平野三八ノ依賴ヲ受ケ事實捏造ノ目的ヲ以テ諸處ニ奔走シ本件特許ニ對シテハ彼レモ亦平野三八ト同シク重大ノ利害關係ヲ有スルニモ拘ラス自カラ證人タランコトヲ諾シ本件特許ヲ無效タラシムルノ結果平野三八ノ二丁掛鋸ノ製造ヲ安全ニ營マシメ自己モ心掛ナク其ノ行商ニ從事セント計畫シタル證據充分ナリ又千葉縣下行德地方ニ於テ甲第二號證ノ切干鋸ハ決シテ證人等ノ陳述スル如ク明治三十二年比ヨリ行ハレタルモノニアラス近ク數年前即明治三十八九年比ヨリノコトニ屬シ而カモ本件特許ト同一構造ニ成レル所以ハ明治三十八九年比請求人ノ一人中島さんノ親戚ナル中島松次郎ナル者千葉縣下ニ本件特許ノ大根早切器ヲ賣廣メニ行キタルコトアリテ自然平野三八等ニ其ノ構造ヲ知ラルルニ至リシニ因ルコトト信ス云々ト云ヒ乙第一號證ヲ提出セリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス抗告審判費用ハ請求人等ノ連帶負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ原審證人宇田川幾次郎ハ勿論其ノ他ノ證人ニ於テモ本件特許ニ對シ直接利害關係ヲ有セサルノミナラス平野三八ノ依賴ヲ受ケ事實ヲ捏造シタルコトナキカ故ニ斯カル證據ノアルヘキ筈ナシ又請求人主張ノ如ク明治三十八九年比愛知縣ヨリ二丁掛鋸ノ行商ヲ千葉縣ニ於テ爲シタル事實ノ存在ナク中島さんノ親戚ニ中島松次郎ナル者アルヲ知ラス中島さんノ親戚ニ中島松三郎ナルモノアルモ同人ハ丹陽村長鈴木莊二郎ノ證明書ニ依リ明白ナルカ如ク明治三十八九年比ニ在リテ海兵團ニ入團中ニテ切干鋸ノ行商ヲ爲シ得ヘキニアラス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五二九〇號大根早切器械ハ普通大根細切器ノ櫛齒狀ニ列植セル縱刃ト大根細片ノ通過スヘキ孔口ト横刃トノ組合セテ順次高低ノ差ヲ設ケテ二段以上組合セ各段同一時ニ大根ニ作用スヘク爲シ且ツ左右翼ニ導子ヲ附シタル構造ナルコトハ其ノ明細書及附屬圖面ニ依リ明ナリ被請求人カ原審ニ提出セル甲第二號證ノ二及三ノ切干鋸ハ本件特許ノ器械ト全然其ノ構造ヲ同フスルモノニシテ此切干鋸カ明治三十二年ノ年末以來公然用キラレタル事實ハ原審ノ證人秋山鐵五郎及鈴木忠次郎ノ證言ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得證人齋藤種吉ハ病氣ノ爲メ度忘レヲナシタリト云ヘルヲ以テ其ノ證言ハ信スルニ足ラス證人森井龜吉ハ平野三八及宇田川幾次郎ニ一丁掛鋸ニ付キ證明書ヲ附與シ二丁掛鋸ニ付テハ其ノ存在ヲ傳聞セシニ過キス然モ其傳聞セシ年月ハ確カト覺ヘサルモ二十年位前ノコトナリト云ヒ又證人皆川定吉ハ二丁掛鋸ハ三四年前ヨリ證人ノ地方ニ於テ之ヲ使用シ其ノ以前ニ製作セラレシ事實ハ知ラスト云ヘルニ止マリ二丁掛鋸カ從來公用ニ屬セシコトヲ證人カ知ラサリシコトノ證據ト爲シ得ルニ過キス故ニ證人森井龜吉及皆川定吉ノ證言ハ前示事實ノ認定ヲ覆スニ足ラス要スルニ本件特許

ハ其ノ特許出願前即明治三十四年一月八日前ヨリ帝國內ニ於テ公然用キラレタルコト明ナルヲ以テ特許法第四條第一號ニ該當シ同法第一條及第四十九條ニ依リ其ノ登録ハ無効トナスヘキモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年一月十五日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田 貞一
特許局 技師 増島 文次郎
特許局 事務官 田中 鐵二郎

第四百九號

京都市上京區中立賣通千本東入丹波屋町十三番戶 請求人 安井 菊藏
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右代理人 淺村 三郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 平岩 義一

右第六四七一九號特許願(美術絹絲)拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第六四七一九號特許願美術絹絲ニ對スル明治四十五年六月二十七日附拒絕再査定ハ不服ニ付特許スヘシトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ハ特許第一三八九一號ノ權利ヲ利用セルモノナリ從來下等原料ノ絲ヲ真絲トナシ高等原料ノ絲ヲ捲付クル皮被絲カ本願前ヨリ公知ニ屬スルコトハ請求人モ亦ヨク之ヲ知レリ然レトモ本願ハ皮被絲捲付形狀ヲシテ恰モ特許第一三三八

九一號ノ莫大小網ト同様ニ緻密ニシテ真絲ヲ顯出セサル様而カモ工作ト手數ト皮被絲原料トヲ節減スヘク之レヲ井桁狀ニ捲付スヘク改良シタル點ヲ發明ト主張セリ然ルニ原審援用ノ實用新案第一四三五八號ハ最初二本ノ絲ヲ撚リ合セ其ノ撚合絲ト之レト同一材料ノ絲トヲ撚合シ又其ノ三本撚合絲ト夫等ト同一材料ノ絲トヲ撚リ合セテ成ル考案ニ屬シ本願發明トハ沒交渉ナリ又實用新案第三七四〇號ハ其ノ内容全ク本願ト同一ニシテ其ノ出願ハ明治四十四年二月二十六日其ノ登録ハ同九月十一日ナリ而シテ本出願ハ明治四十三年五月中ニシテ前記實用新案第二一七四〇號ハ後願ナルヲ以テ之ヲ一例證ニ擧ケテ本願ヲ査定セラレタルハ不當ナリ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ請求人ハ本願ハ特許第一三八九一號ヲ利用スト主張スルモ該特許ト本願ハ沒交渉ナリ本願ノ要部ハ下等ノ絲條ヲ心トシ之レニ絹絲又ハ柞蠶絲等ノ高等原絲ヲ井桁狀ニ組ミシ點ニアリ然ルニ下等原料ヲ真トシ高等原料ヲ之レニ捲付ケタル皮被絲カ本願出願前ヨリ公知ニ屬スルコトハ當業者ノ熟知スル所ナリ故ニ問題ハ絲ヲ井桁狀ニ組ムコトカ發明ノ價值アルヤ否ヤニ在リ然ルニ英國特許第一九二六號(千八百七十八年)真絲ノ周圍ニ他ノ二條以上ノ絲ヲ反對ノ方向ニ捲キ付ケシモノナルヲ以テ真絲ニ他ノ絲ヲ井桁狀ニ纏ヒ付クルコトモ新規ノ發明ヲ構成セサルヤ明ナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第六四七一九號特許願美術絹絲ハ適宜ノ絲條若クハ所好織物ヲ造ルニ要スル適度ノ撚リヲ加ヘタル絲條ヲ心絲トナシ之レニ絹絲若クハ柞蠶絲若クハ山繭絲等ノ一種又ハ二種以上ヲ重ネ掛ケテ井桁狀ニ組ミ纏付シテ成ル美術絲ナルコトハ其ノ明細書竝ニ圖面ニ依リ明ナリ而シテ請求人ハ皮被絲ノ捲付形狀ヲ井桁トナシタル點ヲ以テ要旨ナリト主張スルモ審査官援用ノ千八百九十三年出版ノ英國特許摘要中ニ掲記セラル、千八百七十八年英國特許第一九二六號ニハ真絲ノ周圍ニ他ノ二條若ク

ハ二條以上ノ絲ヲ反對ノ方向ニ捲キ付ケタル絲ヲ記載セリ此ノ絲ハ外側ノ捲付絲ノ方向カ反對セル結
果内部原絲ノ表面ニ井桁狀ヲ顯出スルモノト認メ得ヘキヲ以テ其ノ形狀ハ本件特許願ノ絲ノ形狀ト同
一ナルモノト云ハサルヘカラス故ニ本件ノ特許願ハ其ノ出願前帝國内ニ頒布セラレタル前示英國特許
第一九二六號ニ容易ニ應用スルコトヲ得ル程度ニ於テ記載セラル、ヲ以テ特許法第四條第二號ニ該當
シ新規ノ發明ヲ構成セス從テ特許法第一條ニ該當セサルモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年一月二十九日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹 多氣
特許局技師 增島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

第四百二號

獨逸國フオグトランド州アドルフ

東京市麴町區八重洲町二丁目一番地特許辨理士

請求人 エミル、クラフ、フイツ
右代理人 ウォルター、オーガス
タス、デ、ハピラント

右第五〇四四九號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス
申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ特許願第五〇四四九號ニ對スル明治四十五年五月二十一日付

拒絕再査定ハ不當ナリトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ審査官援用ノ英國特許第二四五二七號「千九百六年」
ハ一ノ合成絲ノ製法ヲ記載シ此ノ絲ハ中ニ紙ヲ燃リテ作りタル絲ノ心ヲ有シ此ノ心ノ外部ヲ別ニ燃リ
テ作りタル絲ニテ完全ニ圍繞セリ故ニ該英國特許ノ絲ハ二種ノ分離セル絲ヨリ成リ各絲ハ別種ノ紡績
作業ハ勿論別種ノ絲絡ヲ必要トス故ニ仕上リタル合成絲ニ於テスラモ尙明ニ破斷ニ對シ異ナレル抵抗
力ヲ有スル別々ノ絲ノ二種ヲ示スモノトス之ニ反シテ本願ノ新材料ハ一様ナル品質ノ製品ヲ處理ス既
製紙及纖維ノ「フリース」ヲ親密ニ結合シ依リテ之レヨリ得タル切斷片ハ全體トシテ紡績シ得ヘキナリ
故ニ絲絡モ單一ニシテ紡績作用モ一度ヲ必要トスルノミニシテ經濟上ノ利益大ナリ故ニ此ノ新材料ヨ
リ製セル絲ハ纖維絲ノ性質ヲ有シ引證英國特許ノ合成絲ノ如ク二種ノ絲ヲ有スルモノトハ相異ルモノ
ナリ又請求範圍第二項ヲ削除ス之レ紙ヨリ製出スルニ際シ之レニ強力濕氣ヲ加ヘ切斷スルコトハ千九
百五年英國特許第六九二六號ト一致スル所ナレハナリ云々ト云フニ在リ
審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ再査定書ニ於テ引例説明シタル如
ク本願ハ既知ノ事實ヨリ特殊ノ考慮ヲ要セス易々爲シ得ヘキ普通ノ考案ニ止マリ而カモ其ノ見本ノ證
スル如ク新規ノ特效ヲ呈セス毫モ發明ノ價值ナシ云々ト云フニ在リ
審決ノ理由 本件明治四十二年八月三十一日ノ出願ニ係ル第五〇四四九號特許願紡績用材料ハ木質「バ
ルブ」等ノ資料ヲ以テ紙ノ抄造中紙面ニ木綿「亞麻」等ノ可織性纖維ノ「フリース」ヲ加ヘテ固着セシム
ルカ若クハ仕上リタル紙ニ前記ノ「フリース」ヲ固着セシメ此ノ紙ノ長片ヲ紡績シテ可織性纖維ヲ外部
ニ現出シタル紡績用材料ナルコトハ其ノ明細書ニ依リ明ナリ然ルニ審査官援用ノ千九百六年英國特許
第二四五二七號明細書ニハ亞麻大麻等ノ紡績中ニ紙纖維條若クハ任意ノ幅ノ紙ヲ挿入シ他ノ可織性纖維
ト固着セシメ表面ヲ該纖維ニテ被覆シタル合成絲ヲ記載セルヲ以テ其ノ製品ハ本件特許願ノ材料ト同

一ナルモノト認メ得ヘキナリ而シテ該英國特許ハ明治四十二年四月十七日我特許局圖書館ニ到着セリ故ニ本件特許願ハ其出願前帝國内ニ頒布セラレタル前示英國特許明細書ニ容易ニ應用スルコトヲ得ル程度ニ於テ記載セラル、ヲ以テ特許法第四條第二號ニ該當シ新規ノ發明ヲ構成セス從テ特許法第一條ニ該當セサルモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年一月三十日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹 多氣
特許局技師 增島 文次郎
特許局事務官 田中 鐵二郎

第三百四十一號

東京市下谷區金杉上町九十一番地 請求人 中川 雋 太
同 市下谷區金杉上町九十一番地 同 花澤 勘 四郎
同 市神田區三河町四丁目一番地 同 遠藤 友 治
同 市麴町區有樂町一丁目四番地特許辨理士 右三名代理人 三浦 常 太郎
同 市麻布區本村町百九十番地 被請求人 武藤 喜久一郎
同 市日本橋區村松町四十八番地特許辨理士 右代理人 水野 豐

右當事者間ノ第七六七七八號特許(吹止眞綿製造法)無效審判請求事件ニ付明治四十五年二月十日當局ニ於

テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 原審決ヲ破毀ス

第七六七八號特許ハ無効トス

審判及抗告審判費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ第七六七八號特許ヲ無効トス審判及抗告審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト審決アリタリ其理由ハ現行特許法第八十一條ニヨルトキハ審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得トアリテ抗告期間ヲ六十日ト規定シタルコト疑ナシ然レトモ既ニ期間ヲ定メタル以上ハ其計算法ニ付テモ規定無カル可カラサルニ本法ニ於テハ直接初日ヲ算入セストモ又ハ初日ヲ算入ストモ規定シアラサルヲ以テ其起算點ニ付テハ須ラク各條項ヲ比照シテ立法ノ精神ヲ考究シテ之ヲ定ムヘク之ヲ定ムヘキ根據ナキニ於テ條理又ハ慣習ニヨリ判斷セサルヘカラス原審決書謄本カ請求代理人ニ送達セラレタルハ明治四十五年二月十四日午後九時二十分ニシテ本件請求ノ受付ハ明治四十五年四月十四日午後一時ナルコトハ一件記録ニヨリ明白ナリ然ラハ被請求人主張ノ如ク送達ノ日ヨリ起算スヘキモノナリトスルモ四月十四日午後九時二十分ニ於テ初メテ六十日ニ達スト謂フヘク四月十四日午後一時迄ハ漸ク五十九日ト十五時間四十分ヲ算スルニ過キササルヲ以テ本件申立ハ六十日以内ニ爲シタルモノニシテ斷シテ法定期間ヲ懈怠シタルモノニ非ス現行特許法第三十條ニ『特許權ノ存續期間ハ十五年トス云々其存續期間ハ原特許權發生ノ翌日ヨリ起算ス』ト規定シアルニ徴シ又證據調ニ關シ民事訴訟法ヲ準用シ民事訴訟法所定ノ期間ヲ其儘襲用シ居ル事實ニ顧ミル時ハ本法ニ於テ期間ヲ計算スルニハ初日ヲ算入セサルヲ以テ其精神ト爲シタルモノト看ルヲ相當トス更ニ本案ニ入り申立シ第一、本件特許ニ於テ揮發油及陳米粉

ヲ混合セル粘料ノ使用ハ水及陳米粉ヲ混合セサル粘料ノ使用ト同一ノ效果ヲ奏スルモノト認メラレニ
 段ノ火斗ノ工程ヲ以テ發明ノ要部トセルヤ明カナルヲ以テ揮發油及陳米粉ノ使用ハ前記ノ工程ヲ實施
 スルニ伴フ必要ノ資料ト云フ可ラスシテ何等發明ノ要部ニ影響ヲ及スモノニ非ス故ニ揮發油及陳米粉
 ノ使用ヲ以テ本件特許ノ必要材料トシ特種ノ效果ヲ有スルモノトセル原審決ハ不當ナリ第二、原審ニ
 被請求人提出ノ乙第一號證ト請求人提出ノ甲第二號證トヲ對照スルニ陳米粉ヲ使用スル乙第一號證ノ
 製品ト陳米粉ヲ混セサル甲第二號證ノ製品トハ其品質態樣效果ノ上ニ於テ毫モ差異アルヲ認メス是陳
 米粉カ何等新規ノ效果ヲ奏セサルノ證左ナリ且陳米粉ヲ混合セサル普通使用ノ粘料中ニ存スル「ダマ」
 即チ微細粒ハ之ニ火斗ノ工程ヲ施スニヨリ所謂類節狀ヲ爲シ薄網ヲ張リタル如ク能ク蠶綿ヲ結合ス
 ル效果ヲ奏スルヲ以テ陳米粉ヲ添加スルモ前記ノ微細粒ト其效果ニ差異ナキヲ以テ之ヲ本件特許ノ必
 要資料ト認ムルコト能ハス是抗告審判番號第一二三號ノ審決ニ於テ類似ノ粘料ト説示セラレタル至當
 ノ見解ナリトス第三、原審決ハ火斗ノ二段ノ工程ヲ以テ發明ノ要部トスルコト前記抗告審判ノ審決ト
 其揆ヲ一ニスルモ斯ル工程ハ既ニ本件特許出願前公知公用ニ屬スルハ原審來反覆請求人ノ主張スル所
 ナリ第四、原審決ハ請求人ノ主張スル製造方法ハ揮發油及陳米粉ヲ缺如シ爲メニ此等資料ノ奏ス可キ
 效果ヲ有セサルカ故ニ特種ノ材料ト工程ヨリ成ル本件特許方法トハ別異ナリト説示スルモコハ既ニ第
 一項ニ説明スル如ク揮發油及陳米粉ヲ以テ本件特許ノ必要資料ヲ爲スモノナリトノ誤認ニ基キ同一目
 的ヲ達スル爲メ同一考案ヨリ成ル方法タルヲ看過シ誤斷シタルモノナルコト喋々ヲ要セスト云フニ在
 リテ原審ニ於テ主張セル事實及證據全部ヲ援用セリ
 抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トスト審決アリタク
 其理由ハ本件抗告審判ノ請求ハ期間後ノ申立ニシテ不適法ナリ原審カ明治四十五年二月十四日抗告審

判請求人ニ送達セラレ同年四月十四日付ヲ以テ抗告審判ノ請求ヲ爲シタル事ハ記録上明白ナリ從テ其
 送達ノ日ヨリ起算スルニ抗告審判請求ノ日ハ六十一日ヨリニシテ已ニ期間經過後ノ申立ナリトセサルヲ
 得ス特許法第八十一條ニヨレハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ
 得トアリテ明カニ其六十日ノ起算點ヲ『審決ノ送達ヲ受ケタル日』ト限定セリ其當初ノ日ヲ算入セサル
 旨ノ特例ナキヨリ察スルニ其最初ノ日モ期間ニ算入スルモノナルコトヲ知ルニ足ルモノト云ハサルハ
 カラサルナリ民事又ハ刑事訴訟ニアリテハ期間ノ計算ヲ爲スニ當リ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セ
 サル旨特ニ條文ヲ設ケアルヲ以テ初日ヲ算入スルコト能ハサルヘキモ特許法ニアリテハ之等ノ規定ナ
 キヲ以テ如斯解釋ヲ許サス特許法ハ特許法ノ明文ニ從フテ解釋スヘキモノニシテ他ノ法令ノ規定ヲ以
 テ類推解釋ヲ許サ、ルナリ又實質上ノ答辯ヲ爲サンニ第一、本件抗告審判ノ請求ハ原審請求ノ理由ヲ
 變更シタルモノニシテ不當ナリ抑モ抗告審判ナルモノハ原審ニ請求シタル事實ニ付覆審ヲ求ムルモノ
 ニシテ新ナル請求ヲ許サ、ルモノトス今原審ニ於ケル審判請求書ヲ見ルニ本件特許方法中(A)揮發油ハ
 無益有害ナリ(B)陳米粉ハ何等特種ノ效果ヲ有セス從テ本件特許ハ特許法第四十九條第四項ニ該當スル
 無効ノ特許ナリト云フニアリ然ルニ抗告審ニ至リテ前審ノ主張ニ付テハ一言モ云ハスシテ特許出願前
 公知公用ノ方法ナリトノ理由ニ變更シタルハ抗告審判ノ請求トシテハ適法ナラサルモノナリ第二、假
 ニ本件抗告審判請求ハ適法ナリトスルモ原審決ハ相當ニシテ抗告請求ハ失當ナリ抗告審判請求人主張
 ノ如キ蠶綿上ニ噴霧器ニテ清水ヲ撒布シ火斗ニテ工程シ又噴霧器ニテ粘液ヲ撒布シ乾キタル後再ヒ火
 斗ノ工程ヲ施シテ成ル吹止眞綿製造法カ本件特許出願以前存シタリトノ事實ハ之ヲ認メス假ニ之レア
 リトスルモ一部ノ工程ノ公知公用ナルヲ理由トシテ特種ノ材料ヲ組合ハセテ成ル本件特許ヲ無効トス
 ヘキモノニアラス從テ原審決ハ相當ニシテ抗告審判ノ請求ハ失當ナリト云フニ在リテ原審ニ於テ主張

シタル一切ノ事實及證據ヲ援用セリ
 審決ノ理由 被請求人ハ本件審判請求ハ適法ナル期間ヲ經過シタル後ニ提起セラレタルモノナルヲ以テ之ヲ却下セラレタシトノ本案前ノ抗辯ヲ提出シタルニ依リ先ツ此點ニ就テ案スルニ原審決カ明治四十五年二月十四日ニ請求人ニ送達セラレ請求人ノ本件抗告審判請求書カ同年四月十四日ニ直接ニ特許局ニ差出サレタルコトハ原審記録及當審記録ニ依リ明カニシテ明治四十五年二月十四日ヨリ同年四月十四日マテノ日數ハ初日ヲ算入シテ計算スレハ六十一日トナリ初日ヲ算入セスシテ計算スレハ六十日トナル而シテ特許法第八十一條ニ於テ審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得ル旨ノ規定アルカ故ニ本件審判請求カ適法ノ期間内ニ提起セラレタルモノナルヤ否ヤハ右規定ニ於ケル六十日ノ期間ニハ原審決送達ノ日ヲ算入スヘキモノナルヤ若クハ之ヲ除外スヘキモノナルヤニ依リテ定マルモノトス被請求人ハ民事訴訟法及刑事訴訟法ニ於テ期間ノ計算ニハ初日ヲ算入セサル旨ノ規定アルニ特許法ニ於テ此規定ナク單ニ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ト規定シアルカ故ニ其六十日ノ期間ニハ初日ヲ算入スヘキモノナリト論セリト雖民事訴訟法刑事訴訟法及民法等ニ於テ日ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニハ初日ヲ算入セサル旨規定シアリテ初日ヲ算入セサルコトハ法規上一般ノ慣例ト爲リ居レルヲ以テ特許法制定ニ當リテ初日ヲ算入セサル旨ヲ特ニ法文ニ明記セサリシト雖モ法規上一般ノ慣例ノ趣旨ニ從ヒ期間ノ計算ニハ初日ヲ算入セサル旨ヲ旨ナリシト解釋スルヲ妥當トス從テ本件抗告審判請求ハ適法ナル期間内ニ提起セラレタルモノニシテ被請求人ノ抗辯ハ理由ナシ又被請求人ハ請求人ノ本件請求ハ原審ニ於テハ本件特許カ特許法第四十九條第四項ニ該當スト主張セシニ抗告審ニ於テ本件特許ハ其ノ出願前ヨリ公知公用ナリト主張スルハ審判請求ノ理由ヲ變更シタルモノナリト云フモ請求人ハ原審ニ於テモ當審ニ於ケルト同シク本件特許ノ

方法ハ其出願前ヨリ公知公用ニシテ之レニ其ノ實施ニ必要ナラサル資料ヲ附加使用シタルニ過キスト主張シタルカ故ニ當審ニ至リテ審判請求ノ理由ヲ變更シタルモノニアラス請求人カ特許法第四條第一號ヲ援用スヘキニ原審ニ於テ同法第四十九條第四項ヲ援用セシハ單ニ法律適條ノ援用ヲ誤リタルニ過キス故ニ此ノ點ニ關スル被請求人ノ主張ハ其ノ理由ナシ仍テ本件ヲ審案スルニ本件第七七八號特許ハ其請求範圍ニ依リ明ナルカ如ク展伸セル蠶綿ノ表面ニ揮發油ヲ撒布シ火斗ニテ平熨スル工程ト次ニ澱粉ト水トヲ合煮セル粘料ニ陳米粉ヲ加ヘタル混合液ヲ撒布シ火斗ニテ平熨スル工程トノ結合ヨリ成ルモノナリ然ルニ證人一澤喜一郎カ「ボール」紙ニテ衣形ヲ造リ之レニ絹ノ衣類ヲ着セ其上ニ眞綿ヲ敷キ霧吹ニテ水ヲ撒布シ火斗ニテ平熨スル工程ト次ニ薄キ糊ヲ撒布シ乾カシタル後火斗ニテ平熨スル工程トノ結合ヨリ成ル方法ニ依リ拔出眞綿ヲ明治二十七年ヨリ製造シ同二十八年ヨリ二十九年ニ涉リ販賣シタリトノ證言ハ之ヲ信憑スルニ足ル此ノ方法ト本件特許ノ方法トハ共ニ衣形ニ展伸セル蠶綿上ニ液體ヲ撒布シ火斗ニテ平熨シ更ニ糊料ヲ撒布シ火斗ニテ平熨スル二段ノ工程ヲ實施スル方法ナルコトハ共ニ同一ナリ而シテ本件特許ニ於テ水ノ代リニ揮發油ヲ使用スルト普通ノ糊料中ニ陳米粉ヲ附加スルノ相違アルモ同一目的ヲ達スル爲メ同一考案ヨリ成ル方法中一部ノ資料ヲ變更シ若クハ類似ノ糊料ヲ使用スルノ故ヲ以テ二者其ノ方法ヲ異ニスト認ムヘカラス故ニ本件特許ハ其出願前即明治二十七年三月前帝國内ニ於テ公然知ラレ公然用キラレタル事實明カナルヲ以テ特許法第四條第一號ニ該當シ同法第一條ニ違反スルヲ以テ同第四十九條第一號ニ依リ無効ト爲スヘキモノトス仍テ正文ノ如ク審決ス

大正二年一月三十一日於特許局

審判長 特許局技師 湯淺藤市郎

特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第四百六號

獨逸國ライオン河畔ルウド、ウイヒス、ハーフェン 請求人
東京市麹町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士 右代理人
バーチッシュ、アニリン、ウ
ンド、ソーダ、フアラリック
ウォルター、オーガス
タス、デ、ハビラント

右第四七七二號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 原査定ヲ破毀ス

本件第四七七二號特許願安定ナル無水次亞硫酸曹達製造法ハ特許スヘキモノトス
申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第四七七二號特許願安定ナル無水次亞硫酸鹽ノ製法ニ對ス
ル明治四十五年五月三十日附拒絕再査定ハ不當ナリトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ原査定理由中ニ「各種
ノ含結晶水鹽類ヲ真空中ニ加熱シ該鹽ヲ熔融スルコトナク單ニ其ノ結晶水ノミヲ蒸發セシメテ無水物
ヲ除去セントセハ該鹽ハ常ニ先ツ其ノ結晶水ニ溶解シ遂ニ結晶水カ蒸發セラレタル時再ヒ固體トナル
カ如シ又引照ノ英國特許千九百七年第一〇七七二號ハ「ハイドロサルファイト」ヲ一〇〇度又ハ以上
ニ熱シ水化水カ遊離スル爲メ物質ハ泥狀トナリテ之ニ溶解ス從テ該方法ハ本願ト同シカラス又審査官
引照ノ千九百四年英國特許第二三五五號千九百六年英國化學工業雜誌八四七頁千九百七年同書第一

九〇一頁等ノ記事ハ本願ノ方法ニ關シ何等記載セラレズ本願ノ方法ハ加熱中ニ溶解ヲ生スルコトナキ
新乾燥法ニシテ其ノ製品ハ一種ノ風化作用ニ依リテ生スル如ク他孔性ニシテ碎ケ易キ粉細物ヨリナル
他ノ方法ニ依リテ得タル無水次亞硫酸鹽ハ砂狀結晶ナリ而シテ兩製品ハ共ニ玻璃器中ニテ安定ナルモ
玻璃器ヲ開放スレハ從來ノ製品ハ壘ノ開放後數週又ハ數月ニ涉リ保存シ得ルモ新製品ハ容易ニ酸化シ
空氣ニ對スル安定ノ度ハ比較的小ナリ然レトモ此ノ特質ハ容易ニ除去スルコトヲ得即請求範圍第二項
乃至第四項記載ノ簡單ナル仕方ヲ以テスレハ從來ノ無水物ト同様ナル製品トナスコトヲ得云々ト云フ
ニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ハ原査定ニ於テ引例説明シタ
ル如ク既知ノ事實ヨリ特殊ノ考慮ヲ要セス容易ニ爲シ得ヘク毫モ發明ノ價值ヲ有セス云々ト云フニ在
リ

審決ノ理由 本件第四七七二號特許願無水次亞硫酸曹達「ハイドロサルファイト」製造法ノ主眼トスル
所ハ結晶水カ直接ニ氣化スヘキ温度ニ於テ真空中ニテ結晶水含有ノ次亞硫酸曹達ヲ蒸發乾燥セシムル
モノニシテ次ニ之ヲ安定ナラシムル爲メ乾燥次亞硫酸鹽ニ(一)無水ノ鹽基又ハ鹽基性鹽類ヲ混和シ或ハ
(二)「アルコール」「グリッソリン」「エーテル」「エステル」脂肪屬若クハ芳香屬炭化水素糖蜜炭水化物等ノ
有機物又ハ濃厚ナル「アルカリ」液ヲ添加シ或ハ(三)「アルコール」「エーテル」炭化水素「石油」「ベンジン」
等ト共ニ攪拌シ蒸餾ニ依リ液體ヲ除去シ或ハ(四)「アルコール」其ノ他ノ有機物苛性「アルカリ」又ハ
鹽類ノ溶液ト共ニ處理シ漉過シテ乾燥ス或ハ(五)護謨質澱粉質等ノ資料ヲ添加シ製品中ニ殘留セシムル
方法ナルコトハ其ノ明細書ニ依リ明ナリ之ヲ審査官援用ノ千九百七年英國特許第一〇七七二號ト對比
スルニ後者ハ次亞硫酸鹽ノ含水壓搾塊若クハ泥狀體又ハ溶液ヲ攝氏一〇〇度若クハ其レ以上ニ熱シタ

ル板面ニ毎回少許ツ、投加シ必要ノ場合ニ於テハ減壓ノ下ニ水分ヲ蒸發シ硬キ次亞硫酸鹽ノ薄片ヲ生
スル方法ナルヲ以テ蒸發ノ手段相違スルノミナラス製品ノ性狀モ亦同シカラス故ニ前記英國特許ノ方
法ト本件特許願ノ方法トハ同シカラス本件特許願ノ方法ニ於テ次亞硫酸鹽ヲ眞空中ニ於テ熱シ恰モ風
化作用ニ於ケルカ如ク水分ヲ蒸發シテ水ニ溶解シ易キ多孔質ノ鹽ヲ生スル方法ハ新規ノ發明ヲ構成ス
ルモノト認ムルヲ以テ本件特許願ハ特許法第一條ニ該當スルモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月四日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 田原良純
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第九十號

東京市淺草區駒形町四十三番地

同 東京市橋區山崎町十四番地特許辦理士

同 東京市橋區木挽町十丁目八番地特許辦理士

同 京都市下京區河原町三條下ル二丁目山崎町二百五十一番地

請求人 川口治之丞

右代理人 太田資時

同 乙部俊次

被請求人 合資會社粟辻商店

右代表者 粟辻忠造

東京市京橋區采女町二十七番地特許辦理士

同 東京市橋區采女町二十七番地特許辦理士

同 市神田區淡路町二丁目九番地特許辦理士

右代理人 木戸寬傳

同 市川寬

同 澤田薰

右當事者間ノ第九一〇號特許(精米機)無效抗告審判請求事件ニ付明治四十四年十二月二日當局ニ於テ
爲シタル審決ニ對シ大審院ヨリ破毀差戻アリタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破棄ス第九一〇號精米機ノ特許ハ之ヲ無効トス審
判及抗告審判ノ費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一、本件特許發明ニ於
ケル精米機ノ廻旋羽ハ頭部ニ向ヒ漸次ニ直徑ヲ縮小シ頂點ヲ尖ラシメタルモノニ限ラス頭尾同大ノ直
徑ヲ有スル螺旋ニテモ妨ナク又該廻旋羽ハ之ヲ直立ニ具フルコトヲ要スルモ其誘導裝置ハ之ヲ頂部ニ
附設スルモ又底部ニ附設スルモ該發明ノ精神ヲ變更セサルモノナルニ拘ラス被請求人ハ頭部ニ向ヒ縮
小セル螺旋及其底部ニ誘導裝置ヲ附設セルモノニ限ル如クニ主張セルハ特許權利ヲ擴大セルモノニシ
テ事實ト相違セル誣妄ノモノナリ而シテ原審ニ於テ該主張ヲ認メタルハ誤判ノ甚シキモノナリ第二、
本件精米機ノ主要ナル點ハ白ト廻旋羽トノ組合ニ在リト被請求人ハ主張スルモ本件ノ白ト同様ナル構
造ヲ有スル白ト公知ナルコトハ甲號各證ノ立證スル所ニシテ且其各證ニ記載スル所ノ效用モ本件特許
明細書ニ記載スル所ノモノト同一ニシテ殆ント區別ナシ又白ト中心ニ螺旋狀ノ廻旋羽ヲ具フルコトモ
又甲號各證ニ於テ見ル所ナリ而シテ本件特許ニ於ケル螺旋狀ノ廻旋羽ハ被請求人主張ノ如ク漸次頂部
ニ向ヒ其ノ徑ヲ縮小シ頂點ヲ尖ラシメタルモノニ限ラス今假リニ一步ヲ讓リ本件特許ノ螺旋狀ノ廻旋

羽ハ其明細書ニ依ラスシテ被請求人主張ノ如クナリトスルモ已ニ甲第二號證甲第三號證ノ三、四ニ於ケル螺旋等ノ構造ト效用トヲ知悉スル當業者ハ漸次頭部ニ向ヒ其徑ヲ縮小シテ頂點ヲ尖ラシメタル螺錐狀ノ廻旋羽ヲ推考スルコト最モ容易ナリ況ンヤ甲第五號證及第六號證等ニ於ケル螺錐狀ノ廻旋機ノ已ニ公知ニ屬スルニ於テヤ然ラハ已ニ公知ノ白ト上記ノ廻旋羽ヲ組合スモ何等新規ノ發明ヲ爲スモノニアラス唯甲第二號證及甲第三號證ノ三、四ニ對シ少シク設計ヲ加ヘタルニ過キヌ加之螺錐ヲ用ルモ首尾同大ノ螺旋ヲ用ルモ精米ノ效果ニ於テ何等得ル所ナキモノナリ故ニ本件特許ハ特許法第四條第一號及第二號ニ該當シ同法第一條ニ依リ特許ヲ受クルヲ得サルモノニシテ其特許ハ無効トスヘキモノナリト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タストノ審決ヲ求ム其理由ハ第一、原審ニ於テ被請求人カ主張スル所ハ決シテ特許權利ヲ擴大シ又ハ事實ヲ曲ケタルモノニアラス本件特許明細書中何レモ廻旋羽ニ關スル記事ニハ常ニ螺錐狀ナル形容詞ヲ冠シ添付ノ圖面トヲ對照セハ本件ノ廻旋羽ハ下部ヨリ漸次頭部ニ向ヒ縮小セル直徑ヲ有スル螺旋即チ螺錐ナルコト一モ疑ノ點ナシ錐トハ必ス尖端ノ尖レルモノ意味スル文字ニシテ原審ニ於テ被請求人ノ主張ハ決シテ特許ノ請求範圍ヲ擴大シ又事實ニ沿ハサル誣妄ノ抗辯ニアラス又之ヲ承認セル原審決ハ決シテ不當ノモノニアラス第二、本件特許精米機ニ於ケル廻旋羽ハ甲號各證ニ使用セル首尾同大ナルモノ又ハ推進器ノ翼ノ螺旋等トハ全ク異ナルノミナラス該螺錐ト明細書記載ノ白トノ結合ハ精米機トシテ特殊ノ效果ヲ奏スルコト明白ナルヲ以テ此結合的構造ヲ新規ト認ムル原審決ハ不當ノモノニアラスト信ス尙甲第五號證一、二、三及甲第六號證ノ螺旋器ハ何レモ煉瓦、瓦等ノ製造ニ供用セラル、土捏機若クハ其部分ニ過キヌシテ玄米ノ精白ヲ主眼トスル本件特許精米機トハ何等ノ交渉ヲ有セスシテ探ルニ足ラス而シテ本件特許ノ精米機ハ

單ニ廻旋機ノ作用ニ依リ穀粒ヲ臼内ニ循環セシムルコトノミヲ以テ新規トナセルニアラスシテ其循環ノ狀態ニ特殊ノ便益ヲ與ヘ以テ精米ノ效果ヲ促進スル如ク構造セルヲ要旨トナスモノナルカ故ニ甲號各證ヨリ容易ニ推考シ得ヘキモノニアラス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件係爭ノ特許第九一二〇號精米機ハ該明細書中請求範圍ニ記載セル如ク臼ノ内部滑澤ニシテ其底部ヲ凸形ニ爲シ全體ハ截頭卵圓形ト爲セル臼ノ中心ニ於テ螺錐狀ノ廻旋羽ヲ直立ニ具ヘ該廻旋羽ハ調節器トニ依リテ上下適度ニ定着ス可ク爲シ之ヲ適宜ノ原働裝置ニヨリテ運轉ス可クナシタル精米機トアリ而シテ其明細書中ノ説明ト添付ノ圖面トヲ對照スルニ區ナル廻旋羽ハ直立セル螺錐ナルコト明ニシテ螺錐トハ頭部ニ至ルニ從ヒ直徑ノ縮小シタル螺旋ナルコトハ學術上一般ニ認ムル所ナルヲ以テ該明細書中ニ記述セルモノハ首尾同大ノ直徑ヲ有スル螺旋ヲ用ルニ非ラスシテ前段説明ノ螺錐ナルニヨリ請求人ノ抗辯ノ第一點中ニ於テ本件第九一二〇號特許ハ前記ノ如キ特殊ノ形狀ヲ有スル廻旋羽ニアラスシテ首尾同大ナルモノヲ用ルモ妨ケナク云々ト述ヘタルハ其當ヲ得ス而シテ一般ニ精米ノ方法ニ於テ等シク白米ヲ得ルニモ或方法ニ據ルモノハ搗減リ多ク又ハ熱ノ發生スルコト多キ爲メ其風味ヲ害スル等ノ事實アリテ單ニ白米ヲ製シ得ルノ點ノミヲ以テ精米方法ノ可否ヲ定ムヘカラス精米ニハ或時間米粒ニ急激ナル運動及壓迫ヲ與ヘ而シテ或時ノ間ハ之等ヲ緩ニシ即チ緩急交々加フルヲ最良ノ方法トス之レ米粒ニ間斷ナク壓迫ヲ與ヘ又緩急ナキ速度ヲ以テ臼中ニ米粒ヲ循環セシムルトキハ熱ノ發生又ハ搗減リ等多ク爲メニ風味ヲ害スルモノナルヲ以テ精白ニ必要ナル或壓力及循環ニ要スル速度ヲ米粒ニ一旦加フルノ後ハ或時間其程度ヲ緩ニシ又ハ之ヲ休メ以テ前記ノ障害ヲ避クルヲ可トス即チ在來行ハレタル杵ノ墜落ニ依リ行フ精米法ニ於テハ杵ノ頭ト臼臍トノ間ニ於テ其落下ノ瞬間ニ急激ナル壓力及運動ヲ米粒ニ與フルヲ以テ互ノ壓迫ニヨリテ適度ニ精白トナリ杵ノ上昇ノ間ニハ此

行動ハ斷絶シテ單ニ上部ヨリ米粒ノ落下スルノミニシテ即チ緩急交々至ルカ故ニ米粒ニ間斷ナク一様ナル速度及壓力ヲ加フル精米機械ニ比シ優良ナル白米ヲ得ヘシ而シテ臼ノ内部ニ頭部ニ向ヒ縮小シ底部ニ向ヒ増大ナル表面積ヲ有スル螺旋羽即チ螺旋狀ノ廻旋羽ヲ有スルモノニ於テハ臼中米粒ノ循環速度ハ頂部ニ於テ緩ニシテ底部ニ進ムニ從ヒ急速トナリ米粒ニ加ハル壓力モ亦其速度ニ準ス之ニ反シテ首尾同大ノ螺旋羽ヲ以テセハ螺旋面積ハ首尾共ニ同大ナルカ故ニ螺旋ノ直徑ト等シキ直徑ヲ有スル圓筒容積内ニ於テノ米粒ハ同一速度ヲ以テ下降シ速度及壓力ニ於テ緩急大小アルコトナシ故ニ本件特許ノ如キ螺旋ヲ使用スルモノハ首尾同徑ノ螺旋ヲ以テスルモノヨリモ精米ニ對シテ效果アルモノニシテ請求人ノ立證セル甲第二號證ト均等ナルモノニアラス又之ヨリ容易ニ推考シ得ヘキモノニ非ス而シテ精米機ニ於テ本件ノ如キ螺旋ヲ臼内ニ廻轉セシムル構造ハ臼内ノ米ノ循環其速度及壓力ヲ最モ適當ニ爲シ得ルモノニシテ本件特許發明ノ要旨ハ實ニ此ノ點ニ存シ臼ノ形狀竝ニ誘導裝置及調節器ハ位置ノ如キハ此ノ要旨ヲ補足完成セル附隨ノ考案ニ過キス又請求人ハ其立證ニ係ル甲第三號證ノ二ニ記載セル精穀機ノ螺旋杆ノ下部少シク増大シタルモノ云々ヨリ容易ニ本件特許ヲ案出シ得ルモノナリト云フモ該精穀機ニ於テハ元來穀皮ヲ摺リ剝クノ目的ナルヲ以テ臼底ノ内部ニハ花形ノ凹所ヲ造リ螺旋羽ハ扁平ナル金屬板ヲ捻テ造リ其臼底ニ面スル緣ニ鋸齒ヲ刻ミ臼底ノ凹凸ト相俟テ穀皮ヲ摺リ剝ク考案ノモノニシテ螺旋羽ノ部分ハ穀粒ヲ臼ノ上部ヨリ下部ニ送ルノ用ニ供セラルト雖モ該式ノ螺旋羽ハ穀粒ヲ壓迫スルノ用ヲ爲サ、ルモノナリ故ニ單ニ螺旋ノ外形カ本件特許ノ螺旋ニ稍類似スルモ其作用及效果ヲ異ニシ且本件發明ハ之ヨリ容易ニ推考シ得ヘキモノニ非ス請求人ハ又甲第二號證ノ三及四ヨリモ本件特許發明ヲ容易ニ推考シ得ル如ク稱フレトモ何レモ米粒間ノ壓迫及速度ニ緩急アラシムル如クニ考案シタルモノニアラス特ニ甲第三號ノ四ノ如キハ錐狀ヲ爲セル篩ヲ首尾同大ノ螺旋ノ頂上ニ有ス、

ルモノニシテ本件係爭ノ螺旋ト全ク異レルモノナリ而シテ臼ノ中央ニ首尾同大ノ螺旋ヲ有スルモノト螺旋ヲ有スルモノトノ差異ハ前者ニアリテハ米粒ヲ頂部ヨリノミ誘入シテ同一速度ヲ以テ下降セシムレトモ後者ニアリテハ螺旋面全部ヨリ誘入シテ底部ニ至ルニ從ヒ大ナル速度ニテ米粒ヲ下降セシムルチ米粒ノ速度ニ緩急ヲ生スルモノトス而シテ請求人ノ立證セル各精米機ニ於テハ精米法ニ必要トスル米粒ニ加フル壓力ノ増減及循環速度ノ緩急ヲ考察シテ成レルモノナシ然シテ本件係爭ノ精米機ニ於テ其臼内ニ於ケル米粒間ノ壓力ノ増減及循環速度ノ緩急ニ關スル構造及效果ハ請求人ノ前記立證ニ係ルモノヨリ容易ニ案出シ得ヘキ程度ノモノニアラス土捏機ニ於テハ請求人立證ノ如ク螺旋ヲ使用シテ土砂ヲ混和スルノ考案ニ成レルモノ已ニ公知ニ屬スト雖モ該機ノ目的ハ土砂ノ各粒ノ間ニ研磨ヲ生セシムルニ必要ナル壓力ヲ斷續的ニ與フルノ要ナク單ニ容器内ニ於テ均等ナル土砂ノ混交ヲ期スルノミニシテ從テ底部ニ臼臍ニ類似ノモノヲ有セス土捏機ノ容器ノ内部ノ行動ト精米機ノ臼内ニ於ケル行動トハ全ク異ルモノニシテ土捏機ノ螺旋ヨリ之ヲ精米機ニ應用セントスルニハ精米ニ關スル諸要點ヲ攻究シタル上ニ非サレハ精米上從來ノ缺乏ヲ充スヘキ效果ヲ得ルコト能ハス故ニ本件精米機ハ前記ノ土捏機ヨリ容易ニ應用シ得ヘキモノト認ムヘカラス之ヲ要スルニ米粒ヲ循環シテ臼ノ周圍ヨリ昇騰セシムルコトハ螺旋ヲ使用スルニ限リ爲シ遂ケ得ヘキ效果ニアラサレトモ廻旋羽ノ全部ヨリ米粒ヲ誘入降下セシムルコトハ螺旋ノ場合ニ限リ爲シ得ヘキ働ニシテ其カ爲ニ臼内ニ前記ノ如キ精米ニ有用ナル米粒ノ運動ヲ誘起スルヲ以テ本件係爭ノ精米機ハ精米上新規ナル效果ヲ奏スルモノト認メ得ヘク請求人ノ提出ニ係ル甲第二號證乃至第六號證カ本件出願前已ニ公知ニ屬スル事實アルモノニヨリ容易ニ推考シ得ヘキモノニ非ス要之本件特許發明ハ特殊ノ效果ヲ生スルモノニシテ其特許出願前截頭卵圓形ノ臼カ精米機ニ於テ本件特許發明ト均等構造ノ螺旋羽カ精米機以外ニ於テ公知ナリトスルモノ本件發明ハ新規

タルヲ失ハス又本件特許發明ハ之ヨリ容易ニ推考シ得ヘキモノニアラス其他本件特許出願前本件特許
精米機ト均等ノモノ又ハ容易ニ推考シ得ヘキモノノ公知公用又ハ刊行物ニ記載セラレタリト爲ス請求人
ノ主張ハ之ヲ認ムルコトヲ得ス從テ本件特許第九一〇號ノ登録ヲ無効ト爲スノ理由トスルニ足ラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月十二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局事務官 宿利英治
特許局技師 增島文次郎

第九十二號

東京市淺草區駒形町四十三番地 請求人 川口治之丞
同 東京市京橋區山崎町十四番地特許辨理士 右代理人 太田資時
同 東京市京橋區木挽町十丁目八番地特許辨理士 同 乙部俊次
京都市下京區河原町三條下ル二丁目山崎町二百五十一番地 被請求人 合資會社粟辻商店
東京市京橋區采女町二十七番地特許辨理士 右代表者 粟辻忠造
同 東京市京橋區采女町二十七番地特許辨理士 同 右代理人 木戸忠傳
同 市川寬

同 市神田區淡路町二丁目九番地特許辨理士 澤田 薫

右當事者間ノ第九一〇號特許(精米機)權利確認抗告審判請求事件ニ付明治四十四年十二月二日當局ニ
於テ爲シタル審決ニ對シ大審院ヨリ破毀差戻アリタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス
抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス
申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀ス抗告審判被請求人ノ申立相立タス審判及抗告
審判ノ費用ハ抗告審判被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ抗告審判請求人ハ登録第九六八
號實用新案ノ精米機ノ製造販賣ヲ爲シ來リタルモノニシテ該精米機ヲ甲第一號證精米機ト比較スルニ
單ニ傳動機構及附隨ノ機構ニ於テ設計上ノ差アルニ過キスシテ抗告審判被請求人ノ所有スル特許第九
一〇號精米機トハ全然構造ヲ異ニスルコト明カニシテ該特許權利ニ對シ毫モ撞着ヲ來スコトナシ然
ルニ原審決ニ於テ甲第一號證ノ精米機ト實用新案第九六八號トノ關係ヲ明示セス又何等適法ナル理
由ヲ説明セザリシハ不當ナリ又一步ヲ讓リ甲第一號證ノ精米機ハ第九六八號ノ實用新案精米機ト其
構造ヲ異ニスルモノト假定スルモ全然特許第九一〇號ノ精米機ト撞着スルモノニアラス何トナレハ
第九一〇號ノ精米機ノ廻旋羽ハ單ニ螺錐狀タルコトヲ要スルニ止マリ原審決ノ云フカ如ク漸次頭部
ニ向ヒ其徑ヲ縮少シテ頂點ヲ尖ラシメタル構造ニ付テハ特許ノ保護ヲ請求シタル記事アルコトナシ又
廻旋羽ノ裝置方法ハ臼ノ中心ニ直立ニ設ク可キモ其頂點ヲ上向ニシテ白底ニ裝置スルコトハ該特許ニ
ヨリ法律ノ保護ヲ要求スル所ニアラス從テ請求範圍ニ記載ナキ機構ハ特許權利ノ撞着不撞着ヲ審判ス
可キ證據トナルヘキモノニアラス由テ頭部ニ向ヒ縮少セル徑ヲ有スル螺旋羽ハ該特許ノ請求範圍ニ屬
セサルヲ以テ何人カ之ヲ造ルモ該特許發明ト撞着ヲ來ス可キ道理アルコトナシ又被請求人ハ該特許明

細書中ニ螺錐ノ文字ヲ使用セルニヨリ漸次頭部ニ向ヒ徑ヲ縮少シ頂點ヲ尖ラシメタルモノナルコトハ自ラ知り得ヘシト云フヤ知ル可カラスト雖モ螺錐トハ其頂點ノ尖リタルモノニ限定シタルモノニアラス而シテ廻旋羽ヲ白ノ中心ニ直立ニ具ヘ適宜ノ運轉裝置ニヨリ運轉スルモノナルコト該明細書ノ明記スル所ナルヲ以テ廻旋羽ノ頂部又ハ底部ニ誘導裝置ヲ設クルモ妨ケナク特ニ之ヲ底部ヨリスルコトノ特殊裝置ニ付テハ何等之ヲ説明スルニ足ルヘキ記事アルコトナシ然ルニ請求人ノ製造販賣スル精米機ヲ本件特許權利ノ範圍ニ屬スルモノナリト云フハ不當ナリト云フニ在リテ甲各號證ハ何レモ之ヲ爭フ旨申立タリ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其理由ハ甲第一號證精米機ト實用新案第九六八號トノ異同ヲ辨スレハ實用新案第九六八號ニ於テ運轉裝置ハ調帶ニ依ルヲ以テ廻旋羽軸ニ「カム」裝置ヲ設ケ調車ト共ニ上下運動ヲ爲サシメ得ルト雖モ甲第一號證ノ精米機ニ於テハ廻轉裝置ハ「ベゼル」齒車ニ依ルヲ以テ上記ノ如キ「カム」裝置ニヨリテ軸ヲ上下スルコトハ機構上爲シ得ヘカラサル性質ノモノナルニヨリ兩者ノ區別ハ自ラ判明ス可キモノナリ第二本件特許明細書ノ何レノ部分ニ於テモ廻旋羽ノ構造ニ關シテハ常ニ螺錐狀ナル形容詞ヲ附シ添付圖面ヲ援用シテ之ヲ明瞭ナラシメ又軸ハ白底ニ穿テル孔ヲ貫通シテ曰下へ突出セシメタルコトヲ説明シ添付圖面ト相俟テ當然原審決所記ノ構造ヲ本件特許發明ノ要部トセルコト明ナリ而テ請求人ノ製造販賣セル甲第一號證精米機ハ白ト螺錐狀廻旋羽ト該羽ヲ支フル心軸トノ組合ニ關シ本件特許ト全然同一ノ構造ヲ具フルカ故ニ其權利範圍ニ屬スルコト極メテ明瞭ナリト云フニ在リ

審決ノ理由

抗告審判請求人ハ抗告審判被請求人ノ提出ニ係ル甲號各證ヲ爭フ旨ヲ申立ツルト雖モ被請

求人ノ提出ニ係ル甲第一號證精米機カ抗告審判請求人ノ製造販賣ニ係ルコトハ前各審ニ於テ抗告審判請求人ノ已ニ認ムル處ニシテ請求人ノ異議ハ何等正當ノ事實及理由ニ基カサルモノナルヲ以テ甲第一號證ハ抗告審判請求人ノ製造販賣ニ係ルモノト認ム依テ甲第一號證精米機ハ特許第九一〇號精米機ノ權利範圍ニ屬スルヤ否ヤヲ審案スルニ特許第九一〇號精米機ノ請求範圍トスル「内部極メテ滑澤ニシテ底部ヲ凸形ニ爲シ全體ハ截頭卵圓形トナセル白ノ中心ニ螺錐狀ノ廻旋羽ヲ直立ニ具ヘ該廻旋羽ハ調節器ニヨリテ上下適度ニ定着ス可ク爲シ適宜ノ原動裝置ニヨリテ運轉ス可ク爲セル構造」ト甲第一號證ノ精米機トハ其ノ要部即チ白内ニ螺錐ヲ廻旋羽トシテ用キルコト及其他ノ構造ニ於テ全ク相一致シ唯甲第一號證精米機ニ於テハ廻旋羽ノ軸ヲ上下ス可ク該軸ニ固定セル鏢ノ上ニ小隆起ヲ具ヘ實用新案第九六八號ノ「カム」裝置ニヨリ爲ス行動ヲ爲サシムル如ク設備シアリト雖モ「ベゼル」齒車裝置ニヨリ螺錐ヲ運轉スヘキ甲第一號證精米機ニ於テハ如斯小隆起ニヨリ軸ヲ上下スルノ必要ヲ認メサルノミナラス齒車裝置ノ機構上却テ有害ノ設備ニ過キスシテ該設備ハ全ク附隨ノモノナリ而シテ甲第一號證精米機ト實用新案第九六八號精米機トハ精米上必要ナル條件即チ白中ノ米粒ニ斷續的ニ循環速度ヲ與ヘ及壓迫ヲ與フルコトヲ各相異レル考案ニ基キ設計シタルモノト認ムルヲ得ヘシ即チ甲第一號證ノ如ク白ノ中心ニ螺錐ヲ以テセルモノニ於テハ其全表面ヨリ螺錐軸ノ中心ニ向ヒ米粒ヲ誘入降下シテ底部ニ至ルニ從ヒ大ナル速度及壓迫ヲ米粒ニ與ヘ以テ緩急アラシムルニ對シ首尾同大ノ螺錐旋羽ヲ以テセル實用新案第九六八號ニ於テハ該廻旋羽ヲ上下ニ動サ、ルトキハ螺錐ニ由リ降下スル米粒ハ終始同一速度ヲ以テスレトモ之ニ上下動ヲ與フルトキハ米粒ニ不同ノ運動ヲ與ヘ又該廻旋羽ノ下ルトキニハ米粒ヲ白底ニ壓迫シ以テ速度ニ緩急アラシメ及ヒ壓力ヲ斷續的ニ與フルモノニシテ二者全ク異レル考案ニ基キ設計セルモノナリ故ニ甲第一號證精米機ハ特許第九一〇號精米機ノ要部タル白内ニ

螺錐ヲ廻旋羽トシテ用ル構造ヲ有シ前記實用新案ト同一考案ニ基キ成レルモノニアラス從テ實用新案第九六八號ノ權利ヲ實施スルモノニアラスシテ特許第九一二〇號ノ權利範圍ニ屬ス可キモノトス仍テ更ニ特許法第二十八條第四項ノ適用ニ付審理スルノ必要ナシ又請求人ハ特許第九一二〇號ニハ心ス頭部ニ於テ徑ヲ縮小シタル螺錐ヲ用キルニ限ラスト云フト雖モ螺錐トハ頭部ニ向ヒ漸次ニ徑ヲ縮少シタル螺錐ノ謂ニシテ之ヲ添付ノ圖面及明細書中ノ記事ニ徴シテ明白ナルヲ以テ請求人ノ申立ハ不當ナリトス而シテ甲第一號證ノ上下運動ノ用ニ供スル爲メ設ケタル小隆起ノ有無ノ如キハ附隨ノ設計ニシテ之ヲ有スルヲ以テ甲第一號精米機ハ前記特許ノ權利範圍外ナリト云フヲ得ス其他當事者間ニ論辯スル所アルモ本件審決ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ省略ス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月十二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠 三 郎
 特許局 事務官 宿 利 英 治
 特許局 技師 增 島 文 次 郎

第二百八十七號

獨逸國ニユルンベルヒ市ウイエルバトネル街五番地	請 求 人	クリストッフ、ウイ ト
同 國ニユルンベルヒ市シュルツ、バツヘル街四十二番地	同	クリストッフ、ベック
同 國ニユルンベルヒ市シュルツ、バツヘル街四十二番地	同	ハインリッヒ、クナウ ス

東京市京橋區加賀町八番地特許辦理士

右複代理人 村 山 崎 太 郎

右第五七五六號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第五七五六號特許願數多ノ機械ヲ運轉セシムル電氣的裝置ニ對スル明治四十四年十月十八日附拒絕再査定ハ不服ニ付特許スヘシトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ハ同一出願人ニ係ル明治四十二年七月二十三日出願第四九九一三號特許願ト全然同一ニシテ再審査拒絕査定ノ理由タル米國特許第九三〇五八八號ノ公知ニ屬スル以前ノ出願ナリ又該米國特許ハ本出願人カ米國ニ出願シ登錄ヲ得タルモノニシテ本願ト同一人カ同一發明ニ付特許ヲ得タルモノナリ本願ハ本出願人ニテ發明シタルコトハ否定セラレサル事實ニシテ假令特許法第四條第二項ニ該當スル所アルモ發明ノ内容カ特許スヘキ價值アルモノトセハ本出願ヲ特許セララルモ何等ノ弊害アルコトナシ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ請求人カ主張スル明治四十二年七月二十三日付出願第四九九一三號特許願ハ明治四十三年一月二十七日拒絕確定シタルモノナリ故ニ同一發明ナレハトテ其ノ出願權ハ本願ニ及フヘキ理由ナシ本願ハ明治四十三年十一月八日ノ出願ニシテ原査定ノ如ク出願前米國特許明細書ニ依リ公知ニ屬シタルモノナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五七五六號特許願數多ノ機械ヲ運轉セシムル電氣的裝置ハ千九百九年米國特許第九三〇五八八號ノ發明ト同一ナルコトハ請求人ノ主張スル所ナリ而シテ本件特許願ハ明治四十三年十一月八日ノ出願ナルモ前示米國特許明細書ハ明治四十二年十二月二十四日日本局圖書館ニ受入シタルヲ以テ本件特許願ハ其ノ出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セララルニ依リ特許法第四條第二

號ニ該當シ新規ノ發明ヲ構成セス從テ特許法第一條ニ該當セサルモノトス請求人ハ本件ハ曩ニ第四九
九一三號ヲ以テ特許ヲ出願シタリト云フモ該出願ハ明治四十三年一月十五日拒絕確定シタルモノニシ
テ本件トハ別事件ナルヲ以テ假令其ノ出願日カ前示米國特許明細書カ帝國内ニ頒布セラレタル時ヨリ
以前ナリトスルモ本件審決ニ關係ナキモノナリ
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月十三日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 五十嵐 秀助
特許局 技師 增島 文次郎
特許局 事務官 田中 鐵二郎

第三百九十四號

英吉利國ランカスター郡ボルトン、アケレス、フィールド一番

請 求 人

ジョーン、エヴァンス
ゼームス

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辦理士

右 代 理 人

ウォルター、オーガス
タス、デ、ハピラント

右第六一二八〇號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 原査定ヲ破毀ス

第六一二八〇號特許願浸水體保護電氣裝置ハ特許スヘキモノトス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第六一二八〇號特許願浸水體防護電氣裝置ニ對スル明治四十

五年五月六日附拒絕再査定ハ不服ニ付不當ナリトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ引照ノ英國特許千九百三年
第三三八八號ハ本願ト類似スルコトナシ該特許ハ塗料モ全クナク又錆又ハ海藻等ノ附着スルコトモナ
キ浸水部ニ水素ト苛性曹達トノ分子層ヲ形成シ以テ斯ル下部ノ塗料ニ代用スルヲ企圖トス又直流ノ低
電壓ヲ使用シ其ノ強サハ〇、〇〇六乃至〇、〇二五「アンペア」ノ少量ナリト云ヘリ之レニ反シテ本願
ハ高壓電流ヲ水中ニ放電シ斯クシテ作りタル電場内ノ生物ヲ殺滅セント企圖シ電流ハ殆ント一萬「ボ
ルト」ノ高壓交流ナリ然レトモ電流ハ船體側ニ直角ナル放電點ヨリ出ツ本願ノ高壓交流ハ水中ニ出テ
テ後船側ヨリ著大ナル距離ニマテ及ヒ幾分カ「マルコニー」式ノ無線電氣裝置ヨリノ放電ニ類似スルコ
ト竝ニ電壓カ高キ程電流カ電氣遮板ノ形ニテ船體ニ歸ル迄ニ水中ヲ通セル電氣的「ストリームライン」
形トナリテ通過スル距離モ亦大ナルコトヲ確認セリ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ノ裝置カ公知ノ裝置ト異ナレ
ル點ハ其ノ使用電流ヲ交番トシ且ツ殆ント一萬「ボルト」位ノ高壓ニナシタル點ニアリ然レトモ同一目
的ニ應用スルニ直流ヲ交流ニ變ヘ低壓ヲ高壓ニ改メタル如キ程度ニ於テハ發明ヲ構成スルモノト認ム
ルコト能ハス原査定ニ引用ノ英國特許第三三八八號「千九百二年」ハ本願ト同一作用ヲナスヘク矢張電
流ハ「ストリープライン」形ニテ海水中ヲ通シ其處ニ居ル小動物ヲ死滅セシムヘク其ノ差異ハ程度アル
ノミ前記特許ニ於テ水素瓦斯ト苛性曹達トノ分子層ヲ金屬表面ニ附着セシメ以テ防腐劑トシテ「ペン
キ」ノ代用トナスコトヲ主目的トナスモ亦上記ノ作用ヲナスコト明ナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第六一二八〇號特許願浸水體保護電氣裝置ハ浸水體中ニ挿入セラレタル絶緣栓ヲ貫キ
周圍ノ水ニ交流高壓電流ヲ放電スル爲メ栓ノ後方ニ於テ誘導線輪ト接続シタル電極ヲ有シ該誘導線輪
ハ低壓電流ヲ高壓電流ニ變壓シ電極ヨリ放電セラレタル交流高壓電流ハ浸水體ヨリ再ヒ線輪ニ歸ル電

路ヲ作ル浸水體保護ノ電氣裝置ナルコトハ其ノ明細書及添付圖面ニ依リ明ナリ然ルニ審査官援用ノ千九百三年英國特許第三三八八號ハ船體ニ直流電流ヲ通スル陽電極ヲ設ケ船體ヲ陰極トシテ電路ヲ作り低電壓ニ於テ海水ヲ電解シ船體浸水面ノ金屬板ニ塗料ノ代リニ水素ト苛性曹達トノ層ヲ作成シ以テ海草等ノ附着ヲ防止スル裝置ニシテ之ヲ本件ノ裝置ト對比スルニ後者ハ海水ノ電解ヲ目的トスルモノニアラスシテ浸水部ニ設ケタル電極ヨリノ放電作用ニ依リ有機物ヲ感電死滅セシメ以テ其ノ附着ヲ防止スルモノニシテ此ノ目的ヲ達スル爲メ該電極ハ低電壓電流ヲ高壓ニ變スル誘導線輪ト連結セララルナリ故ニ二者其ノ構造ヲ異ニシ作用同シカラサルヲ以テ之ヲ同一若クハ類似ノ裝置ト認ムヘカラス要スルニ本件特許願ハ新規ノ發明ヲ構成スルモノト認ムルニ依リ特許法第一條ニ該當スルモノトス仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月二十八日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 五十嵐 秀 助
 特許局 技師 增島 文 次 郎
 特許局事務官 田中 鐵 二 郎

第四百十五號

獨逸國マイン河畔ホッホスト

請 求 人

東京市豊町區八重洲町一丁目一番地特許辦理士

右 代 理 人

フアルプウエルケ、フオル
 ム、マイステル、ルシアス、
 ウンドブルニンケ
 ウオルター、オーガスタス
 テ、ハピラント

右第六二九八六號特許願拒絶再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
 主文 原査定ヲ破毀ス

第六二九八六號特許願硝酸製造法ハ特許スヘキモノトス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第六二九八六號特許願硝酸製造法ニ對スル拒絶再査定ハ不服ニ付不當ナリトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ハ原査定ノ云フカ如ク果シテ既知ノ事實ヨリ容易ニ推考シ得ヘキ考案ナルヤ争點ハ此ノ點ニ在リ換言スレハ引照記事ト本願トノ形式上ノ差異ノ程度如何ト云フニ歸着ス單ニ化學反應上ヨリ論スルトキハ硝酸製造法ニ於テ過酸化窒素酸素及水ヲ混スルトキノ反應ハ公知ニ屬スルモ之カ公知ニ屬スレハトテ斯ル同一反應ノ範圍内ニ於テ濃硝酸ヲ工業的ニ製造シ得ルモノト然ラサルモノトハ是レ二箇ノ別事實ナリ引照記事ノ方法ハ工業的ニ採用セラレサル而シテ將來ト雖採用セラル、コトナキ大ナル建設費ト大ナル作業費ト小ナル効率トニ依リテ到底利益ヲ見得ヘカラス加之作用上ノ危険ハ職工ヲシテ就業ヲ好マサシムルナリ之ニ反シテ本願ニ要スル裝置ハ費用少ニシテ何人ト雖大小任意ノ程度ニテ之ヲ實施シ得且危険ヲ伴フカ如キ大ナル壓力ヲ要セス其ノ工業上ニ及ホス進歩ハ大ナリ普通法ニテ得タル稀硝酸ヲ利用スルノ結果ハ實施能力ヲ附與スル點ニテ斯ク有效ナリ公知ノ事實ヨリ容易ニ推考シ得ニハ何ソノ從來好シテ濃硝酸ヲ得ル能ハサルノ理アラシヤ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ハ原査定書ニ説明シタルカ如ク既知ノ事實ヨリ特考ヲ要セス易々爲シ得ヘキ普通ノ考案ニ止マリ特殊ノ效果ヲ奏セス發明ヲ構成セス云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第六二九八六號特許願硝酸製造法ハ普通ノ方法ニ依リ得タル稀硝酸ヲ過酸化窒素ニテ

豐富ニシ此ノ混合物ヲ酸素ニテ處理シ以テ濃硝酸ヲ製スル方法ナルコトハ其ノ明細書ニ依リ明ナリ審
査官援用ノ千九百十年發刊ノ英國化學工業雜誌第一三七七頁ノ記載ニ在テハ過酸化窒素水及酸素間ニ
於ケル反應ハ壓力ノ下ニ於テ惹起スルモノニシテ然カモ壓力ハ該反應ヲ促進スルニ必要ナルモノトス
壓力ヲ加フルト否トハ操作上大ナル差異アルヘキカ故ニ此點ヨリ見ルモ本件ハ新規ノ方法ナリト認メ
サルヲ得ス要スルニ本件特許願ノ方法ハ審査官援用ノ雜誌ニ記載セル所ノモノトハ全ク異ナル所アル
ヲ以テ新規ノ發明ヲ構成スルモノト認メ得ヘシ從テ特許法第一條ニ該當スルモノトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年二月二十八日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第二百九十號

東京市小石川區江戸川町十三番地 請求人 青木銀左衛門
同 市本郷區湯島切通坂町二十七番地特許代理人 鎌田芳太郎
同 市神田區仲町一丁目十六番地 被請求人 千澤平三郎
右當事者間ノ第一〇一〇九號特許(墨汁)權利確認審判請求事件ニ付明治四十四年十月六日當局ニ於テ爲
シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人ハ原審決ヲ取消ス被請求人ノ製造販賣スル開明墨汁及墨ノ元ト稱スル墨汁ハ第一〇
一〇九號特許權ノ範圍ニ屬ス當審及原審ノ費用ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ムト申立テ其理由
ノ要領ハ特許ハ資料其モノニ附與スルニアラスシテ資料ノ結合混和等ヨリ成ル或特定ノ效果ヲ生ス
ルモノニ附與スルモノナリ被請求人ノ製造販賣スル開明墨汁及墨ノ元ノ資料ハ特許第一〇一〇九號眞
墨「インキ」ノ資料ト通同物ニシテ其混和ヨリ成ル效果竝ニ使用ノ目的ニ於テ同一ナリ單ニ資料ノ部分
ニ於テ名稱ヲ異ニスルノ故ヲ以テ其效果モ亦別異ナリト云フハ不當ナリ開明墨及墨ノ元ハ油煙、膠、礬
酸、片腦油、「グリセリン」、「苦土、鹽化「マグネシウム」」、「アルコール」、「ヴァセリン」及水ノ十資料ヨリ成
リ之ヲ本件特許眞墨「インキ」ト比較スルニ前者ニ於テハ膠ヲ用ヒ膠ハ腐敗シ易ク且惡臭ノ發生夥シキ
カ故ニ礬酸ヲ用ヒテ其腐敗ヲ防キ片腦油ヲ用ヒテ其惡臭ヲ防キ以テ後者ニ於ケル「アラビアゴム」ノ代
用ヲ爲サシム前者ニ於ケル苦土、鹽化「マグネシウム」及「アルコール」ハ後者ニ於ケル鹽化鐵丁幾ト同
一ノ作用ヲ爲ス苦土及鹽化「マグネシウム」ハ油煙ヲ用紙ニ滲透固着セシメ且吸濕及防腐ノ用ヲ爲シ
「アルコール」ハ鹽化鐵丁幾ノ丁幾ト同一ノ作用ヲ爲ス又「ヴァセリン」ハ唯油煙ヲ取扱フニ當リ手指ニ
塗リテ油煙ノ手指ニ固着スルヲ防クノ用ニ供スルノミ前者ニ於ケル水ハ後者ニ於ケル蒸溜水ト同一ナ
リ故ニ被請求人ノ製造販賣スル開明墨汁及墨ノ元ハ第一〇一〇九號特許權ノ範圍ニ屬ス加之審判第一
六四四號事件ニ於テ第一〇一〇九號特許權ノ範圍ニ屬スト審決セラレタル墨汁ト本件被請求人ノ墨汁
トハ通同物ヨリ成ルモノナルカ故ニ本件ニ於テモ亦同様ノ審決ヲ受クヘキモノナリト云フニ在リ
被請求人ハ請求人ノ申立相立タスト審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ被請求人ノ製造品ハ第一六

四三三號特許ノ製造品ニシテ請求人ノ權利ニ撞着セス鹽化鐵丁幾ハ滲透固着ヲ良クスル爲メノモノナルニ鹽化「マグネシウム」ハ吸濕ノ用ヲ爲シ「硼酸」ハ防腐ノ外「ニヂミ」ヲ少カラシムルモノナリ膠ハ固着ノ效用ノ外美ニシテ艶アル墨色ヲ呈セシメ「アラビアゴム」ハ固着ノ效アルモ此墨色ヲ呈セシムル效用ナシ又請求人ハ鹽化鐵丁幾ハ本件特許眞墨「インキ」ノ主要成分ニアラスト主張セリト雖鹽化鐵丁幾ヲ除ケハ殘餘ノ四種ノ資料ノ混和ハ普通ノ繪ノ具ト同一ニシテ其ノ水ノ量ヲ多クシタルニ止マルモノトナリ「インキ」トシテモ普通ナリ四種ノ資料ニ鹽化鐵丁幾ヲ加ヘタルコトカ本件特許發明ヲ構成セルナリト云フニ在リ

審決ノ理由 本件所争ノ要點ハ油煙、膠、硼酸、片腦油、「グリセリン」、「苦土、鹽化「マグネシウム」、「アルコール」、「ヴァセリン」及水ヲ混和シテ成レル墨汁即チ被請求人カ製造シ開明墨汁若ハ墨ノ元ナル名稱ヲ附シテ販賣スル墨汁カ第一〇一〇九號特許權ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤニ在リ仍テ案スルニ該特許眞墨「インキ」ハ油煙、「アラビアゴム」、鹽化鐵丁幾、「グリセリン」及蒸溜水ヲ混和シテ成リ從來普通ニ墨汁ノ資料トシテ知ラレタル油煙、「アラビアゴム」、「グリセリン」及水ニ鹽化鐵丁幾ヲ加ヘタルコトヲ其發明ト爲スモノナリ即チ本件特許ハ鹽化鐵丁幾ヲ加ヘタルコトニヨリテ「インキ」ヲシテ紙ニ滲透固着セシムル效果ヲ呈スヘク爲シタルモノヲ新規ノ發明トシ之ニ對シテ附與セラレタルモノナリ然ルニ被請求人ノ製造販賣スル開明墨汁及墨ト元ト稱スル墨汁ハ其資料中ニ鹽化鐵丁幾又ハ之ト均等ナルモノヲ有セサルカ故ニ本件特許「インキ」ニ於ケル前示ノ效果ヲ有セス從テ其資料及效果ヲ異ニスル別種ノモノナルヲ以テ本件特許權ノ範圍ニ屬セサルモノトス請求人ハ被請求人ノ製造販賣ニ係ル開明墨及墨ノ元ニ於ケル苦土、鹽化「マグネシウム」及「アルコール」ハ本件特許「インキ」ニ於ケル鹽化鐵丁幾ト同一ノ作用ヲ爲スモノナリト主張セリト雖苦土、鹽化「マグネシウム」及「アルコール」ハ夫々吸濕ノ用ヲ爲

シ他ノ資料ノ溶解ヲ容易ナラシメ兼テ其沈澱ヲ防止スルノ效果ヲ奏スルモ墨汁ヲ紙ニ滲透固着セシムル特效ヲ有セス故ニ此點ニ於ケル請求人ノ主張ハ理由ナシ又請求人ハ審判第一六四四號本件ノ審決ヲ援テ論スル所アリト雖該審決ハ本件審判ニ於テ特許局ヲ羈束シ得ヘキモノニアラス其他當事者間ニ論争スル所アレトモ本件審決ニ必要ナキヲ以テ之ニ對シテハ説明ヲ爲サス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月十四日於特許局

審判長 特許局技師藥學博士 池口慶三
特許局技師 梅野兵太郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第二百五十五號

奈良縣南葛城郡御所町大字御所百七十八番邸 請求人 奥野治平
大阪市東區備後町二丁目三十六番地特許辨理士 右代理人 堤他彦
同 市東區瓦町四丁目六十一番地 被請求人 武田竹三郎
同 市東區瓦町一丁目五番地特許辨理士 右代理人 廣井代藏
右當事者間ノ第一六四八七號特許(起毛織物製造法)無効審判請求事件ニ付明治四十五年三月十一日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ
主文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ破毀ス第一六四八七號特許ヲ無効トス審判費用ハ被請求人ノ負擔トスト
 ノ審決ヲ求ムト申立テ其理由ノ要領ハ請求人ノ原審ニ提出シタル甲第一號證綿「ネル」地ノ工程ハ經絲
 ニ多量ノ煮糊ト半熟糊トノ混和糊即チ煮糊中ニ糊原料ヲ水ニ溶解シテ混シタルモノヲ施シ綾地ニ織成
 シタルモノヲ起毛シ後蒸氣ノ充滿セル箱内ヲ通過セシメテ熱「ロール」ニテ壓展シ仕上ヲ爲スモノニシ
 テ之ヲ本件特許ノ方法ニ比較スルニ全然同一ニシテ只其糊ヲ擴散且固結セシムル程度ニ於テ混スヘキ
 糊原料ノ多寡ニ依リ聊差異アリト雖其ハ二者目的物ヲ異ニセル必然ノ結果ニシテ如斯ハ發明自體ノ工
 程ヲ論スル上ニ於テハ枝葉ノ問題タリ又原審ニ於テ援用シタル工業大辭書及染織時報ハ本件特許權發
 生後ノ刊行物ニ係レリト雖其ノ記事ニ依レハ本件特許ノ方法カ創造的技術ヲ要セスシテ案出シ得ラル
 ヘキモノナルコトヲ證スルニ足ル又七八年前ヨリ根來百助及岡本久之助等ニ於テハ模造英「ネル」甲
 第二號證「ヲ」製造シ其物品ハ織成スヘキ經緯絲ニ多量ノ施糊「煮糊」ニ糊原料ヲ混シタルモノ「ヲ」爲シ織
 成後起毛シテ給濕蒸熱ノ工程ヲ經テ製出シタルモノナリ之ヲ本件特許ト比較スルニ二者ノ工程全然同
 一ナリ要スルニ本件特許ノ方法ハ出願前ヨリ公知ニ屬スル方法ト同一ナリ被請求人ハ糊ニ糊原料ヲ混
 シタルモノヲ施糊スルコトハ從來ノ製織ニ關シテハ其必要ナシト論スレトモ艷付ニ際シ布ヲ蒸熱シ糊
 ヲ復活セシメ以テ布地ニ力ヲ持タシムヘキ目的ニ對シ必要アリタルモノナリ又被請求人ハ甲第一號證
 及二號證カ地質強韌ナラス經緯絲カ容易ニ崩解スルコト及起毛サレタル毛モ亦容易ニ脱落スルコト等
 ノ點ヲ舉示シテ本件特許ト同一工程ニアラサルコトヲ主張スレトモ如斯ハ施糊量ノ差異ノ結果ニシテ
 之ヲ以テ二者工程ノ差異ト做スヘカラス發明ノ價值アリヤ否ヤヲ斷定スルニハ發明ノ各部ノ部分的ニ
 觀察シ其綜合ニ特別ノ技能ヲ要シタルヤ否ヤヲ決定セサルヘカラスト云フニ在リテ甲第一號證及甲第

二號證ヲ提出シ工業大辭書、染織時報及審判第二三三三號事件ノ證人岡本久之助訊問調書ヲ援用シ證
 人北島七兵衛、竹中直吉、岡本久之助及安原岩楠ノ訊問ヲ申請セリ

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要
 領ハ杉織「甲第一號證綿「ネル」」ナルモノハ特種ノ綾地ニ織成シタル綿「ネル」ニシテ地質柔軟洗濯ニ堪
 ヘ比較的堅牢ナルヲ以テ主トシテ襯衣又「ジボン」下地トシテ使用セラル、モノニシテ本織布ニ量目ヲ
 増ス爲ニハ過度ニ施糊シ光澤ヲ出ス爲ニハ熱「ロール」ニ掛クルコトアルモ糊ニ糊原料ヲ混和シタルモ
 ノヲ以テ施糊シ且蒸熱手段ヲ施スカ如キコトハ其必要ナシ試ニ本號證「甲第一號證」ヲ點檢スルニ地質
 強韌ナラス經緯絲カ容易ニ解クルルコト及起毛サレタル毛モ亦容易ニ脱スルコトニ依リテ見ルモ本件
 特許ト同一工程ニ依リテ出來シタルモノニアラス甲第二號證模造英「ネル」ニ付テモ亦同様ナリ本件特
 許ハ織物素地ヲ織成セル經緯絲ニ水分ト熱トノ作用ニ作リ軟化スヘキ性質ヲ有スル特種ノ糊ヲ滲着ス
 ルコト織布面ニ起毛ヲ施シ起毛後給濕及蒸熱手段ヲ施シテ糊ヲ軟化シ地質及毛根部ニ此糊ヲ擴散固結
 セシムルコトノ諸工程ノ結合ヲ以テ發明トスルモノニシテ各部分ヲ分離シテ論究スヘキモノニアラス
 審判第二三三三號事件ノ證人岡本久之助ノ供述セル工程ニテハ織布ニ普通ニ使用セラル、澱粉糊ノ糊
 原料カ糊ニ生成セラル、モノニアラス本件特許ハ糊ヲ復活セシムルニアラスシテ糊原料ヲ糊ニ生成セ
 シムルニ在リ又其蒸熱工程ハ織布ニ力ヲ持タシムヘキ目的ノミニアラスシテ糊ヲ絲質中ヨリ分泌擴充
 セシメ毛根部ヲ固結セシメ毛ヲ脱落セサラシムルモノナリ甲第一號證杉織ニ於ケル蒸熱工程ハ糊原料
 ヲ糊ニ生成セシムル爲メニアラスシテ織布ノ皺襞ヲ除キ布地ヲ柔軟ナラシムル普通ノ湯熨斗カ目的ナ
 リト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第一六四八七號特許ノ方法ハ第一ニ糊原料ニ煮糊ヲ加ヘタル混和糊ヲ綿布ノ經絲及緯

絲ニ滲着セシムルコト〔其滲着ハ綿布製織前ニ於テスルモ其製織後ニ於テスルモ可ナリ又經絲及緯絲ノ一部分ニ滲着セサルコトアルモ可ナリ〕第二ニ其綿布ニ起毛スルコト及第三ニ經緯絲ニ滲着シタル糊原料ヲ糊化セシムル程度ニ於テ綿布ニ水氣ヲ與ヘ且之ヲ水蒸氣中ニ通スコトノ三工程ノ結合ヲ以テ成レル起毛綿布製造法ナリ而シテ其目的トスル所ハ如上ノ工程ニ依リテ糊化シタル糊ニ依リテ綿布ヲ糊結シ其地質ヲシテ強韌堅實ナラシメ起毛根ヲ右糊ニテ包被シ之ヲ綿布地ニ緊着セシメ且起毛ノ脱落ヲ防止スルニ在リ今此方法カ請求人ノ主張セル如ク特許出願ノ日タル明治四十二年四月二十一日前ヨリ公然知ラレ公然用ヒラレタル方法ト同一ナルヤ否ヤ又ハ之ヨリ容易ニ推考シ得ラルヘキモノナルヤ否ヤヲ案スルニ請求人ノ援用ニ係ル審判第二三五三號事件記録中ノ證人岡本久之助ノ訊問調書ニ依レハ同證人ハ半熟糊〔即チ糊原料ト煮糊トヲ混シタルモノ〕ヲ滲着シタル經絲ト普通ノ煮糊ヲ滲着シタル緯絲トヲ以テ綿布ヲ製織シ起毛シタル上艶付ノ爲メ水氣ヲ與ヘ水蒸氣ヲ充タセル熱箱内ヲ通シ「ロー」ニ掛クル起毛織物製造法カ本件特許出願前ヨリ公知公用ニ屬シタルコトハ之ヲ認ムルヲ得然レトモ緯絲ニ半熟糊ヲ施スコトニ付テハ同證人ニ於テ何等供述スル所ナシ元來起毛ハ主トシテ緯絲ニ於テ爲スモノナルカ故ニ經絲ニ半熟糊ヲ施ストモ本件特許方法ニ於テ緯絲ニ半熟糊ヲ施シタルカ如キ效果ヲ奏セス半熟糊ヲ經絲ニ施スハ畢竟目付及整經ノ爲メニ外ナラス又煮糊ハ之ヲ緯絲ニ施ストモ半熟糊ヲ緯絲ニ施シタルカ如キ效果ヲ生スルモノニアラス故ニ右公知公用ノ起毛織物製造法ニ於テ經絲半熟糊ヲ施シ緯絲ニ煮糊ヲ施セルト本件特許ノ方法ニ於テ經緯絲ニ半熟糊ヲ施セルトハ其效果ヲ異ニス故ニ本件特許ノ方法ハ右公知公用ノ方法ト異リ且之ヨリ當業者ノ容易ニ推考シ得ヘキモノニアラス又同證人ハ右公知公用ノ製造法ニ於テ綿布ニ水氣ヲ與ヘ水蒸氣ヲ充タセル熱箱内ヲ通シ「ロー」ニ掛クル工程ハ艶付ノ爲メノ外尙綿布ノ糊ヲ復活セシムル爲メニ之ヲ施行シタルモノナリト供述セルモ此證

言ハ信スルヲ得ス從テ煮糊ヲ復活セシムヘキ程度ニ於テ該工程ヲ施行シタルモノトハ認ムルヲ得又甲第一及第二號證ハ其自體ニ依リテハ半熟糊ヲ施シタルモノナルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキノミナラス證人竹中直吉ハ從來緯絲ニ煮糊ト生糊即チ糊原料ヲ混シタルモノヲ滲着シタル様ニ思ヒマスト供述シ其證言不明確ニシテ信ヲ措キ難ク證人北島七兵衛ノ證言ニ依リテハ經緯絲ニ糊ヲ滲着シタルコトヲ認ムルヲ得ルニ止マリ半熟糊ヲ使用シタルコトヲ認ムルヲ得ス請求人ノ援用スル工業大辭書及染織時報ハ本件特許出願後ノ刊行ニ係ルモノニシテ請求人ノ主張ヲ證スルニ足ラス從テ請求人ノ主張ハ理由ナキニ歸ス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年三月二十日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹多氣
 特許局技師 增島文次郎
 特許局事務官 田中鐵二郎

第三百七十二號

群馬縣山田郡桐生町字新宿二十六番地
 東京市日本橋區駿河町七番地三越吳服店內

請求人 木村偉三郎
 右代理人 中上善之進

右第五七九〇八號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
 主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第五七九〇八號特許願燃諸絲ニ對スル明治四十五年四月三十日附ノ拒絶再査定ハ不服ニ付特許スヘシトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ハ左及右反對ノ強度ニ加燃シタル片燃絲ヲ互ニ纏捲セシメ燃諸絲ヲ製造シタルモノニシテ之ヲ經絲中ニ連續織込メハ左ノ片燃絲ト右ノ片燃絲トヲ同時ニ織込ムコトトナリ其ノ各燃ノ反戻相反スルヲ以テ互ニ纏縮ヲ起生セスシテ平坦ナル新規ノ織物ヲ得ルモノニシテ且燃諸合トナルヲ以テ取扱容易ナルハ勿論縮玉ヲ生スル恐レナカラシムル等有益ナル特徴ヲ有スルモノナリ左及右片燃絲ヲ互ニ纏捲シ燃諸絲ヲ作ルカ如キハ全ク新規ノ發明ナリ又登録實用新案第三〇三二號及第一八八八〇號ハ各自燃絲ハ別カレ單ニ同杼口中ニ併列スルモノニシテ從テ各燃絲ハ反戻シ恰モ右燃絲ト左燃絲トヲ各一越ツツ各杼口ニ織込ミタルモノト同一ナル結果ヲ得ルモノニシテ第三〇三二號實用新案ノ如キハ經絲大ニシテ稠密シタル場合ニ於テ緯絲ノ細キ燃絲ヲ使用スル結果多少平坦ナル外觀ヲ得ヘシト雖緯絲ハ各纏縮セルヤ明ナリ又第一八八八〇號實用新案ニ於テモ細キ纏面ヲ有スルモノニシテ本願ノ燃諸絲ニテ織上ケタルモノトハ異種ノモノナリ又登録實用新案第四八二四號ハ本願ト對比シ考究スレハ直ニ相異スルコト明ナルヲ以テ別段辯駁スルノ價值ナキモノナリ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ノ左燃絲ト右燃絲トヲ同時ニ織込ミ燃ノ反戻相反シ著シキ縮ミヲ生セサルハ勿論ナルモ斯ノ如キハ左燃絲ト右燃絲ヲ二本合シテ同杼口ニ織込ミタルモノト同一結果ヲ生スルモノニシテ本願出願前實用新案公報ニ記載セラレタル登録實用新案第三〇三二號及同第一八八八〇號ノ如キ其ノ例ナリ是レ本願ヲ以テ新規ノ發明ト見ルヘカラサル理由ノ一ナリ又一方ノ絲ニ燃ヲ掛ケ他方ノ絲ノ燃リヲ戻スハ一種ノ諸燃絲トモ稱スヘキモノニシテ此ノ點ニ就テ論スルトキハ本願ハ其ノ出願前實用新案公報ニ記載セラレタル登録實用新案第四八二

四號ノ考案ト同一ナリスノ如ク本願ハ公知ノ事實ヲ湊合シタル單純ナル設計ニシテ何等發明的考案ヲ要セサルモノナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第五七九〇八號特許願燃諸絲ハ濃キ糊付ヲナシ強度ニ右及ヒ左方向ニ加燃シタル後更ニ右燃絲ニ左燃絲ヲ左ニ纏捲シ及左燃絲ニ右燃絲ヲ右ニ纏捲シテ成ル燃諸絲ナリ審査官援用ノ登録實用新案第三〇三二號ハ經絲ニ右燃絲數條ト左燃絲數條トヲ合シタル緯絲ニテ織成精練シタル織物ナリ同第一八八八〇號ハ左燃強燃絲ト右燃強燃絲トヲ各一越ツツ交互ニ交織シタル織物ナリ又同第四八二四號ハ壁絲ニ壁下燃トハ反對ノ強燃絲ヲ添ヘ此ノ添絲ノ燃ト同方ニ適宜加燃シタル緯絲ト普通ノ經絲トニシテ織成シタル織物ニシテ三者共ニ本件特許願ノ燃諸絲ヲ以テ織成シタル織物トハ其ノ構造相違スルコトハ之ヲ認メ得ヘキナリ然レトモ本件特許願ノ如キ構造ノ絲ハ發明的考案ヲ要セスシテ當業者ノ容易ニ考案シ得ルモノナルヲ以テ本件特許願ハ何等發明ヲ構成セサルモノト認ム從テ特許法第一條ニ該當セサルモノトス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月二日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 大竹多氣
 特許局技師 增島文次郎
 特許局事務官 田中鐵二郎

第三百二號

名古屋市古郷町百七番戸
 東京市京橋區鑪屋町十番地特許辨理士
 同 市京橋區木挽町十丁目八番地
 佐賀市大字牛島町二十六番地

請 求 人 原田儀左衛門
 右 代 理 人 内村達次郎
 同 乙 部 俊次
 被 請 求 人 鶴澤榮吉
 右 代 理 人 三上七十郎

右當事者間ノ第二七二五號改訂特許(麵類製造機)無效審判請求事件ニ付明治四十四年十一月二十九日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主 文 請求人ノ申立相立タス

抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 請求人ハ原審決ヲ破毀シ第二七二五號改訂特許請求範圍第一項ヲ無効トス審判費用ハ原審及抗告審共被請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ本件請求ノ目的タル改訂特許第二七二五號麵類製造機特許請求範圍第一項ニ於テハ原特許請求範圍第一項ニ於ケル隔板ヘヲ組合セヨリ除去シタルモノニシテ請求人ノ原審ニ於テ引證シタル甲號證ト構造上彼此均等ナリト云フニ在

被請求人ハ請求人ノ申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決アリタシト申立テ其理由ノ要領ハ甲第二號證以下ノ各證ハ孰レモ不完全ニシテ本件特許機械ノ公知タルコトヲ立證スルニ足ラズ本件特許ノ改訂ノ適法ナルコトハ既ニ第一四二五號審判(第二七二五號特許權利確認事件)ニ於テ確

定シ又甲第二、三兩號證カ本件特許ノ公知タルコトヲ立證スルニ足ラサルコトハ第四四五號審判(第二七四一號特許權利確認事件)ニ於テ當該請求人ヨリ甲第二、三兩號證ト同一物ナル「アメリカン、メカニカル、デクシヨナリー」ヲ引證シテ本件特許ノ無効タルコトヲ主張シタリシカ其主張ハ排斥セラレタリシヲ以テ明カナリ又甲第四號證ハ本件特許出願以後ニ出願シタル發明ナルヲ以テ本件特許ノ公知ニ屬スル證據ト爲スヲ得ス右ノ外原審ノ答辯書再答辯書及追申書等ヲ援用スト云フニ在リ

審決ノ理由

審判第一二一五號事件ニ於テ該事件ノ請求人カ援用シタル千八百八十一年ノ英國特許第四

五三九號及帝國特許第四四八號ノ機構ト本件甲第二及三號證ニ示セル機構トハ全然相異セルヲ以テ彼此同一證據ナリト云フコトヲ得ス又審判第四四五號事件ハ第二七四一號特許權利範圍確認ヲ求メタルモノナルヲ以テ第二七二五號特許ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムル本件審判ハ之ト同一事件ナリト云フヲ得ス故ニ特許法第八十七條ニ依リ本件審判請求ヲ却下センコトヲ求ムル被請求人ノ抗辯ハ當ヲ得ス仍テ本案ニ付テ審理スルニ第二七二五號改訂特許(明治三十七年十月十五日再改訂許可)請求範圍第一項ハ麵帶ヲ剪斷シテ麵線ト爲スト同時ニ之ヲ兩方ヘ分離シテ再ヒ附着スル憂ナカラシムル目的ヲ以テ麵類製造機中圓軸ニ數多ノ周溝ヲ列穿シテ凸凹(ハ)ニヲ形成シ彼此ノ凸凹ヲ齧合スヘク並架セル剪斷機(口)ト板ノ一端ヲ弧狀ニ爲シテ每凹所ニ内ニ嵌合スル抓除器(ホ)トノ組合ナルコト明細書及圖面ニ依リ明カナリ而シテ甲第二號證ニ示ス所ノ金屬剪斷機及甲第三號證ニ示ス所ノ護謨剪斷機ハ孰レモ本件改訂特許請求範圍第一項ニ於ケル剪斷機(口)ト同一ノ構造ヲ有スルモノナルコトハ各其圖面及記事ニ依リテ明カナリト雖モ本件改訂特許請求範圍第一項ニ於ケル抓除器(ホ)ト同一若クハ均等ナル機構ニ關シテハ何等記載スル所ナシ請求人ノ主張ハ甲第三號證ニ於テ(ハ)ナル符號ヲ付シタル部分ハ即チ右抓除器(ホ)ト均等ノモノナリト云フニ在リト雖モ其部分ハ圖面及記事ニ依ルモ如何ナル構造ヲ有シ如何ナル作用

ヲ爲スモノナルヤ明確ナラス又請求人ノ主張ハ本件改訂特許請求範圍第一項ハ甲第二號證及甲第三號證ニ示ス圖面及記事ヨリシテ當業者ノ容易ニ推考シ得ヘキモノナリト云フニ在リト雖モ本件特許ハ明治二十八年一月二十六日ノ出願ニ係リ同二十九年五月五日特許ヲ受ケ其後二回ノ改訂許可ヲ經タルモノニシテ其特許出願ノ當時ニ於ケル工業界ノ狀態ニ照セハ剪斷機(口口)トヲ排除器(本)トヲ結合シタル麵線製造機ハ甲第二號證及甲第三號證ニ示ス圖面及記事ヨリシテ當事者ノ容易ニ推考シ得ヘキモノニアラスト認ム故ニ甲第二號證及甲第三號證ニ示ス圖面及記事ヲ有スル刊行物カ本件特許出願ノ日タル明治二十八年一月二十六日以前ニ帝國内ニ頒布セラレ且其内容カ公然知ラレタル事實アリトスルモ以テ本件改訂特許請求範圍第一項ヲ無効トスル理由ト爲スニ足ラス又請求人ハ排除器ハ甲第四號證ニ記載セル特許第二六九七號麵類製造機ノ明細書及圖面ニ依リ公知ト爲リタルモノナリト主張セリト雖モ第二六九七號特許ハ明治二十八年十一月十六日ノ出願ニシテ本件特許ハ前示ノ如ク同年一月二十六日ノ出願ニ係ルモノナルヲ以テ此點ニ於ケル請求人ノ主張モ亦不當ナリ要スルニ請求人カ本件改訂特許請求範圍第一項ヲ無効ト爲サンコトヲ求ムル爲メニ主張スル所ハ一モ理由ナシ

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月五日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 阪田貞一
 特許局技師 塚本信治
 特許局事務官 田中鐵二郎

第四百八號

京都市上京區下立賣通堀川橋詰西二丁目十八番地安達倉一方

請求人 薰田權次郎

右第六二八七六號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十五年七月四日付願書番號第六二八七六號車體積載量

輕減運搬器特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許スヘシトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ハ本器ヲ車體ニ備付クルモ實用上何等ノ效果ナキハ學理ニ照シテ明ナリト云フト雖モ本器ヲ車體ノ眞棒(車輪ヲ嵌入スル内部)ニ取付ケハ弧狀空洞管ハ車體下部ノ前方ニ突出シ其内ニ挿入スル弧狀軸ハ他ノ鐵板ト共ニ車體ニ積載スル一切ノ重量ヲ支持スル裝置ニシテ弧狀空洞管ハ該管中ニ挿入セル弧狀軸トハ絶緣セルヲ以テ車體ニ積載セル荷物ノ重量ハ挽引スルト同時ニ其壓力ハ悉ク弧狀中樞ノ軸ニ集中シ所謂後押ヲナスト等シキ效力ヲ起スヲ以テ實用上積載重量ヲ輕減セシムルノ效果アルコト明ニシテ屢實地試驗ヲ行ヒ挽引力ヲ輕減シ得タルノ事實アルニ關セス單ニ學術上不可能ナリトシテ拒絕サレタルハ不服ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ抗告審判請求人申立相立タスト審決相成度其理由ハ本願ハ車體ノ下部ニ取付ケタル弧狀軸ヲ車軸ニ取付ケタル弧狀管ニ嵌入シ重量ヲ該弧狀軸ニヨリ支ヘシメ以テ積載重量ヲ輕減セシメントスルモノナリト雖モ斯ノ如キハ無益ノ設計ニシテ何等ノ效果ナキコトハ學理上明ナリ故ニ本願ハ其目的ヲ達セサルモノニシテ發明ニアラス故ニ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕再査定ヲナシタルハ至當ナリト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル第六二八七六號特許願車體積載量輕減運搬器ハ車體ノ下部ニ取付クヘキ弧狀軸ト車輪ノ心棒ニ取付クヘキ弧狀空洞管トヨリ成リ該管内ニ上記ノ弧狀軸ヲ嵌入シ軸ノ一端ハ空洞管ノ底ヲ壓スル如ク爲シ而シテ弧狀軸及管ハ車ノ前方ニ突出セルヲ以テ車體ノ重量ニテ弧狀軸ニヨリ空洞管ノ底ヲ壓シ其壓力ハ前方ニ向ヒ居レリト雖モ空洞管ノ底部ニ於ケル壓力ハ其ノ反動力ト相殺シ車ヲ前方ニ進ムルノ效果ヲ生セサルコト學理上明カナルヲ以テ本件機構ハ發明ヲ構成セス從テ審査官カ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕シタルハ不當ニアラス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月十七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波忠三郎
特許局技師 增島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第二百七十七號

東京市本郷區駒込上富士前町六十三番地
同 市日本橋區堀船町二丁目六番地特許辨理士

請求人 西常五郎
右代理人 高尾傳七

右第六〇九四號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ明治四十五年五月六日付願書番號第六〇九四四號「エス、エス

ポンプ」特許願拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上特許ス可シトノ審決ヲ求ム其理由ハ審査官ハ「サイホン」ヲ用テ石油、醬油等ヲ吸出スルコトハ既知ニ屬シ新規ノ考案ニアラスト云フト雖モ本願ハ單ニ「サイホン」ヲ用ヒテ液ヲ吸出スルコトヲ以テ發明ノ目的ト爲スモノニアラス又審査官ハ本願ニ於テハ「ゴム」球ト「ピンチコック」トヲ用テ吸液作用ヲナシム可クナシタリト雖モ同一目的ノ爲メニ唧筒ヲ附設シタル從來ノモノニ比シ何等特殊ノ效果ナシト云フト雖モ「サイホン」ニ唧筒ヲ付シタルモノニアリテハ唧子ヲ上下スル爲メニ大ナル仕事ヲ要シ且ツ唧筒其物カ「サイホン」ヲ使用スルニ當リテ無益ノ長物ト成ルノミナラス却テ妨害トナリ更ニ使用後ニ於テ器中ニ殘留セル液カ滴下シ不便尠カラス是レ自働弁ヲ有スル唧筒ニ於テ免レサル缺點ナリトス然ルニ本願ニ於テハ「ゴム」球即チ吸液器カ直ニ「サイホン」ノ一部ヲ形成シ「ピンチコック」ハ液體ノ停續調節ノ機能ヲ爲ス故ニ之カ特殊效果トシテ「唧子」ヲ上下スル從來ノモノニ比シ「ゴム」球ヲ鈕ニテ外部ヨリ壓スルノミナルカ故ニ大ニ勞力ヲ節シ得ヘシ「二片」手ニテ液ノ停續調節ヲ爲シツ、其儘液ノ出口ヲ自由ニ操縦シ得「三」吸液器カ「サイホン」利用ニ際シテ不要トナリ取扱ノ妨害トナルコトナシ「四」使用ヲ止メタル後ニ液ノ滴下スル憂ナシ「五」鈕ハ吸出管ノ外部ヨリノミ壓スルカ故ニ唧子ノ如ク液ニ觸ル、コトナキヲ以テ外部ヨリ有害物ヲ導入スル虞ナシ以上ノ如キ優秀ナル效果アルニ拘ラス漫然唧筒ヲ備フルモノトノ比較ニヨリ新規ノ發明ニアラスト査定サレタルハ不服ナリト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ抗告審判請求人ノ申立相立タスト審決相成度其理由ハ石油吸出器ニ於テ吸液作用ヲナシムルタメニ「サイホン」ニ唧筒ヲ付シ吸液作用ヲ起サシムルコトハ本願出願前已ニ公知ニ屬シ新規ノ考案ニアラス唯本願ニ於テハ同一ノ目的ニ於テ唧筒ニ代フルニ「ゴム」球及「ピンチコック」ヲ以テシタリト雖モ之カ爲メニ何等特殊ノ效果ヲ生セサルノミナラス徒ラニ取扱上ノ手數ヲ繁雜ナラシム

ルニ外ナラス要スルニ設計ノ變更ニ過キス從テ特許法第一條ニ該當セストシテ拒絕シタルハ不當ニアラスト云フニ在リ

審決ノ理由 抗告審判請求人ノ出願ニ係ル願書番號第六〇九四四號「エス、エヌ、ポンプ」特許願ハ「サイホン」管ノ一端ニ「ゴム」球及「ピンチコック」ヲ備ヘ液ヲ瓶中ヨリ吸出スルニ當リテハ「サイホン」管ノ他端ヲ瓶中ニ入レ「ゴム」球等ハ瓶中ノ液體面ヨリ下ニ垂レシメ而シテ「ゴム」球ヲ外部ヨリ壓シ潰シテ内部ノ空氣ヲ排出セシメ次ニ「ゴム」球ノ復原ニヨリテ球内ニ氣薄ヲ生セシメテ液ヲ「サイホン」ヲ通シテ吸出シ「ゴム」球ヲ通シテ液ヲ取出ス考案ニ成ルモノニシテ液體停頓ノ調節ハ「ピンチコック」ニ依リ仕遂ルモノトス然ルニ本願ト均等ナル構造ヲ有スル裝置カ在來藥品等ノ取扱ニ使用サレ居ルコトハ普通ニシテ本願出願前明治四十三年一月二十八日東京田中合名會社ノ發行シタル雜誌「化學之友」第二卷第一號第五十三頁ニ液體注出器トシテ記載セルモノ、如キハ其一ナリ故ニ本願ハ在來公知ノモノヨリ當業者ノ容易ニ推考シ得ルモノナルヲ以テ新規ナル發明ト認ムル能ハス從テ特許法第一條ニ該當セス

仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月十七日於特許局

審判長 特許局技師工學博士男爵 斯波 忠 三 郎
特 許 局 技 師 增 島 文 次 郎
特 許 局 事 務 官 田 中 鐵 二 郎

第四百二十七號

大阪府豊能郡箕面村櫻井十一號 請 求 人 宇 津 市 太 郎
東京市京橋區木挽町三丁目十二番地特許辨理士 右 代 理 人 渡 邊 庚 午 郎
大阪府西成郡鷺洲町字北浦江六百八十七番地 被 請 求 人 青 木 清 太 郎
大阪市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 右 代 理 人 淺 村 三 郎
同 市東區北濱五丁目六十三番屋敷特許辨理士 同 平 岩 義 一

右當事者間ノ第一七七四六號特許亞鉛華製造裝置權利確認審判請求事件ニ付大正元年九月三十日當局ニ於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ヲ破毀シ被抗告人ノ使用セル亞鉛華製造案ハ特許第一七七四六號ト撞着ス審判及ヒ抗告審判費用ハ被抗告人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本件特許ハ請求範圍ニ明記セル如ク燃燒爐ノ上ニ凝集室ヲ設ケ取外シ得ル蒸餾管ヲ設ケタル裝置ヲ其ノ特性トナシタルモノニシテ燃燒爐ノ上ニ凝集管ニ設ケタルハ下部ノ熱ヲ導キ下部ヨリ流入セル多量ノ空氣ト發生瓦斯ノ混和ヲ容易ナラシメ酸化容易ナラシムルニ外ナラス即チ其ノ設置ノ方法ハ此ノ裝置ニ於テ一ノ主要部ナリ而シテ取外シ得ル蒸餾管ヲ設ケタル點ハ隨意ニ臨機所置スヘキ者ナルヲ以テ必ラスシモ之ニ重キヲ置クニ足ラス原審甲第二號證ノ圖面及ヒ説明中明カナルカ如ク昇氣室即チ凝集室ト均等ナル働キヲ有スル部分ヲ加熱室ノ上部ニ設ケタルハ特許第一七七四六號ノ權利範圍ノ主要部ト撞着ス

ルモノナリ云々ト云フニ在リ

抗告審判被請求人申立ノ要領ハ請求人申立相立タス抗告審判費用ハ請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ請求人所有ノ第一七七四六號特許ノ權利範圍トスル所ハ其ノ請求範圍第一項及第二項ニ依リ明ナリ從テ請求人ハ右特定シタル構造以外ノ亞鉛華製造窯ニ對シテ何等ノ權利ヲ有セサルコト明ナリ被請求人カ實施セル裝置ハ甲第二號證ノ圖面及ヒ說明ニ示ス如ク基臺^イ、熱室^ロ、燃燒口^ハ、焙格^ニ、火焰昇リ孔^ホ、間隙^ヘ、坩堝^ト、昇氣室^チ、坩堝蓋^リ、昇氣室ノ透口^ヌ、通管^ルノ構造ヨリ成リ本件特許ノ請求範圍ニ記載セル構造ヲ具備セルモノトハ全然相異シ何等相撞着スル點ナシ然ルニ請求人ハ本件特許ニ於ケル燃燒爐ノ上ニ凝集室ヲ設ケテ取リ外シ得ル蒸餾管ヲ設ケタル裝置ヲ其ノ特性トナシタルモノニシテ其ノ凝集室ヲ設ケタルコトハ本發明ノ一要素ヲナスト主張スルモ唯凝集室ノミカ本件特許ノ要部ヲ構成スルモノニアラサルコトハ特許請求範圍ノ解釋上極メテ明白ナリ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 請求人所有ノ第一七七四六號特許ハ其ノ請求範圍ノ第一項ニ於テ突起^イ、爐蓋^ロ及ヒ反射管^スト有スル亞鉛華製造裝置トアリ又其ノ第二項ニ於テ燃燒爐ノ上ニ凝集室ト取リ外シ得ル蒸餾管ヲ設ケタル前記ノ裝置トアリ而シテ本發明ノ目的ハ不純亞鉛ヨリ純良ノ亞鉛華ヲ製造スルニ在リテ其ノ工程タル蒸餾ノ初期ニ於テ有害ナル硫黃「カドミウム」鉛等ヲ除去シ然ル後蒸餾管ヲ取リ外シ純良ナル亞鉛瓦斯ハ反射管ヲ通過シテ凝集室ニ入ルモノナリ故ニ此ノ目的ヲ達スルニ必要ナル各部分ノ結合ハ之ヲ本件特許ノ要部ト認メ得ヘキモノナリ被請求人カ實施スル甲第二號證ニ示ス亞鉛華製造窯ハ基臺^イ、燃燒口^ハ、焙格^ニ、火焰昇リ孔^ホ、間隙^ヘ、坩堝^ト、坩堝蓋^リ、昇氣室ノ透孔^ヌ、通管^ル及ヒ熱室^ロノ上ニ昇氣室ヲ設ケタル裝置ニシテ單ニ亞鉛ヲ蒸餾スルニ止リ亞鉛精製ノ目的ヲ達スルモノニアラス即チ特許第一七七四六號ハ被請求人ノ裝置ニ比スレハ二者互ニ裝置ト目的ニ於テ相異レリ然ルニ請求人

ハ其特許ノ凝集室ハ被請求人ノ使用スル裝置ノ昇氣室ト均等ナル働ヲ有シ且之ヲ加熱室ノ上部ニ設ケタルハ特許權利範圍ノ要部ト撞着スルモノナリト主張スルモ亞鉛華ノ製造裝置ニ必要ナル凝集室ヲ燃燒爐上ニ設クルカ如キハ普通ノ考案ニシテ其明細書ノ請求範圍ニ依ルモ之ヲ本件特許ノ要部トハ認メ難ク其權利範圍ニ被請求人ノ裝置カ撞着スルモノナリト云フヲ得ス
仍テ主文ノ如ク審決ス
大正二年四月十八日於特許局

- 審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
- 特許局技師 増島文次郎
- 特許局事務官 田中鐵二郎

第四百十四號

英吉利國ロンドン市ティーン、フアラト、ストリート三番

ウエットカーボナイ
ジング、リミテット

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辨理士

右代理人

ウォルター、コーツ
ウォルター、オーガス
タス、デ、ハピラノド

右第六二四八〇號特許願(煉炭製造法)拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ
主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ特許願第六二四八〇號煉炭製造法ニ對スル拒絕再査定ハ不服ニ付審判ノ上不當ナリトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ燃料乾燥ノトキ生スル蒸氣ハ常ニ不用トナシタリ而シテ「アンモニア」回收爐ハ其ノ爐瓦斯ノ熱ヲ利用シテ得タル蒸氣ト共ニ汽罐ノ蒸氣或ハ汽機ノ廢氣ヲ用ユ然レトモ此等ノ廢氣ハ泥炭或ハ褐炭乾燥ノ際生スル蒸氣ニ比ス可クモアラズ廢氣ハ不用生成物ニアラズ之ヲ凝縮シテ汽罐給水ヲ熱スルニ用キラレ技術者ニハ尙利用シ得ヘキ熱力ノ一ナリ最近數年間廢氣或ハ活氣ハ「アンモニア」回收爐ニ送ル空氣ニ混セリ此等ノ用途アルヲ以テ何人モ之ヲ眞ノ不用生成物トハ認メス同様ニ何人モ煉炭乾燥ニテ生スル蒸氣ヲ全ク不用ノ生成物トハ考ヘサリキ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ハ再査定ニ於テ説明シタルカ如ク既知ノ事實ヨリ特考ヲ要セス容易ニ爲シ得ヘキ普通ノ考案タルニ止マリ何等特殊ノ效果ヲ奏セス發明ノ價値ナシ云々ト云フニ在リ

審決ノ理由 本件第六二四八〇號特許願煉炭製造法ハ煉炭製造裝置ト「アンモニア」回收瓦斯爐トヲ併用シ煉炭製造裝置ノ乾燥器ヨリ發生スル蒸氣ヲ「アンモニア」回收瓦斯爐ニ供給シ以テ從來廢棄セラレタル蒸氣ヲ有效ニ「アンモニア」回收ニ使用シ之ニ依リ補助蒸氣ノ全部又ハ大部分ヲ節略スル方法ナルコトハ其ノ明細書ニ依リ明ナリ即チ本願ニ於テハ煉炭製造裝置ノ乾燥器ヨリ發生スル廢棄蒸氣ヲ「アンモニア」回收瓦斯發生爐ニ應用シタルニ止リ其考按ニ新規ノ點ナク又特殊ノ效果ナキモノニシテ發明ヲ構成スルモノト認メ難ク審査カ本願ニ對シ特許ヲ與フヘカラサルモノト査定シタルハ至當ナリトス
仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月二十六日於特許局

審判長 特許局技師工學博士 高山甚太郎
特許局技師 増島文次郎
特許局事務官 田中鐵二郎

第四十二號

露西亞國ウオルガ河畔アストラハン、エキスブラ
ナイヤ二十八番

請求人

イウアン、イウアノ
ウイッチコノノフ
ウオルター、オーガス
タス、デ、ハピラノド

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地特許辦理士

右代理人

右第四九〇三四號特許願拒絕再査定不服抗告審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ第四九〇三四號特許願魚類鹽漬保存方法ニ對スル明治四十二年十月三十日付ノ拒絕再査定ハ不服ニ付不當ナリトノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ再審査請求ノ不服理由書ニ述ヘタルカ如ク本方法カ在來ノ方法ト異リ撲殺後直ニ注射ヲ施スハ實ニ新規ノ發明ナリ云々ト云フニ在リ

審査官答辯ノ要領ハ請求人申立相立タストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ本願ト同一目的ニ於テ本願ノ如ク魚類撲殺後直ニ公知ノ保存液「食鹽液」ヲ其ノ體內ニ注射スルコトハ本願出願前人ノ熟知スル所「千八百七十二年英國特許第八三五號、千八百七十六年同第二四七九號、千八百六十六年同一七〇七號、千

八百八十年同第四〇六九號「ナルカ故ニ本願ハ新規ノ發明ヲ構成セス云々ト云フニ在リ
 審決ノ理由 本件第四九〇三四號特許願魚類鹽漬保存方法ハ魚類ヲ撲殺シタル後直ニ食鹽液ヲ魚類ノ體
 内ニ注射スル方法ナルコトハ其ノ明細書ニ依リ明ナリ審査官援用ノ千八百六十六年英國特許第一七〇
 七號ノ摘要ニ依レハ魚類等ヲ貯藏スル爲メ動物ヲ撲殺シ尙新鮮ナル間ニ食鹽等ヨリ成ル保存液ヲ動物
 ノ血管内ニ注射スト記載アルヲ以テ二者撲殺後長時間ヲ經過セサル間ニ注射ヲ施行スルコトハ共ニ同
 一ナリ要スルニ本件特許願ノ方法ハ前記英國特許ノ方法ニ依リ當業者ノ容易ニ推考シ得ルモノト認ム
 ルヲ以テ新規ノ發明ヲ構成セス從テ特許法第一條ニ該當セサルモノトス
 仍テ主文ノ如ク審決ス

大正二年四月三十日於特許局

審判長

特許局技師藥學博士

田原良純

特許局技師

增島文次郎

特許局事務官

田中鐵二郎

第四百三十四號

名古屋市東區京町四丁目五十八番戶

請求人

岡村平助

東京市京橋區南金六町十二番地特許辨理士

右代理人

關直彦

同 市芝區愛宕下町四丁目六番地特許辨理士

同

飯田健次郎

三重縣度會郡田丸町大字佐田九百三十八番地

被請求人

小林政太郎

東京市京橋區西紺屋町三番地特許辨理士

右代理人

岡崎正也

同 市京橋區館屋町十番地特許辨理士

同

內村達次郎

右當事者間ノ第二〇三六五號特許(柔質「オブラート」)無効審判請求事件ニ付大正元年十月十六日當局ニ
 於テ爲シタル審決ニ對シ抗告審判請求ヲ爲シタルニ依リ審決スルコト左ノ如シ

主文 抗告審判請求人申立相立タス

抗告審判費用ハ抗告審判請求人ノ負擔トス

申立ノ要領 抗告審判請求人申立ノ要領ハ原審決ハ不服ニ付被請求人申立相立タス原審及抗告審ノ費用

ハ被請求人ノ負擔トストノ審決ヲ求ム其ノ理由ハ第一、原審ノ答辯書及ヒ再答辯書ニ陳述スル如ク寒
 天ハ布海苔ト性質用途ヲ異ニシ澱粉ハ蒟蒻粉ト別物ニシテ之ヲ通同物ト云フヲ得ス又原審ハ本件二特
 許ノ資料カ本來ノ性質相異ナルコトヲ認メナカラ其ノ生成物ノ性状ニ依リ通同物ナリト斷セルハ本來
 ヲ誤マレル論旨ニシテ畢竟其ノ化學的性質ヲ利用セル發明ノ要點ヲ閑却セルモノナリ被請求人ノ製作
 物ノ如キ唾液若クハ湯水ニ遇ヒテ直チニ溶解スル如キ物ハ「オブラート」トシテ決シテ完全ノモノニア
 ラス請求人カ水ニ溶解シ難キ蒟蒻粉ト水ニ溶解シ易キ布海苔トヲ混合シタルモノハ實ニ此ノ點ニ着眼
 セルモノナリ第二、原審答辯書ニ於テ已ニ述ヘタルカ如ク請求人カ冷原料液ヲ用ヒ被請求人カ温原料
 液ヲ用フル所以ハ一ニ各資料ノ性質ノ相異セルニ基因スルモノナリ故ニ若シ彼是其ノ方法ヲ交換代用
 スルトキハ兩者等シク其ノ目的ヲ達スルコト能ハス又「乾燥」トハ單ニ物質ヨリ其ノ含メル水分ヲ發散
 セシムルノ謂ニシテ決シテ之ヲ以テ其ノ性質ヲ變化セシムルモノニアラス然レトモ「燒ク」トハ熱力ニ
 依リ物質ヲ變化セシムルモノナレハ其ノ效果固ヨリ同日ノ論ニアラス即チ此ノ方法ノ異ナル點ヨリ歸
 納スルモ請求人ノ發明カ被請求人ノ發明トハ物ノ性質ヲ利用スル思想ノ異ナルヲ明ニス第三、請求人